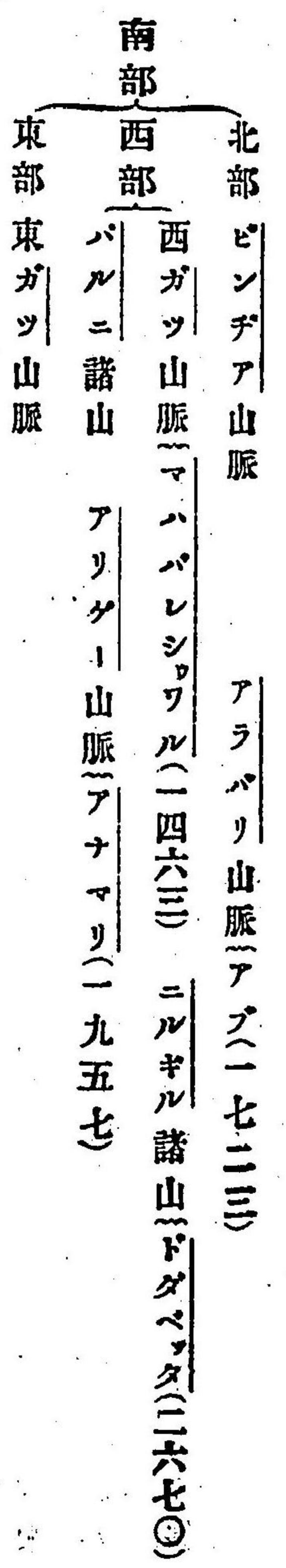
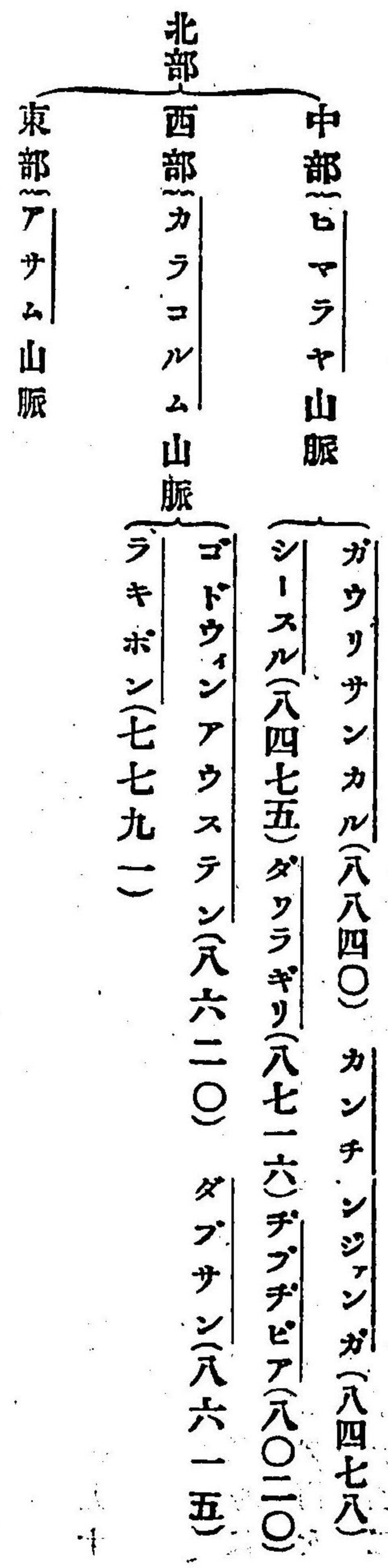


西の外洋にラカヂバ、マルヂバの二列島并に西部の沿岸にサルセト、ボンペーの島あり。

海岸 沿海の地は其の形状極めて單純にして彎曲に乏しく、一般に平低なりとす、而して海岸線の延長は一萬軒に達すれども、西岸に於て僅に二三の良港を有するのみ、本半島の海岸中、オリッサ、ゴルコンダ、コロマन्दル、マラバル等の名稱を有する所あり。

山誌 印度半島の主要なる山脈はヒマラヤ、カラコルム、アサム、ビンヂア、西ガツ、ニルギリ、東ガツ等の諸山脈なりとす。



ヒマラヤ(雪山)山脈は幅二百九十乃至三百五十軒、平均海拔五千二百乃至五千八百米突を以て東西二十五度七十度より九十五度に至る二千四百軒に亘れるが南北の二脈より成れり、其の北脈は一千六百軒の長さを以て印度と西藏との分水嶺を爲せるが西の方ナンガバルパット峰(八一六)に起りカシミルの北境を爲しヌンクン峰(七一三四)を載きドラース峠に於ては三千三百四十三米突バララチ峠に於ては四千九百廿八米突に下だりスピチの峡谷を形成しニチ越えを與へカンガ河の水源に當りて本脈の最高處たるパन्दルブンチ(八四〇六)並にイブンガミ(七七三三)ガルラマンダタ(七六九〇)の高峯を現はしマリアンラ山脈(四七二五)と分派してサトレンジとザンボとの流域を劃し東方に趣くに從ひて稍、低下するも尙ほ五千米以上に達することあり、其の南脈は西中東の三部に分たるゝが四千米

突内外の海拔を以てインド河の東方に起りカシミールの南境と對したる後世界の最高峯ガウリサンカルを始めとし八千米突以上の高嶺カンチンヂンカ、ダワラキリ、シースル等を出せり而して東方は未だ探検を経ざる所甚だ多し而して雪線は山脈の南面に於て四千六百米突、北面に於て六千一百米突を下らず又氷河數多けれどもミラムの如きは殊に名を知らる。

カラコルム山脈は其の高度ヒマラヤ山脈と伯仲し、平均海拔は五千五百米突乃至五千八百米突に達して、山岳の副王を頂き、ラキボンの基底は一千五百米突に過ぎざれば、六千餘米突の絶崖を以て、キルギド谷地の中に屹立し、比較上地球上の最高峯たり、又本山脈の雪線は北面に於て五千五百米突、南面に於ては五千六百七十米突に及び、氷河多し。

アナム山脈は三千米突以上の高岳を有し、ビンディア山脈にありては一千五百米突乃至五百米突以下に低下し、アラバリ山脈は平均六百十米突の海拔を有し、ガツ山脈は南走して愈々高く、アナマリ山はヒマラヤ山脈以南の印度に於て無比の高峯たり。

水誌 本半島の河は、ベンガル海斜面とアラビア海斜面とに屬し、大河は孰れも其の北部にあり、兩斜面の主流左の如し。

- ブラマブトラ(二五三三) ガンガ(二七〇八) プラマニ
- ベンガル斜面 マハナヂ(八三七) ゴダベリ(二四五〇) クリシヤナ(二三〇〇)
- 北ベンガル バラル 南ベンガル カウベリ(七六〇)
- アラビア斜面 インドス(三一九〇) ルニ ナルバダ(二二〇〇) マロ
- タプチ(七二四)

ブラマブトラ河は印度三大河の一なり、源はガンリ山脈の北面、北緯三十度三十分、東經八度、海拔四千八百七十七米突の地に發す、上流はヤルサンボと稱せられ、東流してヒマラヤ山脈を迂回し、一時シボン河の名を取り、西南流してアナム地方を貫き、ベンガル地方に入り、ヂムナと名を改め、數多の派流を爲す、其の一派はガンガ河のバドマに合して、メグナと稱す、共に南流してベンガル灣に注ぐ、本河は源委通じて二千五百三十三料を有し、水源より凡そ九百七十料の地に於ては、乾季の河幅四百二十七料、一秒時の排水量八百五十立方米突なり、而して支流は左岸にゾボ

ン、ロヒト(ブラマクンダ)右岸にスバンシリ等、數多あり、流域は百五十萬方籽に達し、多量の水を輸送し來るも寒冷の地、人口稀薄の土を潤すに過ぎざれば、効用は甚だ著しからず。

ガンガ河は源をイビガミンの麓、直立七千七百八十一米突の高處に發す、二派あり、其の一をアラクナンダと云ひ、其の二をバキラチと稱す、鹽地ガンゴトリ(四〇〇)の附近に於て相會し、奔流又奔流して寒地を去り暖地に赴き、山地を離れて低地のハルドワルに至れば、海拔は僅に三百十一米突に過ぎず、冬季一秒時の排水量百九十八立方米突なり、而して本河の流勢は漸緩慢となり、トアブの平野を潤して水量を減ずるも、アラハバードの近傍に於て巨大なる支流デムナを容るゝを以て幾多の疏水を分派するに拘らず、愈増大して沿岸の地をして天下無双の良耕地たらしむ、其のベナレスを流るゝ頃には九百十四米突の河幅を有し、該地を経たる後支流ガグラより多量の水を受け、ベンガル地方に入りて數多の派流に分れ、プラマブトラ河と共に廣大なる三角洲をなしてベンガル灣に注ぐ、特に末流の一派たるフーグリ(一九五)は河床沙洲の横はるに拘らず、通船の便甚だ多し、本河は源委通じて

二千七百餘籽の長さを有し、流域は九十三萬方籽に過ぎざるも、其の効用たるや絶大にして、人生を益する點より觀るときは實に世界第一の流水と稱すべし、支流にはジムナ、ソン、等の右岸より來るあり、ゴムチ、ゴグラ、ガンダク、クシ、アトリ等は左岸より會す。

マハナデ大河の強河(八三七)はマイカル山脈に發源し、流域の十一萬餘方籽以下なるに拘らず、時々多量の水を輸送し來ることあり、他の數流と共に三角洲を爲してベンガル灣に入る。

ゴダベリ河(一四五〇)は西ガツ山脈に發す、デカン半島第一の長流にして、マンデラ、プランヒタ、インドラバナ等の支流と共に三十萬方籽の農産地を潤し、三角洲をなして海に入る。

クリシナ河(一三〇〇)は一名をキストナ河と云ふ、ビマツンガ、パドラ等の支流を容れ二十四萬方籽の流域に灌漑の便を與へて、コロマンデル海岸に於て海に入る、舟運の便は僅に八十籽の間にあるのみなり。

カウベリ河(七六〇)は一にカベリ河とも云ふ、舟運の便なく、流域の小なるに拘ら

ず、マインル高原を出づるに際し、百米突の瀑布と爲すを以て名あり。

インドス河即ちシンド河は水源をチベット高原に於ける海拔六千七百餘米突の地に發し、上流八百軒はシंगाバール河と稱す、而してガコルン山脈より出づるシヨク河を合はせてインドス河と成る、上流に於ては急激なる傾斜を有するも、アトクに於てアフガニスタンより來るカブール河を受くる頃には、海拔三百米突内外の地を流れ、一時間の速度は凡そ十軒なりとす、而してサトレジ、ベアス、ラビ、チナブ、デヒラムの合流より成れるパンジ河の五河を受けて水量を増し、左にスールの沙漠を控え、インドイラン山脈の麓に沿ひて流る、下流に於ては十一派に分れて、八千方軒の三角洲を抱き、アラビア海に注ぐ、本河は三千軒の長さ、と百万方軒の流域とを有すれども、効用は遙にガンガ河の下にあり、河口附近に於ける平均排水量は十二月に一千百六十一立方米突を示せり、又支流の一なるサトレジ河は本流に比すべき巨流にして源をヒマラヤ山脈中のマナサルガル、ラクスタルの二湖に發し、峡谷の間を奔流し、平原に來りてインドス河に入る。

ナルバダ河(一二九〇)は或はネルバダ河と稱す、ピンヂア、サトブラ兩山脈の間を

流れてアラビア海に注ぐ、本河は印度人の崇拜して聖河と爲すものなれども、舟楫の便は僅に下流五十軒の間にあるに過ぎず。

沼湖には著大なるもの更になし、稍、著しきものはラジプタナのサムバル湖カシミルの山間に於けるウラール湖の外、ゴダベリ、クリシナ兩河の下流地方なるコラール湖、並に東岸のチルカ、バリカットの二湖とす。

地勢 印度半島は地勢上之を三部に分つ、即ちヒマラヤ山地、ヒンヅースタン平原、デカン高原之なり、而して現時の海水面をして假に隆昇すること三百米突なりと爲れば、ヒンヅースタンは水面以下に没すべく、換言せばデカンは一大島に變ずべし、或地質學者の説に據れば今日のデカンは舊とアフリカと連續してゴンドワナランドを爲し、が第三紀の頃に於て一大地變ありて、ヒマラヤ山脈隆起し、今のヒンヅースタン部は爲に陥落し、此處にヒマラヤ山脈を構造する岩石分解運搬せられ、インドリアフリカ大陸は一變してインドリアジア大陸と成りしものなり、而してアラバリ山脈は今其の海拔甚だ低しと雖も、往古のゴンドワナランドに於ては、現今ヒマラヤ山脈が印度半島に於けるが如きものあり、西ガツ山脈は西部に於

ける大河系を失ひて、目下其の東部にのみ長流を見るに至れるなりと云ふ、又イン
ドス河の流域に於けるスール即ち印度沙漠が一般に不毛の地なるは言を要せざ
れども、豊沃なるガンガの平原にもタライの如き濕地なきにあらず、アラビア海岸
のカチの如く時に沙漠と成り、時に沼地と爲る處もあり。

氣候 氣温に就きて述べんにヒマラヤ山脈中に於ける谷地にありては、温度は
季節、海拔緯度によりて變化し、日光を受くるの度に從ひて著しく昇降するも、其の
他の地にありては、温度の高低は南北によること少なくして、東より西に赴くに從
ひて差異を生ずるが如し、而して一月と七月との平均温度の差は、半島の南端に於
て四度に過ぎずしてマドラスの六度五分、ボンベリの六度二分、カルカタの十度九
分なるが、カルカタより西方に向ひて行けば、ペナンスの十八度五分、ラホールの一
十二度三分なり、又極寒極暑はマドラスに十七度及び四十二度にして、パンマに零
度と五十度となり。

風は六月より九月まで、南西の季候風并に南東又は南の定風ありて、北東の定風
は乾風なり、雨量はアサム、ベンガル、マラバル地方に多く、特にベンガルのチエラブン

ジにありては十二米突に達せり、又ガンガの中流并にオリッサ地方は二米突内外に
して、其の他の地は一米突以下なり、特にラジプタナ地方にありては雨量は甚だ少
なくして、一粉以下なりとす。

季候風の方向を變ずるに際しては、旋風と云ひ颶風と稱する暴風の起ることあり、沿海の地は海嘯の害を蒙り、河水は氾濫して田野を荒し、家屋を破壊し人命を傷
ふ、其の損害は甚だ大なりとす、且又日光の激烈なる、土地の濕氣をして放散せしむ
ること極めて速なれば、降雨の少なきときは忽ち乾魃となりて、毫末の收穫だも見
ること能はず、斯る場合には世は饑饉に苦しめられ、惡疫流行し幾多の人命を傷ふ、
其の悲惨の狀態は此の地に世界無比の良土なりとの佳評あるを疑はしむ。

天産 季候炎熱にして土地は極めて豊饒なれば、植物の繁茂は豫想の外に出て
動物盛に蕃殖す、即ち爬蟲には陸蛇、水蛇等あり、就中コブラチカペロは世人の知る
所なり、猫類の主要なるものを虎、豹とす、巨大の爬蟲と共に人命に危害を蒙らしむ
ること少なからず、此の外に象、犀、熊等あり、鳥類は鷹族、鸚鵡族に富み、野生の孔雀あ
り、又家畜には牛、水牛、馬、駱駝、羊等あり。

コブラデカハロ (Cobra di Caporo) 眼鏡蛇 [蛇類] は有毒蛇の一種にしてナジ属の一なり、頭部に雙眼鏡的の圖紋を有せり。

サイ犀 (Rhinoeros) [犀族] 奇蹄類に二種あり、印度に産するもの (Rhindiens) は鼻頭に一角あり、角を藥用に供し、肉脂を食料とす、皮は堅厚無比なるを以て用途多し。

植物は綠樹叢藪として各地に森林をなす、竹、籐は各處に茂生して廣大なる土地を蔽ふ、樹木の中にはココヤシ、コリン、菩提樹、チーク、黒檀等あり、果樹にはバナナ、アナン、ス、柑、葡萄等あり、其の他米、麥、蜀黍、木綿、蔗、黃蔗、煙草、藍草、罌粟等あり。

ココヤシ (椰子) (Cocos nucifera) 棕櫚科は濕潤の地殊に沿海の地に多し、果實を始めとし、葉根、樹根等何れも用途あり。

コリン (Corypha) 棕櫚科には數種あり、木材、果實等を種々の用に供するが殊に Umbrauliera の葉は文字を刻記するに用ひらるゝを以て名あり。

ボタインシ 菩提樹 (Ficus religiosa) [桑科] は氣根を下ろし、一樹にて一小林をなすに至る、木材を指物、寄木細工等に用ふ。

ツナン 黃麻 (Corchorus Capsularis) [田麻科] は一にカナビキヲと云ふ、纖維はジレットと稱せられ、其の質粗硬にしてツグ、綱繩等に用ひらる。

ケシ 罌粟 (御米花、白罌子) (Papaver sumniferum) [罌粟科] は印度、ペルシア、トルコ、エジプト等にて栽培せられ、或は鴉片を製し、或は油を搾るに用ふ、鴉片は罌粟の子房の嫩らかなるとき、之より乳狀の白液を收めて製す。

沿革 今より凡そ四千年前アリア人の一部はパンジブに移り、後漸、ヒンヅースタンを占領せしが、當時數多の部落ありて未だ統一せざりしに似たり、既にしてアレクサンドル王侵入 (四世紀元前三) して西中の二印度を風靡し、次てチャンドラグプタはパータリプトラ (今のパ) を國都とし、マガダ國にマウリヤ朝 (前三一六) を建て、北印度、中印度、西印度を領し、以て印度の百十八國に覇たり、然るにマウリヤ朝の後サンガ、カーンバ兩朝を経て、マガザ國は亡び、南印度に起れるアンドラ朝 (前三〇) は中印度、南印度を併せたり、先之北印度に移りし塞種は西印度をも服し、大月氏之に代りてギリシア、ハリバグトリア王國を建て (前一三) し、カニシカ王の死後、其の國

勢次第に印度に振はず、アンドラ朝漸く衰ふるや、カニヤークブシジヤ(今のカニヤ)を國都とせるグプタ朝(後三七一〇)は遂に威を全印度に振ひしが、麻哩其の西北印度を奪ひ、更に北印度なるウジアーナ國のシテチタ二世(六六五〇?)の世、又全印度に君臨したり、然るに王の死後、印度復分裂し、ガズニ王家のマームード印度に攻め入り(一〇一〇)て、カノウヂヤよりグジュラトに至るヒンヅースタンを領し、ゴール家(一一五二)之に次て北印度、中印度等を取り、クタブウヂンはデリーに奴隸王朝(一二九〇)を創めて、ヒンヅースタンを領せしが、元兵の侵掠を蒙りて此の王朝も亡び、キジル家(一二九〇)に至りて、アラウヂンなるもの殆ど全印度を統一せんとせしも、果さず、ギアースウヂン、デリーにトグラク王朝(一四三〇)を興し、デガンにはゾアフル、バリーマニ朝(一四三二)を建てしも、(國都はケルナル、カイ、ウランガル)後五國(一四八八)に分れ、五國聯合してビヂヤナガル國(一五八八)を滅せり、而してトグラク朝はチムレンク(一四八八)の侵入(九八三)によりて大に勢を失ひしが、サイド朝(一四四一)、ロヂ朝(一四五〇)、(部は後ア)相次で起ることとなり、チムレンクの裔バーベル、ムガル帝國(一五二六)を建て、(ケラニ)其の曾孫アウラングゼブ(一七〇五)の時に至り、殆ど印度を一統せしが、

死後復國勢衰へ、マラーッタ同盟(一七六五)の勢威は十八世紀の中葉に至りて、殆ど全半島に及べり。

却説ヨーロッパにては十五世紀の頃、遠洋航海の風盛に起り、バスコダガマ先づ印度に達し(一四九八)、ポルトガルはゴアを占領(一五〇五)することとなり、イギリス(一六〇六)、フランス(一六四二)等の東印度商會は成立し、ヨーロッパ諸國はムガル帝國の衰運に乗じて、各計畫する所あり、而してイギリスは今のマドラス(一六三九)、ボンベ(一六六六)、カルカッタ(一七五七)を、フランスはボンヂシ(一七四六)を得しが、兩國遂に衝突し、ブラッシーの戦(一七五七)の後、フランス人の勢頗る衰へしに反し、イギリス人は着々印度の經營を試み、ムガル帝國を保護國(一七四八)とし、印度の殆ど全部を従へ(一七六〇)、虚名を有せるマホメト帝國を滅し(一七六八)、東印度商會の政權を本國の手に移し(一七八八)、女皇ビクトリアは印度女帝の稱を取るに至れり(一八七六)

人口。印度半島に住する人類の總數は、凡そ二億九千萬にして、一方、糶に就き、約八十人の割合なるが、幾派の種族より成れるかは、明瞭ならず、今茲に主要なるものゝみを擧げんに、黒種にダシウス、ムレチアスの二種族あり、共に最舊の土民にして、現

時は至りて其の數少なくデカン半島の深山幽谷に棲居せり、黄種には二派あり其の一はチベットより來れるものなるべし、名づけてドラービダ種族と云ひ分れてタムール、マラバル、テレニガスツルバス、カルナトと成り、共に亦デカンに居住せり其の二はツラン地方より移住したるものにして、名づけてジャー種族と云ひ、インドス河とビンディア山脈との間に居る、此の外、回教徒中にも此の種に屬するもの少なからず、白種に屬する種族にて最も舊きものをアリアとす、アリア人はカブール地方より來侵して、先住者たる劣等の民族を征服したりと雖も其の數多からざるが爲め、他の種族と混同して遂に純種は消滅せり、而して近世に至りポルトガル人、オランダ人、フランス人、イギリス人は、南方より渡航し來りて政權を掌握したり

宗教 宗派は錯雜にして悉く列擧し難きを以て最も著しきもののみを掲げんにヒンド教即ち新バラモン教は信徒甚だ多くして、其の數二億七百萬に近く、佛教は勢力微弱にして信徒僅に三十萬内外なり、マホメト教徒は稍多くして六千一百万に餘れり、基督信者は主としてヨーロッパ人若しくは雜種ウラジヤ人なるが總數

は二百八十萬に達せず、此の他に二百二十萬のシク教徒あり、百三十餘萬のジャイナ(禪那)信者、九萬餘のバリシス、二萬弱のユダヤ教徒、八百六十萬足らずの拜物者あり、其の他は宗派不明なりとす。

言語 印度に於て用ひらるる言語は凡そ百二十種あり、其の中廣く行はるるはヒンド語にして、八千五百六十八萬人の使用する所となれり、之に次ぐはベンガル(四一三四)、テルグ(一九八九)、マラーチ(一八八九)、パンジビ(一七七二)、タミル(一五二三)、グジュラチ(一〇六二)等にして、孰れも一千萬人以上の使用者あり、而してイギリス語は政事上若しくは上流社會に用ひらる。

風俗 人情風俗の土地によりて差異あるは勿論なれども、印度の住民中に於ける社交的階級の如く顯著なるものは少なし、社交上最高級を占むるものはブラマヌス即ちバラモン教の僧侶なりとす、之に次ぐはクシトリアス即ち軍人にして、アリア、ジャーラジプト等の各種族に屬せり、之に次ぎてバイシヤス即ち平民あり、ツラン種族に屬し、地主又は商賈たり、其の下にあるはスードラ即ち役夫にして、黒種と黄種との雜種なるが、概ね勞力を以て世を渡り、上流の人の爲めに使役せらる、又

スードラの下に居るものをパリアス即ち奴隸とす、此等四階級中、僧侶、軍人を貴族とし、スードラ、パリアスを卑族とす、而してパシアスの如きは中間にありて平族たり、以上は印度の種姓に關する通常の説なれども、是れ重きを古書に置き過ぎたるものと云はざるべからず、目下印度に於ける種姓の數は舊に三四に止まらずして、殆ど無數なりと稱し得べく、マイソル地方にては四百十三を數へベンガル地方にては一千以上に達し、相接する二地方のブラマン僧にして互に交際するを忌み、又所謂最上級の人民にして漁業、牧業、農業等を營むが如きことありて存す。要するに社交上階級思想の存するは事實なるも地勢、種族、生業勢力等に基づきて複雑を極むる住民の現出せしめたりと爲すを以て至當なりとす。

分國 廣大なる印度半島に於て稍獨立の體を備ふるは、僅にネパール、ブータンの二小國あるのみにして、其の他はイギリス、ポルトガル、フランスの三國に屬し、イギリスは實に本半島の大部を領有せり。

| 領國 | 地積 | 人口 | 疎密 |
|------|-------------------------|--------------------------|-----------------|
| ネパール | 一五、四〇〇、〇〇〇 ^カ | 三〇〇、〇〇〇、〇〇〇 ^人 | 一九 ^人 |

| | | | |
|-------|----------|-------------|-----|
| ブータン | 三、四〇〇〇 | 二五、〇〇〇〇 | 七 |
| イギリス | 三六一、〇〇〇〇 | 二、八三〇、〇〇〇〇 | 七八 |
| ポルトガル | 三六五八 | 五七、二二九〇 | 一五六 |
| フランス | 五〇九 | 二七、三一八五 | 五四五 |
| 合計 | 三八〇、二一六七 | 二、八七〇、九五四七五 | 七六 |

獨立國

其一 ブータン

ブータン(不丹) ネト ア フ ン ト の 説 に し は ロー (Hill) と 自 稱 す、東ヒマラヤ山脈に據り、北緯二十六度四十五分、同二十八度東經八十九度、同九十二度の間に位し、北西より東はチベットと境し、其の他はイギリス印度のアサム、シキム等に接す、東西二百六十、南幅百五十、北に近く、面積三萬四千方、山岳はチマラリ(七三〇〇)、チアラ(六九二五)等の高峰に富み、河はブラマプトラの支流なるマナス、ガッダバル等を著しきものとす、國の中部には良林あり、氣候は高谷の地に嚴寒を覺ゆれども、中地は溫暖

にして低地にありては酷熱に苦めらる。

二〇八

人口は二十五萬ありて多數は蒙古種チベット一派に屬し、一部は印度種のベンガ
リ一派に屬せり、言語はチベット語を用ひ、宗教は佛教を奉ず、抑ブータン當初の住民
はカッチベハールより來れるテフ人なりしが、二百年前チベット兵の爲に征服せられ、
一千八百四十一年及び六十五年に於て地をイギリスに割さしかば、今日の如き地
域に退縮せしなり、政治上其の組織はチベットに類し、デブラヂァーは少數の有力者に
よりて選舉せられ以て俗界を支配し、精神界の長たるダラマラヂァーは化身により
て幼時に選ばれ、前者は六人、後者は十二人の顧問を有す。

畜産には牛、馬、豚等ありて、農産には米、大麥、柑等あり、印度との貿易は穀類、果物、紙
類等を賣りて織物、香料、器具等を購入するにあり。

タシチオン即ちヂァシイチウジオンはチンチヤ河に沿ひ、夏季の首府なり、七層城あ
り、ダラマラヂァー及びデブラヂァーの居所なり。フナカは冬季の首府にしてブキ
河畔に建てり。

其二 ネパール

ネパール國は中央ヒマラヤ山脈に據り、北緯二十六度二十五分、同三十度十七分、
東經八十度六分、同八十八度十四分の間に位し、北はチベットに、其の他はイギリス領
印度と接す、即ち東はシキム、南はバハール、ウード、西はクマオンと境し、長さ八百
幅の平均二百四十軒ありて、面積十五萬四千方軒に達す、山岳にはガウリサンカル
ダワラキリ等あり、河にはクルナリ、ガンダク、コシ等あり。

此の國は山脈の斜面にあるを以て、領土の大ならざるに拘らず、氣候は各處一様
ならず、低地は炎熱に失し、高地は寒冷に苦めども、所謂テライの地方は比較的温和
なり、さればネパールの動植物は各帶固有の種類を集めしが如き奇觀あり、銅、鐵、硫
黃の産出も亦見る所なり。

今のネパール地方にはネパール等幾多の蠻民の部落ありしが、グルカ部遂に勢
を得(一七)後清朝に降れり(一七)既にして又イギリスと戦ひ(一八五〇)爾來イギリス
の官吏は首府に駐在し、支那の主權の振はざる今日もネパールは尙ほ同國に多少
の貢物を致し、近來五年に一回の例となれり。

人口は三百萬と稱せられ、ヒンド教のグルハ人あり、佛教のネワール人あり、其の他

に尙ほ小種族、雜種族あり、言語は蒙古、ベルシア、アラビア等の諸語より成れるウル
ツ語を主とすれども、バルバッチ、ネウアリ等の土語を用ふるもの少なからず、政
治に就きては世襲の王マハラヂ、デラーあれども、實權は重臣の手にありて、武斷的
寡頭政治の國なり、而して清國との關係は全然消滅せず、又イギリス駐在官は少許
の兵を率ふれども、敢て内政に干渉することなし、常備軍の數は凡そ二萬六千あり
て、數門の巨砲を有せり、主要輸出品は家畜皮革、藥品、樹脂、黃麻等にして、印度に對す
る輸出高は、二百六十二萬、ルピーに近し。

首府カトマンヅ(五、〇〇〇)は、バグマチ、ビシヌマチ兩河の會點、海拔、一千三百
二十七米突の地にあり、寺院極めて多し、バタン(四、〇〇〇)は舊都の地にして市街
の異様なるを奇とす、バトガオンも亦寺院の夥多なるを以て知らる。

イギリス領印度

政治^〇 印度半島は僅少なる部分を除くの外、悉くイギリス帝國の版圖に屬して、
印度帝國の主要部を爲せり、ロンドンにある印度事務省は十人以上の議員を有す

る評議會に依りて補助せられ、カルカッタに駐在する總督即ち副王はイギリス皇帝
によりて親任せられ、又之を代表して各般の政務を管理す、而して總督補佐の任に
當るものに總督會議、立法會議あり、總督會議は内務、外務、財務、軍務、土木、租稅、農務、法
制の七局より成りて政務を分理し、高等法衙はロンドンにありて最終の裁斷を與
ふ、地方には知事、副知事、委員長、管理官、駐在官等を置きて、各其の地の行政を司らし
む。

本領地には直轄地と保護地との二種あり、其の直轄地は大別して若干の州とし、
各州は更に縣、郡に細分せらる、而してマドラス、ボンベ、北西諸州の知事或は副知
事は其の他の諸州の長官と權限に於て異なる所あり、三管區たる舊稱は依然とし
てベンガル、マドラス、ボンベの三州に適用せらる、保護地には凡そ百の小邦あり、
等しく總督の管理に屬せり、之等の諸國と印度政府との關係は其の規を一にせざ
る所あれども、一般に各邦はイギリス派遣官の保護忠告の下に、其の君主政治を行
ひ、宣戰媾和、國外に使節を發すること、規定以上の兵を設くること等を禁ぜられた
り、而して必ず歲貢を致さるべからざる邦國もあれども、又然らざるものあり。

今印度半島内に於けるイギリス領の地を列記するに當り、印度帝國に屬する他の面積、人口等をも記すこととせり。

| 地名 | 面積 | 人口 | 疎密 | 長官名 | 首府 |
|---------|----------------------|------------------------|-----|-----|---------|
| 印度帝國 | 四八六、〇〇〇 ^カ | 二、九五二、五〇〇 ^人 | 六四 | | |
| 州(直轄地) | 二八六、六六五 | 二、三一九〇、一一二七 | 八一 | | |
| ベンガル | 三九、一五五三 | 七四七、四八六六 | 一九一 | 副知事 | カルカッタ |
| 北西諸州 | 二七、七五四三 | 四七六、九一七八 | 一七九 | 同 | アラハバード |
| パンジブ | 二五、一七六一 | 二〇三、〇三三九 | 八一 | 同 | ラホル、シムラ |
| 北西國境州 | 四、二六四五 | 二、二五四八〇 | 五〇 | 管理官 | |
| ベルチスタン | 一一、二六二八 | 三〇、八二四六 | 三 | 委員長 | ケッタ |
| アジミルメラワ | 七〇二一 | 四七、六九一二 | 六八 | 同 | |
| ボンベ | 三一、八五一六 | 一八五、五五八七 | 五八 | 知事 | ボンベ |
| アデン | 二〇七 | 四、三九七四 | 二二二 | | |
| 中央諸州 | 二二、四三二一 | 九八七、六六四六 | 四四 | 委員長 | ナグプル |

| | | | | | |
|---------|----------|-----------|-----|-----|---------|
| ペラル | 四、五八六七 | 二七五、四〇一六 | 六〇 | 駐在官 | ハイデラバード |
| クールグ | 四〇九七 | 一八、〇六〇七 | 四四 | 委員長 | ブーナ |
| マドラス | 三六、七〇五五 | 三八二〇、九四三六 | 一〇四 | 知事 | マドラス |
| アサム | 一四、五六六四 | 六一二、六三三三 | 四二 | 委員長 | ウタカムンド |
| バルマ | 六六、三五一八 | 一〇四九、二二四四 | 一六 | 副知事 | シロング |
| アングマン | 八二五七 | 二、四六四九 | 三 | | ラングン |
| 保護地 | 一七五、九五五六 | 六二四六、一五四九 | 三六 | | |
| ベンガル諸國 | 一〇、〇一〇五 | 三七四、八五四四 | 三七 | | |
| 北西州諸國 | 一、三一五四 | 八〇、二〇九七 | 六一 | | |
| カシミル | 二〇、九五二二 | 二九〇、五五七八 | 一四 | 駐在官 | スリナガル |
| パンジブ諸國 | 九、四六一四 | 四四二、四三九八 | 四六 | | |
| ベルチスタン | 二二、四〇五四 | 五〇、二五〇〇 | 二 | 派遣官 | |
| ラジプタナ諸國 | 三三、〇三二八 | 九七二、三三〇一 | 二九 | 派遣官 | |
| ボンベ諸國 | 一七、〇三二四 | 六九〇、八六四八 | 四〇 | | |

世界地理 あじあ洲 イギリス領印度

| | | | | | |
|---------|----------|------------|-----|-----|---------|
| パロダ | 二、〇九七五 | 一九五、二六九二 | 九三 | 派遣官 | パロダ |
| 中央印度諸國 | 二〇、四〇一 | 八六二、八七八一 | 四二 | 同 | |
| 中央諸州諸國 | 七、六二三四 | 一九九、六三八三 | 二六 | 駐在官 | |
| ハイダラバード | 二一、四一七九 | 一一一、四、一一四二 | 五二 | 駐在官 | ハイダラバード |
| マイソル | 七、六二五七 | 五、五三、九三九九 | 七二 | | マイソル |
| マドラス諸國 | 二、五八一九 | 四一八、八〇八六 | 一六二 | | |
| 其他 | 二、三、三七七九 | 八五、二〇〇〇 | 三 | | |
| 印度領地 | 一八、九九〇〇 | 七〇、〇〇〇〇 | 四 | | |
| アデン屬地 | 四、三八七九 | 一五、二〇〇〇 | 三 | | |

兵備は土地の廣大なるに比して甚だ微弱なるが如きも、是主として印度人の制御し易きに因らざればならず、陸兵は二十二萬にして其の中土人は十五萬あり、全軍分れてパンジヤ、ベンガル、マドラス、ボンベールの四軍となり、各地の要所に駐屯せり又、兵艦は十六隻ありて噸數は二萬なり。

財政は歳入に十一億五千三百萬ルピーありて、歳出に十一億一千二百萬ルピーあり、歳入は鐵道、地租、食鹽、阿片、國產等に關するものを以て主とし、歳出には鐵道、軍事、民政、收税等の費目あり、國債の高は三十二億ルピーを超過せり。

生業。印度は運河、貯水池、等灌漑の便頗る備はり、住民の殆ど三分の二は農を業とし、農業は主要なる生産力なり、農産物には米(北東部)、黍(デカン、インダスの流域)、茶(アッサム)、珈琲(西ガ)、烟草(アームダバード)、罌粟(マトナ地方)、藍(パル)あり、亞麻、黄麻、實綿あり、殊に實綿はボンベールの北東ナルパダ河左岸の黒土地方を主とし、クリシナ河の右岸地方、ヒンヅ

istan等にて産す、牧業は牛、水牛、驢、羊、駱駝、象等を飼養し、専ら力役に使用す、本業はインドス河の下流地方に於て盛なり、鑛業は石炭、鐵、銅、岩鹽、硝石等を採收す、鑛業は熟皮毛布、カシミヤ毛被、敷物、飾具、土器、形器等を製出す、其の他製紙、製絲、紡績、ビール醸造、造船等の漸次に隆盛に赴くあり、貿易の状況に就きて記述せんに、其の全計は二十四億ルピーを超過し、次第に進歩する傾あり。

| | | | |
|----|------------|------------|------------|
| 年次 | 一九〇〇—〇一 | 一九〇一—〇二 | 一九〇二—〇三 |
| 輸入 | 九二七、四一四 | 一〇、一一六、七三三 | 一〇、四〇、四三六 |
| 輸出 | 一一、四八、四三、四 | 一三、二九、二七、四 | 一三、七六、二六、三 |

全 計 二〇、七五八四、八 二三、四〇八四、七 二四、一六六九、九

次に五大港に於ける最近三年間の貿易高を一表に作れば左の如し。

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 年 次 | 一八九九—一九〇〇 | 一九〇〇—〇一 | 一九〇一—〇二 |
| カルカッタ | 七、九二三九 | 八、六〇一八 | 八、六三〇八 |
| ボンベイ | 五、六四六八 | 五、三四六三 | 六、六一二六 |
| マドラス | 九、六五三 | 一、一〇〇九 | 一、〇五一〇 |
| カラチ | 一、〇五五〇 | 七、八七九 | 一、五二九八 |
| ツチコリン | 二〇、四四 | 二、四六八 | 二、六二〇 |

而して一九〇二—〇三年間の主要なる輸出入品を示せば、輸入に綿布類(三〇四百萬、ルビー)、金屬(一〇〇)、砂糖(五〇)、油(三七)、機械類(二八)、食料(二八)、衣服(一八)、飲料(一八)、化學品(一六)等あり、輸出に米(一八九)、種子(二四九)、實綿(一四八)、線綿(一〇〇)、黃麻(一一)、精製黃麻(九〇)、皮革(八四)、阿片(八〇)、茶(七四)、小麥(四五)等あり、輸入先はイギリス、ベルギー、ロシア、オーストリア、ハンガリー、海峽殖民地、清國、ドイツ、マウリチアス等を主とし、輸出先にイギリス、清國、ドイツ、フランス、アメリカ合衆國、エジプト、日本等を主とす。

次に貿易に従事する船舶の出入を表示すれば、

| 旗 章 | 入 | | 出 | |
|---------|----------------------|----------------|----------------|------------------------|
| | 隻 數 | 噸 數 | 隻 數 | 噸 數 |
| イギリス | 二、一三八 | 四、三三四、四六一八 | 二、一一九 | 四、三三二、〇五八二 |
| 印度、イギリス | 八、四四 | 一一、八八一六 | 八、三〇 | 一一、〇三四一 |
| 外 國 | 六、七九 | 九、六、二〇六八 | 六、二五 | 九、四、八一二六 |
| 土 民 | 九〇〇 | 五、六一三九 | 九、五四 | 五、五八七〇 |
| 全 計 | 一、九〇二—〇三 一、九〇一—〇二 | 四、五六一 四、四九五 | 四、五二八 四、一一八 | 五、四四、四九一九 四、六六、九七七八 |

交通に關しては、道路は主要なる都會を連絡し、其の延長六萬三千軒を下らざるべし、鐵道は一千八百五十四年に創設せられ、現今四萬一千七百七十七軒あり、内三萬

一千六百六十軒は官設四千七百一十一軒は私設五千一百九十七軒は土民國線百十九軒は外國人の所有に屬せり而して之等の鐵道はカルカタ、ベシワル、カラチ、ボンベ、マドラス、カリコ等の間に通ず郵便は四萬二千七百四十七局及び函を設けて二千七十六萬ルーピーを收入し、一千九百十七萬ルーピーを支出す、電線には二千六局停車場附設ありて線路は五萬五千八百二十七軒線條延長は三十萬七千餘軒あり、電話の線長は三千二百七十三軒あり、航河は一萬六千軒を下らず、灌漑運輸の便を與ふる運河は其の主要なるもの二萬一千軒を超ゆべく、ガンガ運河の長さは主流七百八軒支流四千三百十三軒に達し、シルヒンド運河は八百六十六軒の主流と七千四百六十一軒の支流とを有す。

處誌 本領土の町村の數は七十萬以上に達し、其の中十萬以上の人口を有する都會は二十九あり、而して保護地の大部はベンガル、北西諸州、ベンジヤ、中央諸州、マドラス、ボンベ等の諸州に屬するを以て、主として之等の諸州に就きて述ぶる所あらんとす。

カルカタ 北緯二八度二三分はカリカタとも云ふ、ベンガル州の首府たるのみな

らず同時に印度帝國の首都たり、市街は一千六百八十六年創設せられ、ガンガ河の一派なるフーダリ河に沿ひ、河口を去ること百三十軒に近く、人口百三萬に及べる大都會となれり、然れどもヨーロッパ人并にウラジヤ人は孰れも數萬に過ぎず、其の他は凡べて土民なりとす、本府の自衛には宮殿官衙多く頗る美觀を呈すれども、黒街は土人の居住地なるを以て見るに足るものなし、土地は一般に平低にして濕潤に失し、飲料水に乏しく、至りて不健康なるが、特に夏季にありては惡疫流行するの恐あるを以て、行政府を始とし、高官富豪は悉くヒマラヤ山地のシムラに避遁するを常とせり、生業に就きては黃麻製品、紙等の産あり、物貨の集散盛に行はれ、商船の出入多し、ホーラー(二五、〇〇〇)はフーダリ河を隔て、カルカタと對し、商業行はる、ブラッシーはパーチラ河に沿ひ、カルカタの北方に位す、一千七百五十七年クライプが勝戦せし所なり、ムルシダバードもパーチラ河畔に位し、象牙彫刻、繡、絹布の産あり、ダイシリンはシキムの境に近く、海拔二千八百八十二米突の地にある避暑地たり、ツムロンはシキム國の首府なり、バトナ(一三、〇〇〇)はアシマバードとも云ひ、往古のパータリプトラなり、ガンガ、シン、ガンダク三河の會する所に建ちて交

近上の便を有し、阿片の製造行はれ、米穀取引の中心たり、ガヤ(七、二八八)はベトネの南方に當り、近傍のブダガヤは釋迦の墓あるを以て名を知らる、ダルバンガはパトナの北東に當り、商業盛なり、カタク(四、九〇〇)はマハナチ河の下流にあり、金銀絲細工を産す、ダカ(九、〇〇〇)はブラマブトラの一支ブリガンガに臨み、モスリンを以て聞えし所なり。

シロンはアサムの政廳のある所なり、シルヘト、カチルはブラマブトラの支流に沿ひ、産茶地の中心に位す、マニプルはアサムに於ける一保護國の首府なり。

アラハバード(一七、二〇〇)は北西諸州の首府たり、ガンガ、ジムナ二流の相會する地に近くして交通の要阨に當り、將來盛大なるべき望あり、綿、砂糖、藍を集散す、ミルザプル(八、〇〇〇)は樹脂、敷物を産す、ベナレス(二一、〇〇〇)はバナラス、或はバナラスと稱し、亦ガンガ河に沿へり、此の地はロンド教徒の聖地にして一千四百五十餘の寺院を有し、巡禮者の數は十萬に及ぶ、黄銅器、玩具品の産あり、ファイザバード(七、五〇〇)はゴグラ河畔の商業地なり、カンプル(一九、七〇〇)はガンガの流に臨み、一千八百五十七年土兵の虐殺を以て名あり、ラクナオ(二六、四〇〇)はガンガの

支流グムチ河の畔にあり、市街は宮殿、洋屋等ありて稍、美觀を呈すれども、土製の小屋多數にして印度市街の特徴を現はせり、金銀、襪、モスリンを産し、商業繁榮す、アグラ(二八、〇〇〇)はムーガル帝國の首都たりしことあり、宮殿、寺院等を存し、商業上の要地たり、シャーシ、ジャンプル(七、六〇〇)はアグラの北東に當り、砂糖を産す、パレリ(一三、一〇〇)は當今稍、衰微せり、ラムプル(七、八〇〇)はコシラ河に沿ひ一保護國の首府なり、ムラダバード(七、五〇〇)はラムガンガの岸にあり、金屬細工を以て聞ゆ、ミーラト(一一、八〇〇)は一千八百五十七年土兵の憤起せし所にして、兵要の區たり、ハルドワルはガンガ河が始めてヒンヅ、リスタンに入る所に位す、ヒンド教徒の聖地にして、巡禮の數三十萬に達する處ありと云ふ。

ラホル(三〇、三〇〇)はパンジブ州の首府なり、ラビ河に近く位し、交通の要地たり、アムリツァール即ちウムリツァール(一六、二〇〇)はラホルの北東に位し、北印度に於ける商工業の中心地の一にして、シク、人の聖地たり、シムラはヒマラヤ山脈の南面、海拔二千四百三十五米突に位する避暑地なり、デリー(二〇、八〇〇)はデル、ハイとも云ふ、ジムナ河に瀕し、歴史上著名の地にして、往昔マホメット、教帝國の都たりし

ことあり、ジョージアの建立せる宮殿寺院等存し、商工業盛にして交通の要區に當り、市街繁華なり、ムルタン(八、七〇〇〇)はチナブ河に近き所にあり、絹布、綿布、敷物を産し、商業見るべきものあり、ラワルピンデ(八、七〇〇〇)は北西部に於ける軍事上の要地たり、アフガニスタン、カシミルに對する通過貿易活潑なりとす、ベシヤル(九、五〇〇〇)はベシヤルとも云ふ、カイベル峠の入口に近くして、軍事上甚だ樞要の地とす、スリナガル(二、二〇〇〇)はセリナグル、カシミルとも稱せらる、カシミル國の首府にして、シラム河に沿ひ、氣候溫和、風景絶佳なり、此の地は肩掛の産を以て世に聞えたり。

バハワルプルは同名の一國の首府なるが、サトレンジ河に沿へり、ピカニル、ジドプル(六、〇〇〇〇)、ジブプル(一六、〇〇〇〇)、バルドポールは孰れもラジプタナ諸國にありて、夫々國名を現はす都會なり、アジミル(七、四〇〇〇)はアラバリ山脈地方に於ける、イギリス領の首府なり。

ボンベの良港はボンベ州の首府にして、人口の饒多なる商業の繁盛なる、實にカルカッタと伯仲せる都會なり、市街は一小島の南東部に建ち、住民は七十八萬ありて、ヨーロッパ人は多からざるが、其の多くはポルトガル人の子孫とす、又港は長さ

二十三軒、幅八軒の間に船舶の碇繋するを許し、質綿、米、鴉片、小麦等の輸出大に行はれ、紡績、造船等の工業漸次盛に行はれ、ボンベ島の近傍にサルセツト、エレハンタの二嶼あり、地下寺院を以て名ある、マラト(二、二〇〇〇〇)はタプチ河に沿へる港なりと雖も、今日は商業更に振はざるが如し、パロダ(一〇、三〇〇〇)は國名の保護國にあり、商業稍見るべし、アーメダバードはサバルマチ河に臨み、マホメット教の舊寺少なからず、絹布、綿紙等を産す、カラチ(一、六〇〇〇)はバルチスタンの國境に近き海港なり、パンジブ地方の物産を集散し、目下盛運に向ひつゝあり、ハイデラバード(六、八〇〇〇)は、インドス河の下流に近く、多少の工藝品を産す、プーナ(一五、三〇〇〇)はボンベの南東、海拔五百六十三米突の地にあり、氣候佳良なれば、ボンベ州夏季の首府たり、シラプル(七、五〇〇〇)はプーナの南東に位する商業地なり、プブリ(六、〇〇〇)はシラプルの南南西に位し綿を集散す。

ナグプル即ちナグポール(二、七〇〇〇)は中央諸州の首府にして、商業の一中心たり、ジブプル(九、〇〇〇〇)は一にジブプルと稱せられ、ナルバダ河の上流地方

に位し、亦商業地たり、ハイデラバード(四五、〇〇〇)は或はハイデラバード、ニザム王國と稱せらるゝ國の首府にして、デカンに於ける最大都會なり、シム河に沿ひ主要なる商業地の一たり、近傍のゴルコンダは金剛石を産せしを以て名を知らる。

マドラス(五一、〇〇〇)は同名の州の首府なり、コロマンデル海岸に建ち、美麗なる白街と粗造なる黒街とに分れ、氣候炎熱、港灣不良なれども、新埠頭、風浪防禦の功以來、商業殊に隆昌なり、マスリバタム、コリンガは孰れもマドラス以北に位する小海港なり、トリチノポリ(一〇、四〇〇)はカペリ河の下流に沿ひ、烟草、寶石を産す、タンジールは尙ほ下流にありて、絹布、寶石を産す、ナガバタナムは同河の三角洲に於ける海港なり、マツラ(一〇、五〇〇)は内地南部の一都會なり、ツチコリンはマナル海の一港たり、ウタカムンド即ちウタカムニはニルキル諸山中、海拔二千二百三米突に位する避暑地なり、カリコ(七、七〇〇)はコリコイヅの名あり、マラバル海岸の港にして、バスコダガマ海路始めて印度に到着せし所とす。

マイソル(六、九〇〇)は一保護國の首都なり、バンガロー(一六、〇〇〇)はマイソルの北東、海拔九百米突の地にあり、天氣常に快晴にして、頗る人生に適せり、トリバ

ンドラムはトラバンコル國の首府にして、港を有し、コモリン岬を去ること遠からず。

ポルトガル領印度

ポルトガル人は他のヨーロッパ人に先ちて本半島に來り、各地に於て殖民事業に従事し、一時は隆盛を極めしが、其の後次第に衰へて、今は僅にゴア、ダマン、ヂウを保有するに過ぎず、面積は三千六百餘方浬にして、人口は五十七萬餘なり。

| 地名 | 面積 | 人口 | 疎密 |
|-----|------|---------|-----|
| ゴア | 三二七〇 | 四九、四八三六 | 一五一 |
| ダマン | 三八三 | 六、四二四八 | 一六八 |
| ヂウ | 四、八 | 一、三二〇八 | — |
| 合計 | 三六五八 | 五七、二二九〇 | 一五六 |

而してポルトガル政府はゴアに總督を置き、其の他に知事を置き、管理の任に當らしむ、財政に就きては歳入に九十五萬、ミルレイス、歳出に百七萬、ミルレイスあり。

貿易は輸入に一四七〇五三、ルビー輸出に四、八九九四あり、鐵路は八十二杆、郵便局は三十四ヶ處、電信線は九十五杆あり。

ゴア ゴアは北緯十四度五十四分、同十五度四十五分、東經七十三度四十五分、同七十四度二十六分に位し、地勢丘陵多く、米、木材の産あり、ノバゴア即ちパンジンはマハナチ河口を溯ること五杆に位し、一千七百五十九年以來、ポルトガル領印度の首都たり、舊ゴアは一千五百年アルプケルクによりて占領せられ、盛時にありては二十餘萬の人口を有せしも、今は椰子樹の綠陰に跡を留むるに過ぎず、宣教師サビエルの墓あり。

ダマン ダマンはカンベリ灣の南東岸にありて二部に分る、其のナガルハベリは一千五百五十八年に、其のダマン本部は一千七百八十年に占領せられたり、而してダマンの港はダマンガンガ河の口にあり。

ヂウ ヂウはグジュラット半島の南に於けるヂウ島の東端に位し、港を有す、本島は長十一杆、幅三杆ありて、一千五百三十五年以來、ポルトガルに屬す。

フランス領印度

フランス人はポルトガル人、オランダ人に次ぎて此の地に來り、十八世紀の前半にありては其の勢力偉大なりしが、一千七百六十三年以來は頓に衰へ、目下唯其の遺物を見るに過ぎず、現時の領地はシアンデルナゴル、カリカル、マヘ、ボンヂシユリ、ヤナオン、の五箇所にて、面積五百九方杆、人口二十七萬餘あるのみなり。

| 地名 | 地積 | 人口 | 疎密 |
|----------|-------|---------|-----|
| ボンヂシユリ | 二九〇、七 | 〃 | 〃 |
| カリカル | 一三五、二 | 〃 | 〃 |
| マヘ | 五九、一 | 〃 | 〃 |
| ヤナオン | 一四、三 | 〃 | 〃 |
| シアンデルナゴル | 九、四 | 〃 | 〃 |
| 合計 | 五〇九 | 二七、三一八五 | 五四五 |

フランス政府はボンヂシユリに知事を置き、他の四箇所に事務官を設けて、民政の

事并に貿易の事を管理せしむ。

ボンデシヨリー ボンデシヨリーは南ベンガル河の口を去ること遠からず、フランス領印度の主要部をなし、油料種子の輸出あり、此の地にフランスが始めて殖民せしは一千六百七十三年なり。

カリカル カリカルはカベリ河の三角洲にあり、米の取引活潑なり。

マヘ マヘはマラバル海岸にありて、カリコの北北西に當れり。

ヤナオン ヤナオンはゴダベリ河の口に近く位し、イギリス領の地を以て合圖せらる。

シヤンデルナゴル シヤンデルナゴルの白檀はフグリ河に沿ひ、カルカタの上流三十ニ軒にあり、一千六百七十三年に建設せられ、一時カルカタと勢を競ひしことあり。

其二 セイロン島

境域 セイロン島即ちセイラン島は印度半島の南東にありて、ブルク海峡、マナル海を北西に控へ、其の他は印度洋に面せり、長さ四百四十六軒、幅二百三十五軒、面積六萬六千方軒に近し。

海岸 本島の海岸線は單純にして良港に乏しく、天然的大港はガール、トリンコマリに過ぎず、ブルク海峡、マナル海は共に水淺くして、低き珊瑚礁及び砂灘はアダムスプリデをなせり。

土地 本島の内部は山岳少なからず、ペドロタラガラ(二五三八)、キリガルボタ(二三八〇)、トラベラ(二三五三)、アダム(二二四九)の諸山ありて、ヌワラエリヤ臺地は一千八百九十三米突に達す、而して山岳は主として片麻岩より成れり、河流は巨大ならざれども其の數乏しからず、其の中ヌワラエリヤ臺地に起りて、北東に流る、マハピラガンガ最も著しく、カラニガンガ、カラガンガ、マハオヤは西岸に注ぐ。

氣候 低地にありては酷熱に苦み、コロンボに於ける年平均温度は二十六度なりと雖も、海拔一千乃至一千五百米突の地にありては、温暖にして適當の季節多く、恰も長春にあるが如し、又本島の雨量は北西南東の地方を除けば、一米突五より、二米突の所多く、二米突乃至四米突の地も少なしとせず。

天産 本島の天産は印度半島と相似る所少なくして、反りて遠隔の地たるマダガスカル島に類するの點甚だ多し、動物には猿、熊、豹、水牛、象、鱒魚等あり、植物には茶

珊瑚、コリア、規那、肉桂、烏木等あり、礦物は黒鉛及びルビー、青玉、猫眼石等の寶玉、鐵、滿俺等を産す。

沿革 ランカ即ち今のセイロンがラマに征せられしはラマヤナの傳ふる所なるが、西曆紀元前六世紀の中葉、ピヂヤなるもの亦印度より來りて王國を建てたり、而して本島の主權はマラバル人の手に移りしことありしも(紀元前二〇三七)其の後土地の王家との争絶えずして、ポルトガル人の征服(一七五)する所となり、ポルトガル人はオランダ人に追はれ(一八六)遂にイギリスは全く本島を領するに至れり(一八五)人誌 本島に居住する住民は其の數三百五十六萬餘ありて一方料に付き平均五十四人となる、住民の多數はシンハル人にして、タミル人、ムール人、カンヂー人の外、多少の雜種人、ヤライ人、ヨーロッパ人等あり、中央の山地に徘徊せるベダ人は蒙昧なる野蠻人なるが、本島最舊の住民なるが如し、又シンハル人はマリ語に近きアトリア語を用ふ、島名セイロンはシンハル人の地の意なり、教育には見るべきものあり、宗教はヒンド教、マホメド教、基督教行はるれども、佛教徒殊に多く、佛教は阿育王の子マヒンダによりて傳へられたり(前七三)。

政誌 本島はイギリス本國の直轄に屬し、知事は行政立法の二會議の補助によりて、全島の施政を司れり、地方は五州に分る、兵備に就きては四千餘の兵あれども、獨立せる海軍を有せず、財政は歳入に二千七百二十萬、ルビー、歳出に二千六百三十四萬、ルビーあり。

生業 生業は未だ充分の發達を見ざれども、農業は盛にして茶、珈琲、肉桂、椰子油、烟草、コリア、規那等を産し、牧畜は牛、山羊、羊等を與ふ、又鑛産には黒鉛、寶石あり、水産には眞珠あり、貿易は一億九百四十七萬、ルビーを輸入し、一億一千九十九萬、ルビーを輸出し、茶、キノ、カカオ、コリア類、黒鉛、檳榔子、を主要輸出品とす、鐵路は五百九十二軒、電信線は二千三百十四軒、商船は百九十三隻、一萬五千五百六十九噸あり。

處誌 コロンボ(一六、〇〇〇) 北緯六度五五分、東經七十九度五五分 はセイロンの首府にして、本島

第一の要港たり、船舶の出入少ならず、カンヂー(二、七〇〇)はコロンボの北東、海抜五百七米突の地にあり、舊とシンハル人の國都とせし所なり、ポイントダール(三、七〇〇)は島の南西岸に於ける良港なり、トリンコマリは北東岸の良港にして、印度洋に於けるイギリス艦隊の根據地なり、アヌラダブラの舊都は其の西方に當

● パミル高原

本高原は世界の屋棟と稱せらるゝ高地にして、清、印度、アフガニスタン、ロシアの間に介在し従来イギリス、ロシアの争地たりしが、最近の條約によりて境界は劃定せられたるが如し、此の高原の面積は十萬方籽を下らず、平均海拔は四千乃至四千四百米突に達し、山岳にタガルマ(七八六〇)、チチチミル(七五〇〇)、カウフマン(七〇〇〇)あり、ヤルカンド、アムの諸河は此處に發し、カラクル湖は海拔四千米突に位す、氣候寒暑甚しく、生物稀なるが、夙に商賈旅行家の通過する所となれり。

パミル高原の南、カブルの東、ヒンヅークシ山脈の東に於ける五萬方籽の地方をカフリスタンと云ひ、其の東并に北東に於ける山地をダルチスタンと稱す、共にイギリスが所領と唱ふる所なり。

イラン高原

境域 〇 イラン高原はカフカズ、カスピ海、中央アジアを北に控へ、東にインドスの平原あり、南はアラビア海、オマーン海、ペルシア灣に臨み、西はアジアトルコに隣す、面積二百十萬方籽ありて、廣袤は二千五百籽に一千四百籽なり。

海岸 〇 海岸線の延長は凡そ三千五百籽ありて、著しき出入なく、海峡にオルムスあり、岬嶺にグアゼル(ラスヌー)、ジラスク、ラスボスタナあり、島嶼はキシム最も大にして、此の外、ララク、オルムス、ケイシヤ(ケン)あり。

山誌 〇 イラン高原の北部にはヒンヅークシ、パロバミンス(クローイバ)、コベト、エルブールスの諸山脈あり、東にはスレイマン山脈、ハラ(ブラフイ)山脈あり、西より南に亘りてザグロス(南ペルシア)山脈あり、之等の山脈を以て包圍せる地は高原をなし、内都には數條の山脈あれども顯著なるもの少なし。

北部

| | |
|----------|-------------|
| ヒンヅークシ山脈 | チラチミル(七五〇〇) |
| パロバミンス山脈 | |
| コベトダグ山脈 | |
| エルブールス山脈 | デマベンド(五六二八) |
| アルメニア山麓 | ザバラン(四五四四) |
| | カラダグ |
| | セヘンド |

世界地理 あじあ洲 イラン高原

南部 ザグロス山脈 エルバンド(三二七〇) ウショツランク クイイデナ
(五二〇〇) ジブルブーケン(三二三〇)

東部 スレイマン山脈 ビルグル(三五六〇) タクトイスレイマン(三三八〇)
ブラフイ山脈 クイムラン(三六五〇)

ヒンヅークシ山脈はパミル高原の南西部より西に走ること五百八十七杆、ヒマ
ラヤ山脈と異なりて北面に急斜せり、而して之を横ぎる道路は北東部に於けるバ
ロギル最も著はれ、ヌクサン、カワク、イラク等も名を知らる、本山脈と連絡を有する
ものにチルバンドイトルキスタン、サフエドコー、シフコー等の山脈ありて、コヘトダ
グはカフカズと接続せるが如し。

エルブールス山脈はカスピ海の南岸に沿ひ、イラン高原の多くの山脈に於て見
るが如く、北西―南東の方向を取り、長さ七百二十四杆あり、最高峯デマバンドは消
火山なり。

ザグロス山脈は正しく北西より南東に走れる數派の並行山脈より成り、フシット
イクレー、グーデナル、クールド等名を知らる。

水誌 イラン高原は著大なる河流を有せず、而して海洋に注水するものあり、内
地の湖沼に入るものあり、或は沙漠に流失するものあり、之等を分ちて三斜面に屬
せしめ、各主流を掲げて一表を作れり。

アラル||カスピ海斜面
アム ムルガブ ヘリルド(八〇五) アトレク(五六三) セフィドルド
アラス

印度洋斜面
カブル(四三五) ダシット カルン(四一八) ケルカー

閉塞地
ヘルメンド(一〇九四) カシャルド フアラールド ハルド
ヘリルド河はハリルド河とも稱せらる、ヒンヅークシ山脈中、海拔二千八百九十
六米突の地に發し、下流は數派に分れて消失す、支流にテジンドあり。
アトレク河はカシアンに近き海拔一千八百三十九米突の地に起りて西方に向ひ、
カスピ海の南東岸に其の排水口を有す。

セフィルド河即ちキシルウズン河は本高原北西部の主流なるが、亦カスピ海に注ぐ。

カブル河はサルイチヌマに發し、カブルの市を過ぎ、アトクに於てインドス河に會す。

カルン河はゼンドク山脈に發し、シヌスターに至りて南に轉じ、アビイガルガル、アビイシテイトの二流となりて流れ、アワズの急流を過ぎ、モハマラー附近にて二派に分れ、一派は直にベルシア灣に入るも、他派はシトエルアラブ河に合す。カルンは源委通じて四百二十軒に達せざるも、本高原唯一とも稱すべき航河なり、支流の主なるものはアブイバズフト、アブイホルス、アブイヂズ等とす。

ヘルメンド河はヘルムンド河とも云ひ、閉塞地の巨流なり、水源はブグマン山脈の西側にあり、アルガンダブ、タルナク、ドリの如き支流を合せてハムン沼に注ぎ、冬季の外水量少なし。

沼湖は東部にアビスタダ、ハムウン、西部にニリス(バクテガン)、ウルミアありて、一般に鹹性なり。

ハムウン即ちサイスタン湖は寧ろ沼と稱すべきものにして、季節により其の面積を異にし、今日に於ては頗る縮少せり、ヘルメンド、カシルド、フラーイルド、ハルドの諸河を受く。

ウルミア湖は海拔一千二百八十九米突に位し、長さ百四十五軒、幅四十軒、平均水深二米突に達せず、シガツ等の河流之に注げども、亦排水口を有せずして鹹味強く、湖中島嶼少なしとせず。

地勢[○] イランは三角形に近き高原をなし、平地の海拔は六百五十乃至三十米突にして平均は一千二百米突なり、而してダシトイカビル、ルト、其の他の沙漠不毛の地多く、人生に利用すべき所少なきに似たり。

氣候[○] イランの氣候は甚だ大陸的なり、沿海の地に屹立せる山脈は海洋より來れる濕氣を遮るを以て、内部にありては天氣常に乾燥にして、木星附屬の衛星を肉眼にて觀るを得べしと云ふ、雨量に就きては高原の大部は二十軒を受けずして中部には十五軒に達せざる所あり、氣温に就きては一般に酷烈にして、七月の平均温度は三十四度に達する所あるを見る、又一月に於ては、十八度より八度の間にある。

地多きを占む。

天産 動物には豹、狼、ハイエナ、獅子等の野獸あり、馬、駱駝、猫等の家畜あり、殊に珍奇とせらるゝは形狀大さともに兎に類する *Uromastix lizard* なり、植物は水量に不足なき地方に於て、大麥、小麥等の穀類、棗、椰子、葡萄等の果物類を産し、エルブール山脈には森林あり、鑛物は乏しからざるべきも未だ充分なる産出を見ず。

人誌 人口は一千五百餘萬ありと稱せられ、一方糶に付き僅に六人の割合なり、種族は白種に屬するもの多けれども亦黃種も存し、東部は西部に比して種族の數多し、又其の信ずる所の宗教は拜火教、基督教、ユダヤ教等なきにあらざれども、主として行はるゝはマホメット教にして、一般に云へば西部にはシート派、東部にはスンニ派の教徒あり、兩マホメット信者の間和らかならず、今左に本高原の主要なる種族を示す。

| 白種 | |
|------|-----------|
| アフリカ | アフガン |
| ギブシー | バルチ |
| アラビア | タジク(ペルシア) |
| ユダヤ | クルド |
| | トル |
| | インドキ |
| | アルメニア |
| | ワキ |

| 黃種 | |
|------|-------|
| 蒙古 | アマアク |
| トルコ | トルコマン |
| ウスベグ | キシルバシ |
| プラフイ | |

分國 伊朗高原はロシア及びイギリスの領地と境を接し、兩國の南進或は北侵に關し、重大なる關係を有する所なり、此の地方を分ちてアフガニスタン、ペルチスタン、ペルシアの三となすも、前二者はイギリスの勢力の下にありと稱すべく、眞の獨立國は唯一あるのみ。

| 部 | 地名 | | 地積 | 人口 | 疎密 |
|----|---------|--------|----------|-----------|----|
| | 東 | 西 | | | |
| 東部 | パルチスタン | | 三四、二七〇〇 | 一〇五、〇〇〇〇 | 三 |
| 西部 | アフガニスタン | ペルチスタン | 五五、八〇〇〇 | 五〇〇、〇〇〇〇 | 七 |
| 合計 | | | 二五四、五七〇〇 | 一五〇五、〇〇〇〇 | 六 |

境域。バルチスタン人の地は、バルチスタンとも稱す、北はアフガニスタンに接し、東は印度に連り、南はアラビア海に面し、西はヘルシアと境す、面積三十四萬餘方
 糶あり、海岸線は凡一千一百糶なるべきも、顯著なる出入なし。

土地。此の地はハラ山脈等南北に走り、ウシチ等の并山脈東西に連りて高臺をなし、北に傾きて沙漠をなす、河にはタシットの外、常に流水を運ぶもの殆どなく、マシキドの如きは内地の沙漠に流失す。

氣候。寒暑酷烈にして高地と雖も夏は炎熱、炙くが如く、殊に海岸地方に於て三月に五十度五を示せることあり、冬は數月の間低地に雪を見ることあり、空氣はアフガニスタンに比し、多少濕潤なるに似たり。

天産。動物は野獸に豹、狼、ハイエナ、アンチロペ等あり、獅子、虎も存せざるにあらず、家畜には羊、山羊、駱駝、馬あり、有用鑛物の埋藏は確實なり。

人口。人口は一百五萬ありて、一方糶平均三人の割合なり、種族はプラフイ、バルチ

チあり、スニト派のマホメット教を信じ、前者は此の地の大部を占む、此の外、ギブシの一種なるルリ人あり、ヘルシア人の子孫は、デールと稱せらる、之等の人民の住する地は概ね確確にして、水利ある所には農作物の栽培行はれども、産物には乏し。

政誌。バルチスタンはイギリスに屬す、詳言すれば十二萬方糶、三十一萬人は印度帝國の直轄に屬し、二十二萬方糶、五十萬人は保護を受く、此の保護部はケラット諸國、ラスベラ國、半獨立部に分れ、ケラット諸國に長たるカン即ち君主は一千八百七十六年の條約によりて、イギリスより毎歲十萬、ルービーを受く、而して、カンは之が報酬としてイギリスに特別なる保護を與へざるべからざるのみならず、如何なる國とも直接の關係を有する能はず。

處誌。ケラット即ちカラット、北緯二八度五三分は名義上バルチスタンの首都にして、カンの夏季の信地たり、冬季の居地はガンダバと云ふ、シビはシントルビシン鐵道に沿ひ、ダツルと共に有名なるポラン峙に近し、ケタはポラン峙の要隘の地にして、一千八百七十七年イギリス之を占領し、イギリスバルチスタンの首府たる觀あり、ソムミナニは海岸東部の小港なり、グアダルは西部海岸の港にして、電線の中繼

所たり。

アフガニスタン

境域 アフガニスタン人の地は北はロシア東はイギリス領の地と接し南はバルチスタン西はペルシアと境す面積五十五萬方分に餘れり。

土地 ヒンズーシバロバミス等の諸山脈連亘して山岳に富みアム、ムルガブ、ヘリルドの諸流は北にありカブル河は東に向ひヘルメンドカシルド、フアラールド、ハルドの諸河はハムン湖に終り地勢三方に傾けり而して湖沼には尙ほアビスダグありてガズニ河を受く。

氣候 空氣乾燥にして大陸的なりハムン湖の北方に於けるフアラールにては高温の爲めに鶏卵固まると稱せられ海拔二千米突に近きカブルは夏季の温度三十二度二乃至三十七度八に達するに冬季は水流堅く凍り駱駝をして通行せしむと云ふ此の如くなれどもアフガニスタンは一般に健康地たり。

天産 動物には豹、狼、ハイエナ、熊、アンチロペの如き野獸、駱駝、羊、馬の如き家畜あり

り植物には米、麥、豆、苧麻、阿魏、果物等あり、礦物は種々存在するものゝ如し。

タウゴマ「苧麻」(Ricinus Communis)「大戟科」は暖地に栽培せらる。果實の仁より油を搾取して下劑に用ふ。

アキ「阿魏」(Ferula asaeoides)「繖形科」は其の樹脂を藥料に供す。

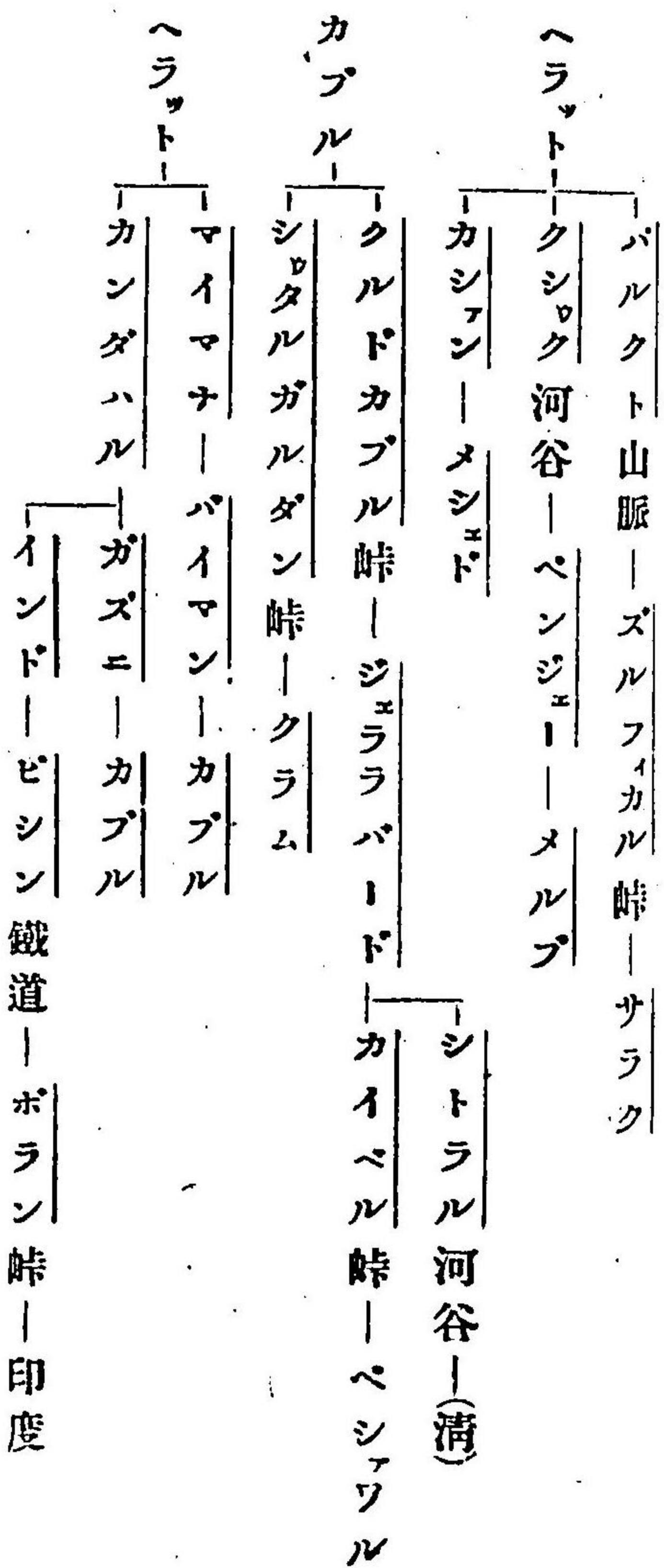
人誌 人口は五百萬あれば一方籽平均七人の割合となり、本高原の三地方中最も稠密なり、種族は地名に用ひられたるアフガンの外、タジク、ヒンドキ、ジャト、キジル、パシ、ハザラー等あり、宗教はスンニ派の「モヘメット教」を奉ずるもの多く、ワキ人、拜火教を信じ、其の數三千と概算せらる。

沿革 アフガニスタンはゾラニ朝の時ペルシアより獨立(四七)せしものなり、此の地方は印度と中央アジアとの通路に當れるを以て、トルキスタンの瘠地より、印度の豊野に出でんには、道を此處に借らざるを得ず、是古來アフガニスタンが幾多の侵略を蒙りし所以ならん、今の世に於けるも、ロシア人は、季候風地方に達する道を此の方面に求めつゝあるを以て、イギリス人は、咽喉鎖鑰の地を占領して、強敵の進路を遮断せんことを勉め、兩國の委員は遂にアフガニスタンの北境問題を解決

せり(一八八七)。

政治 國體は君主專治にして君主をエミールと稱す然れども其の實はイギリスの屬地の如く、エミールは印度政府より毎歲十八萬ルービーを受け交通上の要地はイギリス人の占居に係れり、兵備は四萬四千の士卒と三百六十門の砲とを有す。

生業 アフガニスタンの國土は概して山地に屬し、平均海拔は一千二百米突に達すれども、肥沃の地はヘラット、カブル河の谷、カンダハル等此處彼處に存して耕耘に適し、毎歲二回の收穫あるを常とし、農産物は近隣の諸國に輸出するの餘裕あり、住民の多數は遊牧に従事す、貿易はカブル、カンダハルと印度との間に行はるゝのみならず、又プハラに對する輸出入も稍著しとす、道路は概して險惡なるも、イギリス人の建造に係るベシワル、カブル間は容易に車馬を通ずるを得而して貨物の運搬には駱駝を用ふるを常とす、因に云ふアフガニスタン地方に於ける必要なる時はカイベル、クルドカブル、グラム、ベイワル、シタルガルダン、ゴムル、コジャク等なり、又主要なる商路は左の如し。



處誌 カブル(七、五〇〇)北緯三四度三〇分はアフガニスタンの首府なり、國の北東部、海拔一千九百米突の地にありて交通の要路に當り、通過貿易盛なり、ガズニはギズニ、或はガズナとも云ふ、マームード帝國の首都なりし所なり、カンダハル(五、〇〇〇)はガズニの南西、海拔一千六十二米突の地に位し、交通商業上重きを置かるゝ所とす、ヘラット(五、〇〇〇)はヘリルド河の谷にありて、重要なる商路に當る、バルクは古のバクトリアにして、西アジア最舊の都會とす、マザルイシェルフはアフガ

ニスタン領トルキスタンの首府なり。

ペルシア

境域。ペルシア即ちイランは大高原の西部を占め、北はコペッタハ山脈、アトルク河カスピ海、アラス河等によりてロシアと境し、東はアフガニスタン、ベルチスタンに隣り、南はアラビア海、オマーン海、ペルシア灣に瀕し、西はアジアトルコに接す、長さ二千二百餘軒あり、幅一千四百軒に達し、面積百六十五萬方軒に近し、

海岸。北部の海岸線は延長五百軒あり、南部の海岸線は二千軒あるも、亦顯著なる岬角港灣を缺き、チャバル灣、ジブスカ港(イギリス領)、ブーシル港、オルムス海峽等は海部に就きて、ラスマンダミ岬、マスケ岬、ラスケラジ岬、ラスボスタナ岬は陸部に關して肥し得べし、又島嶼にはキシム(ダウララの別稱あり、西岸の)、ララク、オルムス、ケイシロ(ケン)シイク、シアイブ(プシエブ)あり。

山誌。國內主要の山脈は北にエルブールス山脈ありて、最高峯をデマベンドと云ふ、此の山脈はサバラン、カラタグ、セヘンド等の諸山と連絡す、南にはザグロス山

脈ありて、エルベンド、クローイデナ、ジブルブクン等を含めり、之等の山脈を以て境せる内部の地は高原をなし、九百米突乃至一千五百米突の地到る處に多く、大鹹少漠、ケルマン沙漠と稱する部分あり。

水誌。河流は其の數至りて少なく、印度洋斜面にアビシャル、ブレスクタフ、カルンケルカーあり、カスピ海斜面にアトレク、セフイド、アラサあり、閉塞地にジガツ、カラス(ハマダグ、ナルド)、ザインダグ、クルド(ベンダミル)等あるに過ぎず、就中カルン名を附し得べきものは、北部のウルミア湖あるのみ。

氣候。氣候は極めて乾燥にして、湿度の平均は僅に十四五度に過ぎず、されど天氣は常に快晴なれば、行星の光は陰影を生ずと云ふ、又電氣は勢を逞しうして、夜間紙片を裂けば、乍ち電光の發するを見るべし、氣温の變化は激烈にして、數時間に七度より六十二度に上昇することあり、日光に曝せば七十二度の高温を得と云ふ。

天産。動物に獅子、虎、豹、ハイエナ、狼等の野獸、其の他鳥類、魚類等の産あり、而してペルシアは荒蕪不毛の地多けれども、灌漑の利ある地は其だ肥沃にして、米、麥、烟草

糧粟、實綿を産し、果樹には桃、櫻、葡萄、柑類等あり、鑛物は鐵、銅、鉛、石炭、硫黃、鹽を産す。

沿革。イラン高原の西部には往古メデア國(前五六〇)ありしが、キロス之を亡ぼして、アケメニード朝のペルシア帝國(前三五八)を興し、オキソス、インドスの兩河より、地中海に至るまでを領せり、然るに其の後アレクサンドル王、セリウコス家、バルチア國の支配を経、復たササン朝のペルシア帝國(後六四一)建ち、國亡びてサラセン、セルジャク、クハレズム、蒙古、チムルレンク等に屬し、更にスフィ王朝(一七三六)の君臨する所となり、國亂れてナデルシャーはペルシア王(一七三七)となり、其の後アガマホメットによりて建設せられたるガジアル王朝は、一千七百九十五年より連續して、今日に至れり、而して十九世紀に於て、アルメニアはロシアに征せられ(一七八)、イギリスとの間にも交戦ありき(一八五七)

人誌。人口は八百萬人あり、一方料に付き平均五人の割合なり、而して遊牧人の數は二百五十萬なるべし、種族はタジク人即ちペルシア人(五五〇)、トルコ人、トルコマン人(一五〇)、クルド人(一〇〇)、アラビヤ人(五〇)、アルメニア人の外、キプシ、レク、ジ、ト、アマク、ハザラ、キジルバシ等あり、宗教はマホメット教のシイト派最も行はれ

グブルー即ち拜日宗に屬するものは僅に八千あり、基督教徒は二十萬を超えざるべし、教育は稍改良せられ、語學、理學、技術等を授くる専門學校あり、普通教育は頗る行はる、然れども住民の大部はマホメット教の經典を學ぶに過ぎず。

生業。國土の大部は不毛の地に屬すれども、住民の多くは農業、牧業に従事す、農業は米、大麥、小麥等の穀類、葡萄、無花果等の果物及び罌粟、藍、烟草、綿等の栽培行はれ、灌漑の方法に就きては、一種の地下水道なるカレスあり、牧業は馬、騾、駱駝等を飼養す、工藝は多少の製品を興へざるにあらずして、絹布、綿布、毛布、兵器等の産あり、貿易は交通の不便と資本の缺乏とによりて、充分發達せざるが、全計は四億四千九百十七萬クランにして、輸出は一億五千六十萬クランあり、主としてロシア、イギリスと取引を行ひ、果物、葡萄、オルモンド、實綿、阿片、米、毛氈等を主要輸出品とす、而して貿易に従事する商港はカスピ海にエンゼリ、マシアド、イサルあり、ペルシヤ海方面に左の四港あり。

| 港名 | 取引 | | 高 | | 入 | | 船 | |
|------|-------|---|--------|---|-----|---------|---|---|
| | 輸 | 入 | 輸 | 出 | 隻 | 噸 | 數 | 噸 |
| モハマラ | 一二三四九 | 九 | 一四、二八三 | 三 | 一二八 | 一三三、一五九 | | |

世界地理 아시아 洲 北シヤ 二四九

| | | | | |
|----------|----------|----------|------|---------|
| ブシール | 一一七、九九九六 | 三四、八二〇二 | 七四三 | 一七、四七九二 |
| リング | 八七、二七六一 | 八二、四〇二八 | 四八四 | 一三、〇五七五 |
| ベンデルアッバス | 三九、九二九一 | 九、七三三一 | 三〇五 | 一七、六五七〇 |
| 合計 | 二五七、五四九七 | 一四一、六八四四 | 一六六〇 | 六一、五〇九六 |

二五〇

交通に關しては、ロシア人の建設せるテヘラン、レシット間の外は極めて不完備にして、山岳地方の驟平原地方の駱駝は實に商品の運搬者たり、鐵道の如きも其の延長僅に十三軒に過ぎず、商船は二隻一千百八十七噸に止まれり、郵便には百六局電信には一萬四千四百二十軒の線條ありて、國內の主要都會を連絡し、一方はカフカズの架空線、一方はベルシア灣の海底電線によりて、ヨーロッパ或は印度に通ず、
處誌 テヘラン(二八、〇〇〇) 北緯三五度四一分 東經五一度二五分はテヘランとも云ふ、王國の首府にしてデマベンド山の麓に位す、夏季はシヤアを始とし、グラハク等の近傍の山中に避暑するもの數萬あり、ライはラグスの舊趾なり、首府を南に去ること遠からず、クムは聖地なり、カラス河の一支に沿へり、ハマダン(三二、五〇〇)は其の西方に當り、メジアの舊都エクバタナに相當すと云ふ、ゲルマンシヤ即ちキルマンシヤ(三二、二

〇〇〇)はケルカイ河の上流に近し、敷物、兵器の産あり、カシアン(三三、〇〇〇)はクムの南東に當り、織物、銅器を製す、イスバハン(八、〇〇〇)はイスファハンとも云ふ、センデルド河畔、海拔一千四百五十米突の地にあり、大アバスの舊都とす、イズド(五、五〇〇)は一にヤズドと唱ふ國の中心に近く、位して數商路此處に交はり、絹布、綿布の産あり、チズフル(三〇、〇〇〇)はデスフルとも云ひ、カルン河畔に建つ、南西のシズ又シシはベルシア帝國の舊都たりしスーサなり、モハンメラはカルンの下流に沿ひ、將來有望の港なり、ブシールは或はアブシール、アブシールと稱せられ、リンガール、バシール、アバスと共に、ベルシア灣の海港なり、シラズ(三二、〇〇〇)はブシールの東北東、海拔一千三百五十米突の地に位す、ベルシアの極樂地の一とせられし所にして、目下商業稍、見るべきものあり、ベルセポリスの舊趾は此の地を距ること遠からず、ケルマン即ちキルマン(七、〇〇〇)は内地の南東部にあり、敷物を産す、カズウィン(四〇、〇〇〇)は首府の北西に位する商業地なり、タブリーズ(二〇、〇〇〇)はテブリーズ、タリスと稱せらるゝことあり、ウルミア湖の附近(海拔一千五百米突に位し、交通の要路に當りて、商業の要地たり、レシット)ラシヤ(四、〇〇〇)バルフラシヤ、アストラ

バードは孰れもカスピ海の岸に近かく、夫、エンゼリ、マシアドイサル、バンドルイグスの港と相俟ちて、商業に従事す、メシエド(七〇〇〇〇)は別稱をマシアドと云ひ、北東部の商業地なるが、イマンレザの墓處を有し、毎歲參詣するもの多し。

アジアトルコ

境域 アジアトルコはアジアの西部にあり、北東はロシアのカフカズに接し、東はベルシアに鄰し、南はアラビアに連り、西は地中海、エーゲ海に臨み、北はダーダネルス海峽、マルマラ海、ボスポロス海峽、黒海に瀕せり、面積は約百八十四万方呎に達し、ベルシア灣及び紅海の海岸に於けるアラビアの地を含むも、今は主としてベルシアアカバ兩灣以北に就きて記さんとす。

海部 海岸線の延長は稍、長けれども、灣港はエーゲ海、地中海沿岸の地に著しくして、ミチレネ、スミルナ、サモス、コス、マクリ、アダリア、アレクサンドレッタ(イスケンドラン)、エーカー、等あり、殊にスミルナ、アダリア、アレクサンドレッタの三を以て主要なるものとす、又海峽にはボスポロス(コンスタンチノブル)、ダーダネルスあり、孰れも

マルマラ海と通ず。

陸部 半島には小アジア(アナトリア)ありて、幾多の小半島之より出て、地角にインジエアルン、パバ、チェリドニア、アナムル、カンシル、カルメルあり、島嶼に就きては黒海岸には一も存せず、マルマラ海、地中海には極めて少なけれども、後者にはアジアトルコの最大島横たはり、エーゲ海には頗る多く存するを見る。

マルマラ海 マルマラ島

エーゲ海 ミチレネ島 ブサラ島 キオ島 サモス島 ニカリア島

カリムノ島 コス島 ニシロ島 チロ島 シミ島 ロドス島

地中海 キプロス島

山誌 アジアトルコの地はエルズルム山地、アナトリア(小アジア)臺地、チアルベクル高地、メソポタミア平地、シリア并ニアラビアの一部より成りて、地勢上調和單一の性を缺けり、然れども、山脈の趨勢は錯綜を極むるに拘らず、概して二つの山系に屬し、其の一は北西より起りて南東に赴き、其の二は南西に起りて北東に進めり、而してシリア、パレスチナの山脈は別に一系をなして南北に走れり、今左に主要な

る山岳に就きて一表を作らん。

| | | | |
|--------------|---------------|------------|---------------|
| エルズルム ム臺地 | タンヅレク(三五八三) | アラダグ(三五四八) | シバンダグ(三六〇〇) |
| | ビンゴルダハ(三七五二) | ニムラドダハ | |
| | アガダグ(ボントス)山脈 | | |
| | アンチタウルス山脈 | | |
| アナトリ ア臺地 | メトデシス(三四七七) | タクラー(三〇〇〇) | |
| | タウルス山脈 | ヘイダハ(三一五〇) | アブランオグル(三二〇〇) |
| | アルジェー(エルジシダハ) | アクダハ(三〇三〇) | |
| チアルベキル高地 | カラヂ(二五〇〇) | ジヂ山脈 | |
| シリア、パレスチナ | アンチリバノン山脈 | リバノン山脈 | |

山地と平地との分布は均一ならずして、低地は 般に南東部と沿海の地とに存す、今左に主要なる高低に就きて述べん。

エルズルム臺地は火山質の山麓より成りて、アジアトルコの最高處たるが小アララット山(三九一四)を始めとし、三千米突以上の高峰少なからず。

アナトリア臺地はキフン河の溪谷以西の地にして、カラベル山脈、アンチタウルス山脈は東邊をなせり、臺地の平均海拔は一千米突内外なるが南部のタウルス山脈に於ては三千米突に達する所あるも、黒海に瀕する地は甚だ高からず、西部は數多の溪谷により、扇形をなしてエーゲ海に突出せり、而して内部は鹽分を含む沙地又は濕潤に過ぐる沼澤地多くして、海拔二千米突に達する所あり、最高峯はカイサリエの近傍に於てはアルジェ山(三八四一)なりとす。

チアルベキル高地はチフン河とチグリリス河の上流との間にあり、カラヂ山(二〇〇〇)を含めり。

メソポタミアはチグリリス河とエウフラト河との流域に當れる平地なるが、北部をエルジレール南部をイラクアラビと稱す。

シリア、パレスチナはリバノン山脈とアンチリバノン山脈其の中間の凹窪地等より成る。

水誌 河流は其の數少なからざるが、大河を以て目すべきものは唯、二流あり。

カスピ海斜面 アラス(八〇〇)

ベルシア灣斜面 チグリス(一八五五) エウフラト(二五〇〇)

黒海斜面

チアラク イェシルイルマク(三九〇) キジルイルマク(ハリス)九七〇)

サンガリアス(サカリア)五二〇)

エーゲ海斜面

カイカス(バキルチャイ) ヘルムス(ジエヂズチャイ)二九〇) ケースター(クチャクメ

ンデル)一六〇) メアンデル(メアンデルチャイ)三二二)

地中海斜面

シフン(サラヌ)三二二) チフン オロンテス(ナールエルアシー)四〇二)

閉塞地 ヨルダン(シリアトエルケビル)一九三)

エウフラトはアッシリア人のブラッ、ヘブル人のベラス、ベルシア人のウフラトス、アラビア人のフラト、ギリシア人のエウフラテス或はエウフラテスにして、西

部アジア第一の長流なり、上流に二派あり、西派カラスはエルズルム山地の海拔二千五六百米突の地に發し、流ること四百三十五軒、ケバンマデンに至り、アラダグの雪野に起れる東派のムラドと會す、上流にありては水勢急激なるも、メソポタミア平野に出づれば方向を南東に轉じ、幾多の彎曲をなし、百二十五米突以内の河幅を以て緩流す、バビロン舊地の附近を経、クルナ近傍にてチグリス河を合せて、シフトエルアラブ河となり、百五十軒を流れ行きて、ベルシア灣に注ぐ、源委通じて二千五百軒あり、小汽船は河口より一千七百七十軒のビル(ピレシク)に溯ることを得、シフトエルアラブの支流にチルカー、カルンあり、エウフラトの支流にベイリク、カブルあり。

チダリス即ちベルシア人のチグラ 速なる如くは亦二派より成り、西派シフトはデアルベクル山地のジェルシク湖に發し、東派ポータニスはバン湖の附近に起り、相合してモスル附近にて平地に出て、右岸に於て沙漠を控へ、バグダードを過ぎ、クルナに至りてエウフラトに會す、チグリスの河幅は二百米突以上に達し、流勢急速、黄色の濁水を輸送し來る、支流は左岸に大ザブ、小ザブ、チャラーあり、バグダードの下流に

ナイルイサ、シオトエルハイ等の運河を有す。

ヨルダンはヘブライ人のヤルデン(降)ギリシア人、ラテン人のヨルダネス、アラビア人のエシヨシリアなり、最遠の水源はヘルモン山の西麓より起るハスバニーなるが、南に派れてフレイチベリアスの兩湖を経、死海の北岸に注ぐ、長さ二百軒に達せざるも、水源より降下すること九百十二米突にして、水勢速なり。

沼湖は著大なるもの少なけれども、鹹湖にパン、ツスチエル、淡水湖にエジェルデル等存せざるにあらず、又無口のもの多きを見る。

北部 パン湖 (長四一八軒 幅四一八軒) ツスチエル (一八〇軒) エジェルデル (四八軒)
南部 ガリリイ海 (九軒) 死海 (七四軒)

パン湖は海拔一千六百六十八米突の地にありて、面積は三千七百万方軒なるが、山間にありて流口なく、水は多量の鹽分を含めり、而して本湖はニムロッドダハの熔岩流が流れを堰塞せしによりて、生ぜしものならんと云ふ。

死海 (スミール、メイルト、メアモルツウム、メルモルト、トーチ) は九百十五方軒の鹹湖なるが、海面より低きこと三百九十四米突の陥落地にあり、水深は北部に於て三百九十

米突に達する所あるも、南部に於ては一米突乃至四米突に過ぎず、而して本湖はヨルダン等の河流を受くるも、外海に通ずることなく、水分は一、一七乃至一、二三の比重を有し、鹽分は百分中二十六以上あり、爲に魚介の生活に適せずして死海の名あるに至れり、湖岸は南北の二部に平低なれども、東には七百六十米突、西には四百六十米突の山壁あり、附近は地震少なからず。

氣候 地勢錯雜なるが爲、氣候も地方によりて大差あり、エルズルム、パン湖の地方は平均温度は六度半なれども、冬季には嚴寒を感じ、夏季には酷暑を覺ゆ、地中海沿岸のスミルナの平均は十八度にして、黒海沿岸のトレビソンドは十五度なり、レスチナは概して温暖なれども、ゴールの谷地に於ては平均二十四度に達せり、メソポタミアは炎暑の地なるも、シリア、アラビアの酷熱に比すべくもあらず。

天産 アシヤトルコはアジアの西部に位するを以て、生物はベルシア的の所あり、南ヨーロッパ的の所あり、動物は珍奇なるものなく、メソポタミアに於ては殆ど野獸を見ざるに至れり、植物はエルズルム地方、アナトリアの北部等に、櫻、胡桃の如き森林あり、リバノン山脈が森林に富めることは既に過去に屬せりとす、而して大河

の沿岸の地又は地中海に瀕する沃地には、穀類、果物を産す、鑛物は石炭、鐵、鉛、銅等ありて採掘の日を待てり。

人誌。住民の總數は、一千七百餘萬なるが、粗密は地方によりて大に其の趣を異にし、小アジア、シリアの沿海の地、并にメソポタミアに於ては稍密なるも、其の他臺地、山地、砂地に於ては甚だ粗なり、而してアジアトルコの地たるアフリカ、ヨーロッパに接近せるを以て、古來幾多の種族の來往あり、今日に於ても種族の數は甚だ多し、今其の主要なるものを記せば、小アジアの沿海の地にはギリシア人あり、エルズルム地方にアルメニア人、ギアルベクル地方にクルド人あり、シリアにドルズ、マロニットの二種族あり、パレスチナ、アラビアにはアラビア人多く、トルコ人は各地に散在せるも、小アジアの高地并にメソポタミアの市街を以て、最も多數の居住せる處とす、宗教はマホメト教最も行はれ、信者の數一千三百萬を下らざるべく、ユダヤ教信者は凡そ二十五萬あり、又ギリシア人、アルメニア人は基督教を奉ず。

政治。アジアトルコはトルコ帝國の一部なるを以て、スルタンの主權の下にあり、而して行政上、本地を若干のビライエト(總督區)に分ち、更にサンヂャク(州)、カザ(大區)、ナ

ヒエ(小區)等に細別し、總督、ムラサリフ、カイマガム、ムチル等各に長たり。

生業。農業は穀類、葡萄、罌粟、無花果等を生し、牧業は山羊、羊、馬、水牛、駱駝等を飼養す、工業は更に振はずして僅に革類、敷物を製するに過ぎず、貿易は主としてヨーロッパ諸國との間に營まれ、鐵道はアナトリア鐵道、スマイルナカッサバ間、アイヂン鐵道、其他合はせて二千六百八十三軒あり、目下經營中に屬するものなしとせず、商港はスマイルナ、トレビゾン、バストラを主とし、アレクボ、タマスク、バグダード、エルズルムは歐商貿易の主要地なり。

處誌。スマイルナ即ちイスマイル(二〇、〇〇〇)はアジアトルコ第一の都會にして港を有し、商業は甚だ盛なるが、商權はギリシア人、其の他のヨーロッパ人の手にあり、市街の不潔なると天候の炎熱なるとは屢、惡疫の流行を來す、マニサは古のマグネシアの地にあり、ブルサ(七、六〇〇)は古のブルサなり、オリンボス山の麓に位し、工業稍、盛況を呈す、イスキスはアスカニア湖岸にありて古のニケリアなり、イスキッドはマルマラ海の一灣に瀕し、舊都ニコメチアの地にあり、スクタリ即ちイスクダルはコンスタンチノブルの對岸に建ち、工業行はる、アンゴラはエンダリに同じく、サ

カリア河の上流に位し、生毛の産あり、シバス(四、三、〇〇〇)はキシルイルマクの上流にあり、アマシア(三、〇、〇〇〇)はイェシルイルマク河の谷にあり、ボントスの國都たりし所なり、同河口以西の海岸にサムスン、シノブ、エレグリの三港あり、トレビソンド(三、五、〇〇〇)即ちタラブズン、又トラベズントは黒海の一港たり、アイチン(三、六、〇〇〇)はスミルナの南東に當り、皮革、果物の取引あり、コニア(四、四、〇〇〇)はコニエーとも云ひ、古のイコニウムなり、カイサリエ(七、二、〇〇〇)は古のセザレにして、海拔一千九十五米突の地にあり、アダナ(四、五、〇〇〇)はコニアの南東、シファン河畔にあり、アレ、ボ(一、二、七、〇〇〇)はハレブ或はハレスエスシャーバと同地にして、シリア北部の商業地なり、其の港イスカンデルンはスカンデルン或はアレクサンドレタと稱せられ、不健康地なれども貿易は見るべきものあり、アインタブはアレ、ボの北北東に位する一商業地なり、アンタキ即ちアンチオク(二、四、〇〇〇)、ハマ(四、五、〇〇〇)、ホムス(六、〇〇〇)は孰れもオロンテス河の谷にありて、ホムスはフムス、ヘムス、ヒムスとも稱せらる、トリポリ(三、〇、〇〇〇)はトリポリス、タラバルスの名をも有し、地中海の一港なり、ベールート(一、一、九、〇〇〇)はシリアの要港なるがリバノシ山の麓に近

し、ダマスク(一、四、〇、〇〇〇)はシリアの最大都會なり、土名をヂマスクエスシムと云ひ、バロダ河の畔にありて、海拔六百五十九米突に位す、絹布の製造行はれ、商業地として、名あり、サイダ(シドン)、スル(チル)は海岸の舊地にして、ベールートの南南西に當る、エーカーはバレスチナ海岸の一港なり、古名をアッカ、又はアッコと云ふ、イェルサレム(五、一、〇、〇〇)はユダヤ、キリスト、マホメット三教徒の等しく靈地とする所にして、宗教史上有名の所なり、而してイェルサレムの平和はイェロソリマ(ワフ)ウルサリム(アッ)リア等と稱せられ、アラビア人はエルクヅ聖と唱ふ、市街は地中海岸のジッファ、港の南東六十軒、海拔七百二十米突乃至七百八十七米突の地に位し、三方に深谷を繞らし、基督の墓を有す、其の生地ベスレヘムはイルサレムの南方凡そ十軒にあり、今ベイトラームと云ふ。

メデナ(四、八、〇、〇〇)即ちメヂナトラスルアラ^イ或はメヂナトエルラビにマホメットの墓あり、ジッダーはメヂナの南西、紅海岸にある港なり、メッカ(六、〇、〇〇〇)はジッダーの南東に當り、マホメット教徒の最も神聖とする所にして、又其の教祖の生地なり、ツナ(五、八、〇、〇〇)はイエメン内部の商業地なり、此の市は珈琲産地の中心に位し、西

にホデイダ港を控ふ。

パン(三〇〇〇〇)は同名の鹹湖の東岸にあり、エルズルム(三、九〇〇〇)はエウフラト河の上流に近く、海拔一千八百二十九米突を下らず、此の地は商業上、兵事上の要地にして、金屬細工の産あり、マラチア(三、〇〇〇)はマラチエーとも云ふ、デアルベキル(三、四〇〇〇)即ちデアルグベルはマラチアの南南東にありてチグリスの上流に位し、一商業地たり、ウルフア(五、五〇〇〇)はデアルベキルの南西に位し、亦商路に當る、モスル(六、一〇〇〇)はチグリス河中流の岸に建ち、アッシリの故都ニヌアの舊跡と相對す、バグダード(一四、五〇〇〇)はメソポタミアの最大都會なり、チグリス河畔に位し、古來有名の地にして、現に商業の中心なり、熟皮を産す、此の地よりベルシア灣頭まで、航程凡そ九百軒なりとす、ケルベラ(六、五〇〇〇)はメシドホッセンと同所なり、バグダードの南南西に位し、マホメット教徒の聖地たり、ヒルラー即ちヒルレ(三、〇〇〇〇)はエウフラトの下流に沿ひ、バビロンの舊跡に建つ、バスラ或はバソラはシャトエルアラフ河に沿ふ、一千八百三十四年の洪水以前には人口十萬以上を有せしが、今は衰微を極む。

サモス島

自然 サモスはエーゲ海の小島なり、スミルナの南南西に位し、ミカレ海峡を隔て、大陸と對す、長さ四十八軒、面積四百六十八方軒に過ぎず、最高峯ケルキは一千四百四十米突に達せり、土地は肥沃にして、葡萄、オリーブ等を産す。

政治 人口は約六萬あるが、住民の殆ど全部は耶蘇正教を奉ず、君主はトルコ皇帝の封冊を要すれども、一千八百三十二年以來、イギリス、フランス、ロシア三國の擔保の下にあり、葡萄酒、オリーブ油、乾葡萄、煙草等を輸出し、其の額三百六十萬、マタルなり而して、首府をバシーと云ふ。

キプロス島

自然 キプロスは地中海の大島なり、小アジアの南、シリアの西に位す、長さ二百二十五軒、幅九十七軒、面積九千六百万方軒を有し、島内の地勢三部に分る、即ち中部にメソリアの平原あり、其の南北に山岳帶ありて、最高處はトロオドスと云ふ、之古のオリン波斯山にして、海拔は二千米突以上に達せり、氣候は稍乾燥に失するも、一般に不健康ならず。

政[○]治[○] 住民は約二十四萬あり、其の大部はギリシア人にして、殘部はオスマンリ
 人なり、宗、教はギリシア教に次ぎてマホメット教行はる、本島は名義上トルコの領
 する所なれども、一千八百七十八年以來、イギリスの支配の下にありて、政廳の長官
 を高等委員と云ふ、此の地は耕地、林地多からざれども、尙ほ實綿、葡萄、オリブ、大麥
 小麥等の産あり、輸出額は六百三十萬、マルクにして、麥類、葡萄酒、綿、皮革、生毛、果物等
 を主要輸出品とす、又入港船舶は約三十四萬噸なり。
 處[○]誌[○] ニコシア(一、五〇〇〇)はレフコシアとも云ふ、本島の首府にしてベヂアス
 河に沿ひ、多少の工産を出す、ラルナカ、リマンルは孰れも港を有す。

アラビア半島

境[○]域[○] アラビア半島即ちジゼリトエルアラブはアジアの南西部に於ける大
 地方なり、北はシリア、メソポタミアにより、北西はスエズの地峽によりて、アジア又
 はアフリカに連接するも、東、南、西の三面はペルシア灣、オマーン海、アラビア海、アデ
 ン海、紅海に臨めり、面積は三百十五萬方杆あり、長さは二千六百六十杆、幅は二千杆

あるも、ペルシア灣と紅海との間に於ける平均の幅は九百七十杆なるべし。

海[○]岸[○] アラビア半島は三千七百杆の海岸線を有するも、砂丘、斷崖多くして彎曲
 に乏し、今海部、陸部に就きて左に一表を作れり。

| | | | | | |
|----|---------|----------|----------|----------------|---------------------------------|
| 海灣 | ペルシア灣 | オマーン海 | アラビア海 | アデン海 | 紅海 <small>アカバ灣 スエズ灣</small> |
| 海峽 | オルムス | バブエルマンドブ | | | |
| 島嶼 | パレイン島 | モセイライ島 | クリアマリア諸島 | ペリム島 | |
| | カマラン諸島 | ファルサン群島 | | | |
| 半島 | エルパレイン | ラスエルジブル | シナイ | | |
| 地角 | ラスエルクトル | ラスメ、センドム | ラスエルハド | ラスバブエルマ ンデブ | ラスマ、ホメット |
| 地峽 | スエズ | | | | |

紅海は二千二百杆の長さを有するも、濶は二百乃至二百五十杆に過ぎずして、幅
 二三十杆のバブエルマンドブ海峽を以て、僅に外洋に通ぜり、此の海の深さは最深
 の處にて二千二百七十一米突に達するも、平均は四百米突内外なり、而して兩岸に

乾燥せる沙漠を控ふるを以て、蒸發極めて激しく、河流の淡水の之を補ふもの殆ど皆無なれば、世界の海洋中にて最も鹽分の多量を含めるものとす。岩礁沙洲は甚だ多く、帆船の航行には危険なりしが、汽船の發達とスエズ運河の開通とは紅海が面目を改むる原因となり、以て世界有數の主要航路の中に數へらるゝに至れり。

土地。ヘルシア灣に沿へるエルハッサの地方并に紅海岸に於ける狭長なる低地テハナを除けば、アラビアは一般に高原をなし、南に高く北に低く、平均海拔は凡そ九百米突ならんと云ふ。沿海の地に屹立せる冗贅不毛の山脈中にありて、最高峯とすべきは、マスカット附近のジヘルアクダル(三〇〇〇)なり、又シナイ半島には二千六百米突を越ゆるカメルカテリンありて、内部にも亦高峯を有す。

内部に就きては、其の南部は砂質、北部は礫質、多石質なるが、印度洋に接近せる山脈の背後には、ダブナ即ち赤沙漠あり、其の二支脈は東西のネフーとなり、北進してシリアの沙漠に達せり、ダブナに於けるネジドは本半島の央に當れるが、不毛の山岳存するに拘らず、此處彼處に泉地ありて、耕地牧場又は樹林を見ること稀ならず、要するにネジドは幸福アラビアと稱すべき地にして、人類の棲息に適せり。

河湖は殆ど存せずと云ふ湖の知られたるものは北緯二十二度に近く位して、ダウアシルワッヂーを容る、パールサルメーあるのみ、ワッヂーは一年の大部分流水なき河道にして、北部には、北西に向ふシルハンあり、ネジド地方には、エウフラトに合せんとするエルルンマ(一三〇〇)あり、南部のハドラマウト地方に、ドアン或はモンレクあり。

氣候。アラビアの氣候は酷烈にして乾燥なり、殊に紅海岸のテハナ、ヘルシア灣沿岸の地に於て甚しく、テハナの七月は日蔭に於て尙ほ三十六度七を示せり、然れども海拔は溫度を減せしめ、イェメンの高地に於ては冬季結氷を生じ、七月と雖も三十二度を越ゆること稀なりとす、而して沙漠に於ては勿論高温なるも、變動するのと少なくして、日中の四十三度、夜間の三十八度を指示すと云ふ、雨量は甚だ少なく所によりては全く無雨の地ありて、乾燥不毛の度はサハラに勝れり、又暴風砂を飛ばすことあるも、旅行者に危険を與ふることなきに似たり。

天産。地貌がアフリカ的なる如く、生物も亦之に類する所あり、而して天産は概して饑多ならざるが、動物には馬、駱駝、羊、山羊の産あり、野牛、獅子、コブラ、鷹等も存す

るが如し、植物は椰子、アカシア、葡萄、無花果、珈琲等を産す、礦物は鉛、岩鹽を出す、又眞珠は有名なり。

人誌。住民の数は六百萬と稱すれども、種族は一樣ならずして、アラビア人の外、ユダヤ人、バニヤ人、黒色人等あり、アラビア人はハデシ、フェルラーの如く定住するものあり、ベドインの如き遊牧の民あり、宗教は主としてマホメット教行はれ、スンニ、シイト二派の外、ワハビ派あり、ネジド地方に行はる、而して生業に就きては、農、牧、商の三業を以て掲記すべきものとす、即ちアラビアは不毛の地多けれども、尙ほ椰子、珈琲の産ありて、住民の主食料となり、家畜、生毛等と共に輸出せらる。

分國。本半島はエルハサ、エルヘッヂ、アシル、イェメン等の沿海の地を除くの外、概ね外國の所領たることなく、各部落の長たるシェイフの主權の下に獨立せり、而して左記のシムマル、ワハビは名義上トルコに貢す。

シムマル

シムマルはネジドにありて、其の君主エミールの勢はワッヂーシルハンに於けるカフ泉地に及び、南はカシム地方に至る、首府をハイル(一五〇〇〇)と稱し、ジエアルア

シ、山脈の東、海拔一千六十七米突の地に位す。

ワハビ

ワハビはカシム地方の南にありて、アフレド高地を占む、首府リアド(三、〇〇〇〇)はハイルの南東四百五十料に當れり。

オマーン

オマーンはアラビアの南東岸に於ける獨立國なり、面積は十九萬方料に餘り、海岸線は複雑ならず、人口は一百萬あり、此の國は一千七百四十一年アーメドビンサイードがイマンの位に即きしより、其の子孫君臨し、十九世紀に於てはアラビア、ペルシア、海諸島、ベルシアの海岸、アフリカのグアダルフ、岬等の地方に領地を擴張せることあり、貿易は三百二十一萬ドルを輸入し、デイト、其の他の果物、魚類等の二百五十萬ドルを輸出す、マスカット港に於ける出入船は三十四萬噸あり、首府マスカット(四、〇〇〇〇)は良港を有す。

ハドラマウト

ハドラマウトはアラビア海の岸にありて、數多の部落に分る、其の首要なる都邑

をテリトリー(二、〇〇〇〇〇)シムト(二、〇〇〇〇〇)とす。

トルコ屬地

ベルシア灣沿岸のエルハサ、紅海岸のエルヘヂア、アシル、イェメンの各地方はトルコ帝國の版圖に屬するを以て、アジアトルコとして既に記述したり。

イギリス領地

イギリスの所領たる地はアデン、ペリム島、クリアマリア諸島、バレーン諸島等とす。

アデン アデンはアラビアの南西岸に於けるイギリスの領地なり、二小半島及び附近の地より成り、面積百九十四方呎あり、屬地を合すれば約廿二萬方呎あり、氣候炎熱乾燥なれども健康を害せず、人口は約四萬あり、ボンペー州政廳に屬する駐在官ありて、此の地の政を行ふ、而して一千八百三十九年イギリスが始めて主半島を占領せし時、良港アデンの市街には六千の住民ありしが、今や二萬三千に達したり、本市は火口の深底に建ち、防備堅固なるが、軍事上商業上孰れも主要の地にして、通商貿易盛なり、珈琲、ゴム、皮革等の輸出あり、シナイクオスマンは附近の新市なり。

ペリム ペリムはバブエルマンデブ海峽に位し、面積十三方呎を有する不毛の小島なり、アデン殖民地に含まれて、印度總督の支配を受く、本島は石炭積込所たり。

カマラン島 カマラン即ちカメラン島は紅海の小島にして、北緯十五度に近く、碇泊に便なり、一千八百五十八年以來、イギリスに屬す。

クリアマリア群島 クリアムリアはアラビア半島の南東、ガラ地方の海岸に近く、位し、五小島より成る、本島は一千八百五十四年マスカトのイマンより讓與せられたり。

バレーン諸島 バレーン諸島は一にアバル諸島と云ふ、一千八百六十一年以來イギリスの保護を受け、真味の牧集地として名あり、政治的首府をモバレク(二、二〇〇)商業的首府をマナメー(二、五〇〇〇)と稱す。

アジアロシア

ロシア國はヨーロッパの東部とアジアの北部とより成る大帝國なり、アラル、カスピ、アソフの三海を合はすれば總面積は凡そ二千二百四十八萬方呎にして、アジア

部の面積は凡そ一千七百三十一萬方籽即ち全アジア洲の三分の一以上に當れり、而して其の極北はチェリッスキン岬の北緯七十八度にして、極南はヘリウッド河の北緯三十五度、極東はデジネフ岬の西經百七十二度なるが、此のアジアロシアはコーカシア中央アジア、シベリアの三地方より成れるを以て各部に就きて記述せんとす。

コーカシア

境域。コーカシアと稱する地方はコーカス山脈の南北兩斜面に跨り、地積は凡そ四十七方籽あり、コーカシア山脈を以てアジア、ヨーロッパ二洲の境と而して北はマニチの凹窪地によりてヨーロッパロシアに境し、東はカスピ海に臨み、南はペルシアのアゼルバイジャン、トルコのエルズルムに接し、西は黒海に瀕せり、廣袤は凡そ一千百六十籽に七百籽ならん。

海岸。海岸は出入少なく、黒海の岸にバツム、ポチの諸港あり、黒海、アゾフ海の間、にタマル半島あり、カスピ海にはキシランガチ灣、バク、港、バク、半島、アブシエロン岬等あり。

山誌。山脈はコーカス山脈を以て主とす、而して本山脈の南に當り、クラ、リ、オ

ンの低地を隔て、一の山嶽あり、名づけてアンチコーカスと云ひ、兩者はスラム(メスク)山脈によりて連接せられ、スラム山脈は南西に延びて、アジア(アハルチフ)山脈となる。

コーカス山脈

| | | |
|-----------|--------------|--------------|
| 西部 | オシテン(四五七五) | ブシク(三七八八) |
| 中部 | エルブルーズ(五六三〇) | カシタンタウ(五二一一) |
| | チハラ(五二七二) | カスベク(五〇四四) |
| 東部 | サリダハ(三六六二) | キチエンダハ(四四八七) |
| | ラプロスムタ(四五〇五) | シフダハ(四二五五) |
| アンチコーカス山嶽 | 大アララド(五一五七) | 小アララト(三五九六) |
| | アラダ | |

ス(四一九〇)

コーカス山脈は重厚にして、百籽乃至二百籽の幅を有し、長さ一千一百餘籽に亘る、高度は西に高く、東に低く、傾斜は南面に急にして、北面に緩なり、脈中の最高峯をエルブルーズと云ひ、チハラ、カシタンタウ等之に次ぎ、山岳には火山質なるもの多し、而して雪線は山脈の南面にあり、こは、二千九百乃至三千七百米突なれども、北面

にありては稍高く、三千三百乃至三千六百米突なり、是れ北部は乾燥の地にあるに因るならん、又本山脈を横ざる通路中車行に適するはダリエル(二五九〇)あるのみ。
水。河。流。は閉塞地に終るものなきにあらざれども、主流はカスピ海、黒海、アソフ海の二斜面に屬せしむるを得。

カスピ海斜面

アラス クラ(クル)(二三二七) スラク テレク(五六三) クマ(四八三)

黒海—アソフ海斜面

チアルク リオン(リオニ)(二四一) インゴル クバン(七二四)

クラ河はカルスの北三十軒にある異珠泉に發源し、北東に向ひてアルシニア、アジラニ山脈の東麓を流れ東に折れてチフリス附近より漸やく緩流となり、ヨラ、アザランの二支流を容れたる後、七百軒の間航行の便を與へて、カスピ海に朝す、下流には魚類多く、其の沿岸地方にはムガン、カラバグ等目下は不毛に歸せる草地あり、又アラス河はクラの一大支流をなせども、往昔は別に排水口を有して、直接に海に注げりといふ、クラ—アラスの一秒時に於ける平均排水量は夏季に於て七百八立

方米突なり。

クバン河はエルズルム山麓の氷原に起り、北西又西流し、イェカテリノダルを過ぎ、亦三角洲をなして黒海に入る。

沼湖は南部にゴクチャ、チアルデル、北部にマニチあり、ゴクチャは一千三百九十三方軒の面積を有し、海拔は一千九百三十二米突あり、最深點は七十六米突に達す、而して湖の水はザンガ河によりてアラスに通ぜり、マニチは往古の海峡の遺留せるものなるが、カルスを容れ、東西のマニチ河となり、カスピ海或はアソフ海に排水するを同時に見るは、増水期に限れりとす。

地勢。山脈の北方にある地はステップより成りて不毛沙洲の地多く、游牧の民を觀るに過ぎざるが、南部は高臺盆地に富みて、土壤も亦優良なれば、古來群邦の割據する所なり。

氣候。カフカズの氣候は土地の高低と日光の強弱とによりて、大差を生ぜり、山脈の北西又は西にありては多少の濕氣を受くるも、南又は東にありては大に乾燥炎熱を感ず、特にアルメニアの高原又は山地に於ては、極寒極暑相續ぎて、夏季に四

十五度の高温あるも、冬季には零下三十度乃至三十五度に下りて、沼湖の結氷は數月に亘れり、雨量は西部に三四米突を受くるも、南東に於ては五十耗に過ぎずして、バクーの地方は六箇月の間、一滴の降雨も見ざることもあり、此の如くなるを以て、カフカズ山脈の東部并にアルメニア山麓にありては、雪線は遙に三千米突以上に達し、噐々たる雪嶺と氷河とを見るは、中央若しくは西部のカフカズ山脈に限れり。

天産 カフカズ山脈はアジア的及びヨーロッパ的動物の分界線たる觀を有す、而して此の地方の動物は虎、豹、ハイエナ、熊、栗鼠、兎等あり、植物は松、胡桃、樅、或は葡萄、桑、綿、米、麥等を産す、礦物は石油、銀、鉛、銅、石炭、岩鹽を藏せり。

人誌 人口は九百二十五萬あり、一方平均約二十人なり、而して此の地はアジアとヨーロッパとに跨れるを以て、黄人種と白人種とに拘らず、此の地を通過して住處と定めしもの少なからず、されば種族の饒多なる實に驚くに堪へたり、今茲に稍顯著なるもののみを擧げんに、ジョルジア人(九八萬)は山脈の南面に多く、チェルキオス人(三六萬)は其の北面に居り、共に容姿の秀麗なるを以て名あり、アルメニア人(二二〇萬)は身體優美の種族にして、アラス流域の地に住す、トルコ—タタル人(九八萬)

はカスビ海沿岸の地に居り、スラブ人(二五〇萬)は各地に散在せるも、主として北部に住せり、其の他ベルシア人、ユダヤ人等にして、此處に居住するもの多し、宗教に就きてはアルメニア人は天主教信者なるも、スラブ人は基督教派に屬し、其の他は概してマホメット教を奉ず。

政治 本地は擧げてコーカシア總督の管轄に屬し、分ちて六省四州一領土とす。

| 行政區 | 地積 | 人口 | 疎密 | 首府 |
|-----------|--------|----------|-----|-----------|
| クバン州 | 九四三七六 | 一九二、二七七三 | 二〇人 | イェカテリンノダル |
| 黒海領區 | 七三四七 | 五、七四七八 | 七 | |
| スタフロホル省 | 六、〇五九七 | 八七、六二九八 | 一四 | スタフロホル |
| テレク州 | 六、九四六七 | 九三、三四八五 | 一三 | ゲオルギエフスク |
| バクー省 | 三、九三〇六 | 七八、九六五九 | 二〇 | バクー |
| ダゲスタン州 | 二、九七六三 | 五八、六六三六 | 二〇 | デルベンド |
| イェリザベトホル省 | 四、四一三六 | 八七、一五五七 | 二〇 | イェリザベトホル |

世界地理 北の洲 アフアロシヤ コーカシア

| | | | |
|----------|---------|------------|-------|
| エリバン省 | 二、七八三〇 | 八〇、四七五七二八 | エリバン |
| チフリリス省 | 四、四六〇七 | 一〇四、〇九四三二三 | チフリリス |
| クタイス省 | 三、六四七八 | 一〇七、五八六一二九 | クタイス |
| カルス州 | 一、八六四七 | 二九、二四九八一五 | カルス |
| コーカシア總督府 | 四七、二五五四 | 九二五、一九四五一九 | チフリリス |

生業 農業にありては、穀物、果物、綿を産し、山脈の森林は木材を興へ、牧業は牛、馬、騾、山羊等を飼養す、鑛業に就きては石油を以て第一とし、バク、ク、附近の地に於て盛に之を出す、又コーカシアの地たる交通上の要衝に當れるを以て、ロシア政府は鐵路を建設せり、其の北部線はロストフより、其の南部線は、ボチ、バツムより來り、共にバクに至るが、孰も支線を有す。

處誌 チフリリス即ちムトクバリ(一六、一〇〇〇)北緯四一度四四分はクラ河に瀕す、此の地は目下コーカシア總督府あり、交通、商業の中心にして、市街は漸次旺盛に赴けるが、特に住民の雜多なるを以て名あり、市の西にユジョルあり避暑の地とす

エリバン(二、九〇〇〇)はサンガ河の畔、海拔九百八十四米突の地にあり、市街は至りて粗造にして、氣候は極めて激烈なり、即ち夏季には四十四度に達するも、冬季は零下三十二度に降ることあり、此の地の西なるバガルシアドはエチミアデンの僧院を有し、アルメニア教會の中心たり、又北西に當れるアレクサンドロポル(三、二〇〇)はアレクサンドラポルとも云ひ、兵要地の一なり、イリザハトポル(三、三〇〇)はクラ河の一支に沿ひ市場を有す、シ、シ(二、五〇〇)はゴクチャ湖の南東に當り、敷物を産す、バク(一、二〇〇)は當地方第一の商港を有し、カスピ海に於ける海軍の要地たるのみならず、石油を以て殊に著名なり、デルベントはデルベントとも云ふ、カスピ海の小港なり、クタイ(三、二〇〇)はリオン河畔にあり、ボチは同河の口に位する港なり、バツム(三、三〇〇)はボチの南に位し、黒海東岸の良港なり。

ウラヂカフカズ(四、四〇〇)はアレク河に沿ひて、ダリアル峠の咽喉に當り、軍事、商業、交通の要地なり、ピアチゴルスクはクマ河の一支に臨み、温泉地として名あり、スタフロポル(四、二〇〇)は豊饒の耕地に於ける一都會なり、イェカテリノダル(六、六〇〇)はクバン河の岸にあり、農業の中心地にして、製造業、商業に従事す、マイコプ

三四〇〇〇はクバン河の一支に位す、ノボロスシエスクは黒海の一港なり、イェイス
ク(三五〇〇〇)はアソフ海の支灣に沿ひ漁業并に商業に従事す。

中央アジア

境域 中央アジアは西トルキスタンの主要部に、シベリアの一部、外カスピ地方
を加へたるものより成れり、東は天山山系よりカスピ海に至り、北はシベリアに連
り、南は清國新疆省、アフガニスタン、ペルシアに接し、面積は三百五十五萬餘方
方。

山誌 北西部にムゴジアル山脈、南西部に大バルハン(ボジック)、小バルカン、コペトダ
ハ等ありと雖も、海拔は甚だ高からずして、顯著なる山脈は南東部より東部に蟠
せるが、主としてパミル高原、天山山系に屬す。

パミル高原 カウフマン(七〇〇〇)
天山山脈 アンラテンリ(七三四〇)

アライ山脈 トランスアライ山脈

天山山系 クンゲイアラタウ山脈 テレケアラタウ山脈

アレクサンダー山脈 ハミシヤ(四七四〇) アクサイ山脈

タラスタウ山脈 ヤラアラ(三三五三) カラタウ山脈 ミンシルク(二二三四)

タルバカダイ山脈 ムスタン(三四五二) ゲンギスタウ山脈

パミル(キルギス語に)高原はバムイツニア(Bam-i-Duniah)世界の屋棟と稱せら
れ、面積は十萬方斤に達せざるが、其の大部はロシアに屬す、平均海拔は四五千米突
にして、アム河の水源を爲せるが、湖沼少なからず。

地勢 天山山系、パミル高原地方を除けば、土地は概して平低なり、而して北部に
はステップと稱する草原あり、アラル海の北東にカラクム沙漠、アム河、シル河の間に
キシルクム、アレクサンダー山脈の北にアククムの沙漠あり、又アラル、カスピニ海
の間には、海拔百五十米突の荒蕪の臺地あり、ウスト||ウルトと稱せらる、蓋し之等
の低地は、オプ河の流域、マニチの沼河によりて、北極洋或は黒海に通ぜし内海の一
部に屬せしものなるべし、カスピ海等は、其の面影を殘せるものなり。

水誌 アラル||カスピ流域の河川は、中央アジアの最低地に位するカスピ海に
注ぐを以て、自然とすべきも、アム、シルの二大河は、目下アラル海に入り、ザラフシヤン、

ムルガブ等の如く、沙礫の間に消失するものありて、大湖に達するものは甚だ少な
し、今主流の大略の流向等を左に示す。

北部 トボル河 イシム河 イルチシ河(以上中流)

東部 イリ河(一五〇〇)

中部 サリ河(八〇〇) チャー河 タラス河 シル河(一六五〇) ザラフシアン河
アム河(二五〇〇) ムルグアブ河 エジエンド河

西部 エムバ河(四〇〇)

アム河即ちアムダリヤは古名をオクスと云ふ、水源はバヨル高原に發する數流
より成る、南派のサハルト河、中派のムルグアブ、北派のスルグアブは相會して、大體
北西の方向に流れ、下流はタルヂク、ヤニス等に分れて、鹹湖に注ぐ、長さは二千五百
軒あり、ヒバ附近のビトニクに於ける排水量は一秒間三千五百四十立方米突とす、
而して本流は往古カスピ海に終りしことあり、ムルグアブ、ザラフシアンの如きはアム
に達せしと云ふ、目下支流の主なるものは、左岸にコクチャあり、右岸にワクシヤ、カフイル
ナガンありと雖も、其の下流一千軒以上の間には一も存せず。

シル河即ちシルダリヤは古名をヤクサルトと云ふ、天山山系中のペトロフ氷河
の下に發し、上流をナリンと唱へ、カラダリヤを合せて始めてシルとなる、西流して
ホジエンドを過ぎたる後急に北西に向ひ灌漑の便を與へてアラル海に注ぐ、本流は
源委通じて一千六百軒あり、カザリンスクに於ては、初冬に河幅三百二十五米突水
深二米突、四排水量三百六十五立方米突なるが、航河と稱する能はず、下流地方に於
ける河身は屢々移動せりと云ふ。

沼湖の數は少なからず、中には著大なるものあり、淡水性のものあり、而してアラ
ル、バルハシ、イシクル等面積の縮小せる湖沼少なしとせず。(括弧内の數字は面積
の材料數を現はす)

東部 サシクル アラクル バルハシ(二二〇〇) イシクル(五一〇〇)

中部 デンギス アシクル チャルカルデンギス アラル海(六、七〇〇)

西部 カスピ海(四三、八六九〇) バルスク(二二三〇)

カスピ海は世界第一の大湖にして、面積四十四萬方軒に近く、長さ一千九十四軒
幅は平均二百乃至五百五百軒あり、其の水面は外海の表面より低きこと二十六米
突なりとす、而して水深は北部には六七百米突なるも、南部には一千米突内外なる

が中部には水底山脈の横ざるあり、水中の鹽分は略ぼ外洋に於けるものと同じく、鱒魚、鮭を産し、北部の水は冬季氷結す、又出入は東部にメルトブリー湾、カラブガヌ湾等あり、ブサン、マンギン、ラク等の半島あり、島の著しきものはチェレンケンと云ふ。

アラル海は六萬七千方杆の面積を有し、海拔四十八米突の地にあるが、水層は六十八米突を超えず、鹹味を帯ぶること甚しからずして、鱒魚、鮭多く、湖上島嶼點在し、航行は困難なり、アム、シルの二河此處に注ぐ。

バルハン湖は海拔二百三十六米突の地にありて、長さは五百杆に達するも、面積は二萬二千方杆に過ぎず、然れども往古は頗る廣大なる地を占め、今のサシクル、アラクル等の諸湖を含みしと云ふ、水層は二十米突内外にして、鹹味少なく、魚類の産多し。

氣候 氣候は大陸的にして、寒暑甚しく、冬は北部に於て零下四十度に降り、夏は南部の日蔭に於て三十六度を示し、サマルカンドにては極寒、極暑の差七十五度あり、氣温の變化は急激なり、空氣は甚だ乾燥にして、キシルクム、カラクムの沙漠に

は、終歲一滴の降雨も見ざることもあり、平均雨量はアムの下流に於けるペトロアレクサンドロフスキーに六耗、タシケントに三十二耗、サマルカンドに三十四耗あり、南部、東部の山岳地方には比較的多し、而して沙漠の地はデバドと稱する熱風に苦しめらる。

天産 動物には驢、羚羊、虎、狼等あり、殊に蚊、蝗、蚱の勢力は恐るべし、家畜として飼養せらるゝものは駱駝、馬、羊、牛なり、植物はサクサウル、シダ、白楊等を主とし、水利ある所には穀類、果物、其の他の栽培行はる、礦物は南部殊にホジンド附近に多し。

人誌 住人は其の數七百七十二萬あり、一方杆に付き二人の割合にして、甚だ稀薄なりとす、種族に就きて、其の最も多數を占むるは遊牧を事とせるキルギスなり、此の外、市街の地にはサルト人多く、農民にはタジク人多し、又ウスベク人即ちトルコ人はフルガナ地方に勢力を有し、中央アジアのトルコ族中、最も開化せるものなり、而して、ステブ人は北部にありては各種の業務を營むも、南部にありては官吏士卒多くして、普通の人民としては少なし、今左に主なる種族を表示す。

黄種 — トルコ — キルギス — カラキルギス — ウスベク — トルコマン

白種
イラン タジク サルト ペルシア
ガルチ

宗教はスニト派のマホメット教最も勢力を有すれども、シイト派、基督教徒、拜火教徒も亦見る所なり。

政治 本地は地勢上シベリアに属すべき北部のステップ州を合せて、九州に分れるが、二州は内務部の直轄に属し、其の他は、ステップ總督或はトルキスタン總督の支配の下にあり、兵備上は一軍區をなせり。

| 管轄者 | 州名 | 地積 | 人口 | 疎密 | 首府 |
|--------|----------|---------|---------|-----|----------|
| 内務部 | ウラルスク | 三六、〇四三七 | 六四、四〇〇一 | 一、七 | ウラルスク |
| | ツルガイ | 四五、六三九七 | 四五、三一二三 | 一、〇 | ツルガイ |
| | アクモリンスク | 五九、四六七三 | 六七、八九五七 | 一、二 | アクモリンスク |
| ステップ總督 | セミバラチンスク | 四七、八一八二 | 六八、五一九七 | 一、四 | セミバラチンスク |
| | セミレチェンスク | 三九、四三九六 | 九九、〇一〇七 | 二、五 | ベルニー |

| トルキスタン總督 | フェルガナ | シルダリヤ | サマルカンド | トランスカスピ | 合計 |
|----------|----------|----------|---------|---------|----------|
| | 一五、八七四二 | 五〇、四六五八 | 六、八九六三 | 五五、四八六〇 | |
| | 一五六、〇四一一 | 一四七、九八四八 | 八五、七八四七 | 三七、二一九三 | 七七二、一六八四 |
| | 一一 | 三 | 一一 | 〇、七 | 二 |

生業 草原の地には多少の牧場あり、濕潤肥沃の溪谷には耕地を見、實綿、穀類、羊毛、皮革等の輸出あるも、要するに物産少なく、生産力に乏しき地なり、對外商業は主としてヨーロッパ、ロシア、シベリア、ペルシアとの間に行はる、而してトランスカスピ鐵道(一八九〇年)の建設、灌漑工事の擴張は頗る此の地方の發達を促せり、該鐵道はアム河或はシル河、イリ河と相俟ちて、印度又は支那に通し得べく、大北帝國の南下に關しては中央アジアも亦重要な地なり。

處誌 タシケント(一六、〇〇〇)はタシケントとも云ひ、トルキスタン總督の駐在地なり、市街はシル河の一支なるナルチクに沿ひ、住民極めて雑多なるが、タジク

世界地理 わじお洲 アフアロシア 中央アジア

人大部を占む、商業は盛に行はれ、絹布、柔皮等の製造あり、ホージエント(三、〇〇〇)はタンケントの南にありてシル河に沿ひ、絹布を産す、ホーカンド(八、二〇〇)はチマングン即ちナマガン(六、二〇〇)は其の東方に當り、織物、熟皮を製す、アンヂジャン(四、七〇〇)はナリン河の支流に近くして、トランスカスピ鐵道通ぜり、サマルカンド(五、五〇〇)はゼラフシンの流域にあり、舊とチムルレンクの都せし所なるが、現今商業稍盛に行はる、メルフはムルグアプの下流に位し、軍事上又は通商上の要地なり、アスカバードはトランスカスピ鐵道の一要驛なり、クラスノボドスクは現今西部に於ける鐵道の終點なるが、カスピ海の岸に建てり、ベルニイはインククル湖とイリ河との間にあり、銅器を集散す、セミ巴拉チンスク(一、八〇〇)はイルチシ河畔の商業地なり、オムスク(三、七〇〇)は同河に瀕し、ステップ總督府の所在地たり、城寨兵學校あり、商工業盛なり。

屬地 中アジアに於てロシアの屬地は二あり、其の小なるをヒバと云ひ、其の大なるをブハラと云ふ。

ヒバ ヒバ汗國は北緯四十一度、同四十三度、四十分、東經五十八度、同六十一度、五

十分の間に位し、北はアラル海に限られ、東はアム河に至り、其の他はトランスカスピ州に接す、面積六萬方軒、長さ三百二十二軒、幅二百二十五軒を有せり。

此の國はバクトリア、バルチア、ヘルシア等に屬し、一旦獨立(九)せしが、又カラヒタイに屬し、トルコ公國と成り、成吉思汗(二)チムルレンク(七)に屈服し、後者の子孫はウスベグの會長に降れり(一五)、既にしてロシアの攻撃を被ること三回(三一、八五)遂に一千八百七十三年の征討後、大北帝國に屬するに至れり。

住民は八十萬と稱せられ、ウスベグ、サルト、トルコマン等に分れ、マホメト教を奉ず、政體は君主專制なり、土地はアム河より導ける運河によりて潤され、生絲、實綿を産す、首府をヒバ(五、〇〇〇)分、北緯四一度、二三分、東經六〇度、二三と云ふ、新ウルゲンジも小都會なり。

ブハラ ブハラ國はボハラ國とも云ふ、北緯三十七度、同四十一度、東經六十二度、同七十二度の間にありて、北はロシアのトルキスタンに限られ、東はバミルに至り、南はアフガニスタンと境し、南西はトランスカスピ州及びヒバ汗國に隣り、面積二十萬方軒に餘り、長さ五六百軒、幅三四百軒あり。

此の地は主として往古のングデアアに當り、八世紀の始めにアラビア人に征せ

られ、後成吉思汗(三三)チムルレンク(一三四)に服し、更に一千五百年ウスベグの奪ふ所となれり、而してブハラとロシアとの間に交戦(一八六五)ありて、サマルカンドの地はロシア領となり、一千八百七十三年の條約によりて、ブハラは全くツァールの屬地たるに至れり。

人口は百二十五萬あり、ウズベグ、トルコマン、タジク等の種族より成り、マホメト教を信奉す、君主をエミルと云ひ、一萬一千の兵を有せり、耕地はザラフシャン、アム兩河の沿岸地、東部の溪谷等水利ある所に限られ、穀類、果物、煙草、殊に實綿生絲を産す、牧業は、山羊、羊、馬、駱駝を飼養し、食鹽、明礬、硫黃の如き礦物も存せり、貿易約三千二百萬圓内外は、ロシア、ペルシア、アフガニスタン、印度の間に行はれ、鐵道約三百軒は此の國を横ぎり、アム河には航行の便あり。

首府ブハラ(七〇〇〇〇)東經三九度四分、北緯六四度二分は、ザラフシャン河の谷に建ち、マホメト教徒の聖地たるのみならず、通商上の要衝に當るを以て、市街稍繁華なり、カルシ(二五〇〇〇)は首府の南東に當る商業地なり、ヒッサルはカルシの南南東にあり、乃物を以て名を知らる。

シベリア

名稱 シベリアなる名稱の語源に就きては數説あり、或はタタル語のビル（意に出づとし或はロシア語のシエベルの北方より來るとし、タタル或は蒙古の神話中に存するスミル、スンベル、スプル等の如き稱に因れりとするものあり、又一千六百八十一年に亡びたるイルチシ河畔の一汗國の首府たりしシビルを以てシベリアなる稱呼の起源となすものもあり。）

位置 シベリアはアジアの北部にありて、極南は圖們江口の北緯四十二度二十三分に起り、極北はチリツスキンの岬の北緯七十七度三十四分に至り、極西は東經凡そ六十度、極東は西經凡そ百七十二度とす。

境界 北は北極洋に面し、東はベーリング海峡、ベーリング海、千島海峡、オホーツカ海、宗谷海峡、日本海に限られ、南は韓國、清國に境し、南西は中央アジアに接し、西はウラル山脈を隔て、ヨーロッパロシアを控ゆ、面積は一千二百五十二萬方軒あり、東西六千七百五十軒、南北三千二百軒に近し。

海岸 海岸線は長からざるに非ざれども、概して結氷の爲めに閉塞せらるゝを

免れず、其の北極洋岸は一般に低くして、海灣には深く凹入するものあれども、極寒の地にあるを以て、更に用をなさず、夫のノルデンシールド氏の成功に係る北東通路の如きも、唯、探検史上に特筆せらるゝに過ぎざるのみ、又太平洋に於けるものも、冬季の數月間は使用するを得ず、此の如くなるを以て、ロシアは不凍の港灣を得んとに力めたり、今左に海部陸部に關し、主要なるものを示す。

- 北極洋
 - バイタラタ灣
 - カラ海
 - オブ灣
 - イエニセイ灣
 - タイムイル灣
 - ハタング灣
 - ノルデンシールド海
 - ヤナ灣
- 海灣
 - ベリリಂಗ海
 - アナデル灣
 - オホータ海
 - ベンジナ灣
 - キンガ灣
 - タウイ灣
 - サハレン灣
 - アムル灣
 - アヤン灣
 - トグル灣
 - アカデミヤ灣
 - スチアスチ灣
 - デカストリ灣
 - イムベラトル灣
 - ウラヂミル灣
 - ペテロ大帝灣
 - ウスリ灣
 - アムル灣
 - ボシニツト灣
- 太平洋
 - イムベラトル灣
 - ウラヂミル灣
 - ペテロ大帝灣
 - ウスリ灣
 - アムル灣

- 海峡
 - 東部
 - ベリリಂಗ
 - 千島
 - 宗谷
 - カラフト(タタル)
 - 北部
 - シベリア群島
 - アデアエフ島、新シベ
 - リフ島、リフ島、アホフ島
 - ウランゲル島

島嶼

- 東部
 - カラキン群島
 - コマンドル群島
 - シヤンタル群島
 - サハレン(カラフト)島
 - アスコリド島

半島

- 北部
 - ヤルマル
 - タイムイル
- 東部
 - チツクチ
 - カムチツカ
 - タイゴノス
 - ムラウイヨフ
- 北部
 - チエリッスキン
 - タイムイル
 - スウアイトイノス
 - シエラグスコイ
- 東部
 - デヂネフ(東岬)
 - ロボトカ
 - ナバリシ

地角

山誌 山脈は概して南東に連亘し、西にあるものはウラル山脈なり、而してカムチツカ半島には、火山多く、現今噴火するもの十二峯あり。

- 西部
 - ウラル山脈
 - テルボスイス(一六六〇)
 - デニシキンカメン(一六三三)
 - タルバカタイ山脈
 - ムズタウ(三七五〇)
 - チアガンオボ(二四二七)
 - アルタイ山脈
 - ビエルハ(三三五〇)
 - サヤン山脈
 - ムンクサルヂク(三四九八)
- 中部
 - ヤプロノイ山脈
 - スタノボイ山脈
 - マカチンガ(二六八三)
 - ダウル諸山
 - ケンタイ山脈
 - ソホド(二四五〇)
 - ネルチンスク山脈

世界地理 あじあ洲 アシヤロシア シベリア

バイカル諸山 ハヤルダバン諸山

アムル諸山(ブレヤ山脈小興安嶺) シホタアリン(タタル)山脈

東部カムチャツカ諸山

クリチ山(四八八七) シウエリチ山(三三三三)
トルバチア山(二三七七) シバチア山(二六二七)

ウラル山脈はアジアとヨーロッパとの境をなし、長さは二千五百六十一軒あるも、幅は十六軒乃至六十九軒にして、最高峯と雖も一千八百二十九米突に過ぎず。

アルタイ山脈は數多の花崗質小山脈より成り連亘して支那界内に至るが長さ六百六十八軒にして、幅は四百四十五軒あり、平均海拔は二千米突にして、最高峯をピエルハと稱す、此の地方は金屬を産すること多きを以て、金山の稱あり。

サヤン山脈は南界の中心に位し、支脈縦横に分派す、而して雪線は二千七百四十三米突以上にして、常に白雪を頂くは二三の高峰に過ぎず、此の地方には噴火口の存するありて地震多しと云ふ。

スタノボイ山脈は始ヤプロノイの名を以て起り、東岸に沿ひてチャクチ半島に達し、長さ四千二百七十軒に近く、北極、太平洋兩斜面の分界なり。

水誌 土地は廣大にして、山脈は南東部に偏在せるを以て、河流の巨大なるもの甚だ多し、而して大支流の多くは北西或は北東の方向に流れて本流に會し、水路相連なりて、ウラル山脈より太平洋に達せんとす、然れども河口は概ね北極洋に瀕するの地にあれば、實際に効用あるものは至りて少なし。

北極洋斜面

- オプ(四二〇〇) イニセイ(四七五〇) ビアシナ(五三四) ハタンガ(六四〇)
- オレネク(二一三四) レナ(五四六五) ヤナ(一六〇〇) インヂギルカ(一五〇〇)
- コリマ(一六〇〇)

太平洋斜面

- アナデル(一一五三) カムチャツカ(五〇二) アムル ウスリ(八〇〇)

オプ即ちオビ河は水源をアルタイ山脈に發し、源流に二派あり、東派をビヤ西派をカツンと云ふ、孰れもピエルハ山麓に起り、相合したる後をオプと云ひ、バラナウルに至れば河床の海拔は僅に百二十五米突、河幅は七百四十六米突なるが、濁水と流木とを平低の地に輸送し、河幅漸く加はり、下流に於ては四十軒に及び、オプ灣を

形成して北極洋に注ぐ支流にトム、チャリム、テム、ウフ、チアリン、アレイ、イルチシ、コンド、等あり、就中最も著しきものをイルチシ河とす、此の河は本流に劣らざる巨流なるが、水源を南アルタイ山脈の氷田に發し、カライルチシと稱せられて、ザイサン湖に注ぎ、更に出て、白イルチシとなり、數多の支流によりてウラル地方の水を集め、サマロウスコイ附近に於てオブ河に入る、イルチシハオブ河の長さは五千二百糎にして、流域は二百九十二萬方糎なり。

セレンガハアンガラハイエニセイ河は四千七百五十糎の長さ、と二百九十五萬方糎の流域とを有し、ロシア屈指の巨流なり、セレンガ河は源流をエケゴルと云ふ海抜一千五百七十五米突の地に於ける、コンゴル湖より出づる水を容れて海抜四百七十米突のバイカル湖を過ぎ、イエニセイスクの附近にてイエニセイ河に入る、イエニセイ河はサヤン山脈の南面に發し、グラスノヤルスク附近に至り、河道は海抜百六十米に下り、アンガラ河を容れて北に進み、一大河灣をなして海に入る、而して下流に於ては河身數派に分れ、河幅は六十四糎に達し、魚類の産はオブの如く多からず、支流の主なるものは中、下二流のツングスなりとす。

レナ河はバイカル湖の南西三十二糎、海抜一千米突の地に發し、ウチム河を入れ、後河身増大して六百四十米突に達し、ヤクーツクを経て方向を北に轉じ、三角洲をなして海に入る、河長は四千八百糎にして、流域は凡そ二百萬方糎なり、河中魚類少なからず、支流の中著名なるものはウチムの外、オレクマ、アルダン、ウツウイあり。

アンル河はサハリンウラ又は黒龍江と云ふ、源流ケルレン(一〇〇〇)はケンテイ山脈に發し、ダライノル(九〇糎)に入り、ダライゴルの名稱の下に流出し、興安山脈より來るハイラル河を合はせてアルゲンと成り、シルカ河と合して始めてアムルと稱す、シルカ河(一二〇〇)はソホンド山に發するインゴタとケンタイ山脈より出づるオノーン(七五〇)との合流より成れり、此の如くにしてアムル河は流ること約四千四百糎、アムル灣に注ぎ、オブ、イエニセイ、レナと伯仲する大河なるが、ロシアに屬する部分は中流の左岸又は下流なり、而してロシア部の支流はゼヤ、ブレヤ、アルグン(一二〇〇)、ウスリ(八〇〇)を以て著しとす、ウスリ河はシホタアリンの南端に發源し、ハンカ湖其の他、ダムレン、ノル、イマン、ピキン、ホル等の水を受け、水深三乃至六米突、河幅二十三糎を以てアムル河に入り、長さ八百糎に達す。

沼湖は西部にチニ(三三七〇方籽)クルンダ(七五二)テレツコエ即ちアルトイン(二
 入四)等あり、東部にバイカル、ハンカ、キジ等あり、就中バイカルを以て著しとす、バイ
 ルカルは長さ六百七十二籽、幅三十二乃至一百籽を有し、面積三萬五千方籽の大湖
 なり、其の水面は海拔四百六十九米突にありて、上アンガラ、セレンガ等の諸水を容
 れ、下アンガラに依りて水をイニセイに排出す、本湖は最深の處にて一千三百七十
 三米突を有すれば、世界の最深湖と稱するを得べし、湖中に一島あり、オリホンと云
 ふ、ハンカ湖は兩國に屬し、二千八百八十三方籽はロシア、殘部は清の領する所たり、
 地勢 シベリアは南部及び東部に於て山岳を有するも、其の他は南東より北西
 に向ひて緩斜する平低の地より成れり、然れども高地と低地との區別の存するは
 イニセイ河以西に於ける西シベリアにありて、起伏に富める東シベリアには高隆
 なる丘陵の縦横に走行するを見る、而して北緯六十五度以北の沿海地方は所謂ツ
 ンドラ即ち凍土に屬し、僅に夏季の間多少融解して沼澤の地と成るが、之よりタイ
 ガ(森林帶)を経て南するに従ひステップ(草原)の地と成る、ステップ中、トムスクの西に於
 けるバラバの如きは地味肥沃なり。

氣候 氣候は純然たる大陸候にして、到る處寒暑の差甚し、蓋し北に面する平地
 は氷洋に瀕するのみならず、寒烈なる北極風を遮ざる山岳なく、之に反して南部に
 は高山秀嶺の連綿たるありて、熱帶地方より吹き來る高温風を防遏す、從て同緯度
 の他の地に比すれば、シベリアは遙に低温を示す、現に年平均の零度以上に達する
 は南西部の一部に限れり、而して東部の地は寒威最も強く、寒極と稱せらる、ベル
 ホヤンスクは北東にあり、極寒は零下六十九度八を示せるが、平均温度は左の如し。

| 地名 | 年 | 一月 | 七月 |
|---------|-----|------|------------------|
| オホーツク | (一) | 五、一 | (十) 一三、三 |
| ベルホヤンスク | (一) | 一七、二 | (十) 一五、〇 |
| イルクツク | (一) | 〇、一 | (十) 一八、八 (月八) |

降雨は南より東に赴くに從ひて其の量を減じ、夏季には概して乾燥を極むと云
 ふ、而して冬季森林帶地方には、猛烈なる飛雪即ちブルカの起ることあるも、嚴寒の
 際空氣極めて靜穩なるものあり、凍土帶の如きは滿目皚々たるのみ、風は冬季に於
 てはウラル山脈、イニセイ河の間に、南及び南西の風多く、レナ河流域は北西風多し。

夏季に於ては西海岸は極軟風を受くけれども、東岸は南東の濕風吹き来る。

天産。氣温低く濕氣不充分なれば、樹木の生長は遅々たるも、森林は中部一帯の地を蔽ひて、松、樺、落葉松等を産す、而して樹質多くは堅緻ならず、動物は寒地特有の毛皮獸に富み、黒狐、紅狐、白狐、黒貂、栗鼠等を産し、熊、鰐、海獸の類も亦乏しからず、而して家畜の主要なるものは馴鹿、馬、羊とす、鑛物は其の産少なからずして、白金、金、銀、銅、錫、鉛、鐵、石炭等あり、又リアホフ諸島及びレナ河口附近の凍土中よりは、マンモスの牙類を出す。

沿革。西曆紀元前百年頃より、紀元四百年代の間に當りて、シベリアには堅昆、高車、即ち丁零、烏揭等の諸族著はれ、突厥亦漸く盛にして、六百六十年代に唐の爲に征せられしことあり、其の後、曷戛斯、乃蠻、克烈等の諸族起りしが、蒙古の成吉思汗の攻畧する所となり、元の衰ふるや、土人割據し、ヨロロバ人の侵略を蒙りしなり。

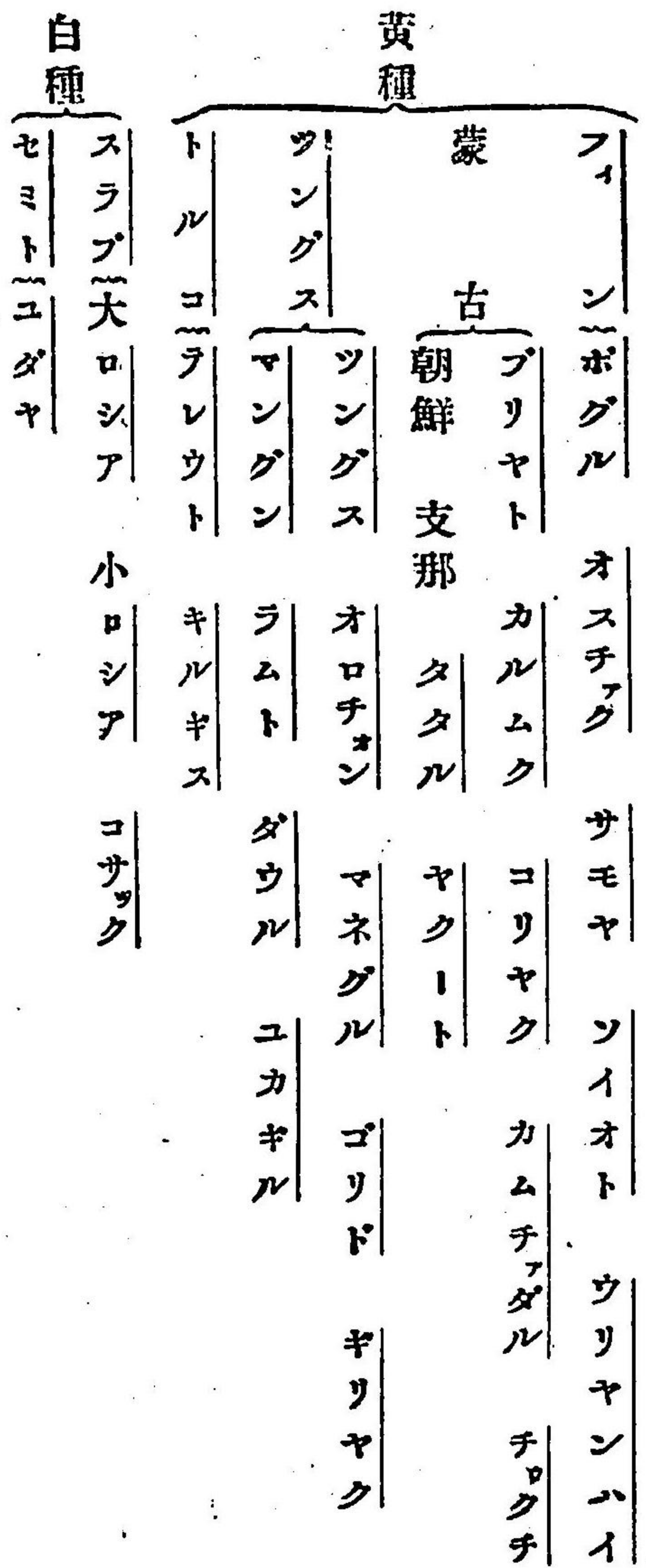
ヨロロバ人にして初めてシベリア土人と交渉せしは、後にロシアに滅されし、ノゴロド人なりと稱せられ、シベリ汗の如きは早くロシアに歸服(八四)せることあり、然れどもシベリアが眞にツァールの領土となるに至りしは、エルマークがコサック

人数百名を率ひて、シベリ府に進發(七五)せしに由れり、コサックは慄悍にして、劫掠を事とし、後凡そ百年の間に、アムル地方の外、全シベリアを取れり。

アムル河畔はハバロフの經營(一五六五)する所となりしが、ネルチンスク條約(六九)によりて、アムル地方を清國に割讓するの止むを得ざるに至れり、然れどもロシアはウラル山脈よりカムチャツカに至る間は、大概之を有することとなり(〇九七)ムラウイヨフをして愛彈條約(五八)と訂結せしめて、更にアムル河の下流地方に地歩を占め、清國とイギリス、フランス兩國との和議に奔走せる報酬として、清國よりウスリ河以東の地を得(三〇八)又我が日本とは境界に關し、紛争久しきに亘りしが、サハリン島と千島との交換條約を結びて、局を終へたり(七一八)而して近年北清事件に當りては、滿洲を占領し、撤兵の期に及びて、約を履まざりしかば、遂に我が天皇は開戦の詔勅を發し給ひ、皇軍は海に陸に大捷を得つゝあり、戰雲晴るゝの日に至らば、シベリアの地圖に變動を生ずること蓋し大ならんか。

人誌。土地の廣大なるに拘らず、人口は僅に五百九十八萬にして、其の分布は南部に偏し、北部は極めて粗なり、人種は錯雜し、北部にフィン種族あり、中部、東部に蒙古

種族あり又ツングス種族あり西部にトルコ種族アリスラプ人は各地に散在し多
少のユダヤ人は主として市街の地に居住せり。



宗教中最も勢力あるものは基督正教即ちギリシア教にしてスラプ種族を初め
とし其の他教化の民は之を信ず天主教ユダヤ教マホメット教を奉ずるものは多か
らず又ラマ教シヤン教はブリヤトサモヤオスチアツングス等の土人の間に行は
る教育は稍見るに足るものあり小學校中學校を各地に設けて普通教育を授く然

れども女子の就學者は男子より遙に少數なりと云ふ大學はトムスクに設けらる
又土民の部落にも學校ありブリヤト人は好學の心に乏しからず要するにロシア
政府はギリシア教とロシア語とによりてシベリア在住の各種の人民を教化結合
せんとするものゝ如し而して其の結果空しからずして既にブリヤト其他の種
族中にロシア的の國家を生ずるに至れりと云ふ。

政治 シベリアはロシアの一部をなす行政上の區劃は省州府にして省州に知
事を置き府に長を置く又別にカラフト島には軍政長官を置き省州の若干は合
せて總督管區となせどもトボルスクトムスクの二省は内務部の直轄に隸せしめ
租借地なく關東州は極東總督の支配の下にあり。

| 省 | 州 | 地積 | 人口 | | 合計 | 方料 二付 |
|-----------------------|---|----------------------------|---------|---------|----------|----------|
| | | | 男 | 女 | | |
| イニセイスク省 | | 二五五、六七五 <small>方</small> 六 | 二九、一五五五 | 二六、八三四七 | 五五、九九〇二 | 〇、二 |
| イルクーツク省 | | 一一二、四八九十 | 二八、九五二三 | 二五、一〇二二 | 五四、〇五三五 | 〇、五 |
| トボルスク省 | | 一三九、七六九二 | 七一、一九八二 | 七二、六五〇二 | 一四三、八四八四 | 一、四 |
| 世界地理 あじあ洲 アシアロシア シベリア | | | | | 三〇五 | |

| | | | | | |
|--------|-----------|----------|----------|----------|------|
| トムスク省 | 八五七六八二 | 九七、〇七八〇 | 九五、八三一二 | 一九二、九〇九二 | 二、三 |
| ヤクーツク州 | 三五九、九九八九 | 一一、四〇五八 | 一一、三六五五 | 二二、七七一三 | 〇、〇六 |
| シベリア | 九五二、七〇一六 | 二三七、七八九八 | 二三一、七八二八 | 四六九、五七二六 | 〇、五 |
| ザバイカル | 六一、三四七五 | 三三、八七三二 | 三二、五三四九 | 六六、四〇七一 | 一、一 |
| アムル州 | 四四、七六六七 | 六、八二六九 | 五、二〇三七 | 一一、〇三〇六 | 〇、四 |
| 沿海州 | 一八五、四三三三 | 一五、二〇六一 | 七、二二七五 | 二二、三三三六 | 〇、一 |
| サハレン | 七、五九七八 | 二、〇四七二 | 七、六四一 | 二、八一三三 | 〇、四 |
| 關東 | 三一七〇 | | | 二五、〇〇〇〇 | 八、〇 |
| 極東 | 二九九、四六四三 | | | 一一八、五八二六 | 〇、四 |
| 合計 | 一二五二、一六五九 | | | 五九八、一五五二 | 〇、四 |

三〇六

兵備は陸兵に平時の三萬と戦時の七萬とありて、三軍管區を置く、其のアムル軍管區は三州一島を包括し、其のシベリア軍管區は四省一州より成れるが、關東軍管區は租借地一帯の防備に關することを管せり、而して有名なるコサック兵は所謂屯

田兵にして、各地の要處に駐屯せり、又海軍はシベリア艦隊ありて、十萬噸十二萬馬力を有せり、然れども我が國と砲彈を交ふるに至りしより、陸兵は勿論増加せしなるべく、海軍は數回の攻撃を蒙り、大に戦闘力を減じつゝあり。

生業 生業は盛なりと云ふを得ざれども、亦見るべきものなきにしもあらず、獵業は各地に行はるれども、衰運に赴き、毛皮獸の減少著し、目下栗鼠、黄鼠、兔、狐、貂等の毛皮を與ふ、漁業は東部の沿海、並に大河の沿岸の地に行はれて、鮭、鱒、海獸等を與ふ、畜業は馬、犬、馴鹿、綿羊、山羊、豚等を養ふが、特に南部の曠野に盛なり、農業は土壤の佳良なる地に於て、意外の盛況を呈せる所あり、就中農産に富めるはトムスク省の南西部、並にイルクツク省にして、大麥、小麥、燕麥等の穀物を産す、林業は約二百萬方斤の森林を有せり、鑛業は金を主とし、銀、鉛、黒鉛、銅、鐵、石炭等を産す、然れども金の産出すら、其の富源の大なるに比すれば、尙ほ少量なりとす、現今シベリアに於ける鑛業區はウラル(金、鐵、白金、寶玉、貴石)、アルタイ(金、銀、鉛、銅、鐵、亞鉛)、イルクツク、ネルチンスク等の地方なり。

工業に就きて記さんに、シベリアは天産に乏しき地にあらざれども、人口の稀薄

なると交通の不便なるとによりて、其の發達を妨害せられ、進歩甚だ遅緩にして、大鐵道の開設後と雖も未だ非常なる盛況を呈せず、大工業は殆ど皆無なり、貿易は充分なる統計なければども、漸次隆昌に赴き、ドイツ人は商業上頗る勢力を有せり、貿易港の主要なるものはウラヂポストク、ニコライエフにして、キアフタは陸路貿易場(運河鐵道の開通の爲め貿易額大に減ぜり)なり、而してシベリアの主要輸出品は貴金屬、穀類、毛皮類等なり、又内地に於ける百貨の集散は、毎歲各處に開設せらるゝ年市により。

交通も亦充分の發達を見ざれども、次第に進歩せんとす、陸路の主要なるものはウラヂポストク、イルクツク間(四四六三軒)、イルクツク、チャメン間(三二七四)、ハバロフスク、ニコライエフ間(九六三)、イルクツク、ヤクーツク間(二七一)、上ウヂンスク、キアフタ間(一五六)にして、馬車、櫓を用ひて往來し、櫓には馴鹿、犬、馬、櫓の別あり、水路はアムル河のストレチンスク、ニコライエフ間、ハバロフスク、カーメン、イバロフ間、バイカル湖并にオプ河のチャメン、トボルスク、トムスク間、チャメン、オムスク、セミバラ、チンスク間を主要なりとす、鐵路は有名なるシベリア鐵道ありて、東清線路と連絡す、又東ロシアのベルムより來り、イカテリンブルグを経て、チャメンに達するものあり。

シベリア鐵道は一千八百九十一年にウラヂポストクより、翌年チェリアピンスクより起工せられたるものにして、其の線路の長さは本支兩線を合せて六千三百三十八軒なり、此の大鐵道の通過する所は最高地と雖も一千六十米突に上らず、隧道はバイカル廻岸線にあるのみなるが、線路は西の方チェリアピンスクより、東の方イダロボ、ストレチンスクに進み、他方に於てはウラヂポストク、ハバロフスク間を連ぬるものを主線とす、而してストレチンスク、ハバロフスク間は工事困難なるを以て之を中止し、別に滿洲を横ぎる鐵道を經營せしなり、シベリア鐵道の影響に就きては、建設の後移住民の渡來増加し、諸種の産業勃興の運に向ひたれども、河川の航運、開市等退歩するに至りしものもあり。

電信線は西の方チャメン、トボルスクより、中間の市街并にイルクツクを経て、ウラヂポストクに達するあり、又カラフト島を貫通するものありて、ヤクーツクを除くの外、主要なる市街を連絡せり。

處誌。シベリア西部の地にして、行政上中央アジアに含まるるもの外、ヨーロッパシベリアに屬する所あれども、便宜上此處に記せるものあり。

イェカテリンブルグ即ちカタリネンブルグはトボル河の支流なるイッセツト河に沿ひ、ウラル鑛區の中心に位し、金屬工業行はれ、商業盛なり、鐵路に依りてペルムに通ず、イルビツト(二、〇〇〇)はツラ河の支流に接し、年市を以て開ゆ以上ハトルム省、トルムスク(二、〇〇〇)はイルチン河に沿ひトボル河との會點に近くして、航運の便を有し、商業稍盛なり、此の地に省廳、コサクの棟梁エルマークの碑あり、ヤルトロフスクはトボル河畔にあり、トラクト(大路)の要驛たり、クルガンも亦トボル河に瀕す、畜産に富み、革類を製す、イシムはイシム河に瀕せる舊市の一にして、穀類を集散す、チャメン(三、〇〇〇)はツラ河に跨る、トラクトに當り、熟皮、敷物を製す、ツリンスクはチャメンの上流、鑛業地にあり、ペレンゾフはソスワ河に沿ふ、オプ河流域最北の市街にして、毛皮の賣買に従事す、以上トボトムスク(五、二〇〇)はトム河畔、海拔九十二米突の地にあり、商業の中心にして、省廳并に大學の所在地なり、街衢の整ひたる住民の多き、實にシベリア第一たり、支線によりて大鐵道に連絡せり、クズネツクはトム河とコン

ドマ河との合流する處に位し、鑛産地にあり、鐵器を製す、マリインスクはトムスク、クラスノヤルスク間の要驛たり、コリワンはオプ河に沿ひ、鑛産地にあり、バルナウル(二、九〇〇)はバルナウル、オプ兩河の會する處、海拔百四十米突に位す、アルタイ鑛區の中心にして、鑛金、製革に従事す、夏季の氣候頗る溫和なり、ピイスクはピイヤとカツンとの合流の地にありて、バルナウル曠野、アルタイ地方、モンゴリア地方等に關する商業地なり、カインスクはバラバ曠野にありて、革類の集散行はる、以上トボムスク

クラスノヤルスク(二、七〇〇)はイニセイとカチとの合流する處にありて、海拔百五十二米突に位す、省廳を有し、食料、毛皮の集散地たり、カンスクはカン河に瀕するが砂金、毛皮の集散に従事す、アチンスクはチャム河に沿ひ、交通上の要驛たり、ミヌシンスクはイニセイ河の東、海拔二百四十五米突にあり、鑛産地たり、イニセイスクは亦イニセイ河に沿ふ、附近沼地多くして、又砂金の産あり、ツルハンスクはツルハンとイニセイとの合流地にあり、毛皮を集散す、以上イニセイイルクツク(五、一〇〇)は海拔四百六十米突の地にありて、總督府の所在地なるが、貴金屬の集散行はれ

て商業上の要樞たり、リストヒヤニチノウエはバイカル湖岸に位し水陸運輸の要衝に當れり、ニヂニウヂンスクはイルクツクの北西、金産地にあり、ベルホレンスクはイルクツクとヤクーツクとの間に於ける一驛たり、キレンスクはキレンガとレナとの合流地にあり交通上の要處たり、以上イルクツク省

ヤクーツクはレナ河に近く位置す、一州の首府なれども人口は六七千に過ぎず、毛皮の賣買行はるベルホヤンスクはヤナ河畔北極圏以南の地にあり寒極として名を知らるゝが亦獵漁の地なり、以上ヤクーツク州

チタはインゴタ河畔海拔七百米突の地にあり州廳を有するが附近には森林多きを以て河舟の製造行はる、カイダロポは鐵道の分岐する處なり、ネルチンスクはネルチヤ河に沿ふ一千六百八十九年清國とロシアとの間に條約を締結せし處にして現今鑛業の中心なり、ストレチェンスクはシルカ河汽船の發着地にして又鐵道の終點なるが、倉庫を有し機械の製造行はる、キフタはセレンガ河の東、海拔七百九十米突の地にあり北京を距ること一千百軒、ペテルブルグを距る七千七十軒にして城塞を有し清國との陸路貿易に従事するが、茶を輸入し毛皮類を輸出す、上ウヂン

スクはセレンガ河とウダ河との合流地に於ける商業地なり、バイカル湖畔のボソルスコイェを以て附庸港とす、ミソワヤはバイカル湖岸にあり交通の要地とす、バルグジンは湖の東にあり、カタミ其の他の地に砂金の産あり、以上外バイカル州 プラゴベシチェンスク(三三〇〇)はアムル河とゼヤ河との會する地に位置し海拔九十米突なるが豊饒なる農業の中心に位し州廳を有し商業隆昌なり、アルバジンはブラゴベシチェンスクの上流、海拔二百四十米突の地に位す、其の名史上に著はる、以上外バイカル州

ウラヂポストク(二九〇〇) 北緯一四三度五四分二一秒はムラウイヨフ半島の南端にありて、ペテロ大帝灣の一支灣なるアムル灣を西に控へソロトイローグ(金角)港に瀕す、此の地は一千八百六十年、北京條約によりてロシア領となりしものにして、舊名海參威を今の名ウラヂポストク(東方を領する意に改めたり、港内は廣大安全にして、四五千噸の艦船數十艘を泊し得べく、沿海の地は岬崎に富みて最も防衛に適し軍港としてはシベリア第一の稱あり、然れども氣候は不其にして、夏季は降雨多く、冬季は嚴寒を覺え、毎年數月間、本港は結氷して使用し難く、僅に破冰船を用ひて通行し得るのみなり、市中には州廳、東洋語學校、等の建築物あり、主なる通りに

は石造或は煉瓦造の高樓を見るも、街路の設備は整はず、工業には稍見るべきものあり、商業も亦盛運に向ふの傾向を有し、商權は主としてドイツ人之を握れり、住民には支那人、朝鮮人少なからず、ニコリヌクはシフン河に近くして有望の地なり、ボシニトは同名の灣の北岸にあり、氣候はウラヂポストクに優れりと雖も、同灣に臨める新キエフに劣れり、ハバロフスクはアムル河の岸にあり、總督府の所在地たるのみならず、商業上の要地たり、ニコライエフはアムル河に沿へる商港なり、アヤンはオホータ海に面して一小港を有す、オホーツクは一小部落たるに過ぎず、ベトロバフロフスクはアワチャ灣に瀕す毛皮の集散地にして城塞あり、以上海州

サハレン(薩哈噠)島即ちカラフト(唐太樺太島は我が大日本帝國の北邊即ちオホータ海の西方に位せる一大島なり、サハレンは舊とアムル河の下流の名稱にして、滿洲人がアムル河口に於ける岩礁をサハレンアンダハダと稱せるを、ロシア人は之を略してサハレンと云ひ遂に本島の名とせるものなり、我が國にて此の地をカラフトと稱するは、我が宗谷港の對岸にありしカラフトなる寄泊地に基づくものの如し。

サハレンが半島なるか島なるかは我が國并にロシアに於ても久しく知られざりしが文化五年(西紀一八〇八)間宮林藏氏が派遣せられ、此の地を南より北に通過し遂に滿洲に入りて歸朝し、以て一島なるを決定するに至れり、然るにロシアにては其の後コサケツチなるもの北方より南下し、初めてサハレンと大陸との間に海峡の存在を知れり(一八四九)而して本島に於ける日本、ロシア兩國の境界は明瞭を缺き、我が國よりは北緯五十度を以て境とせんと提議せることありしも、解決を見ず、慶應三年(一八六七)此の地は兩國の共有地と成り、明治八年(一八七五)千島カラフトの交換條約成りて、日本のカラフトはロシアのサハレンと成れり。

サハレンの南端クリヨン岬は北緯四十五度五十二分にして、北端エリサベタ岬は同じく五十四度二十二分に當る、西は東經百三十九度二十九分^〇に起り、東は同百四十二度二十二分に終る、長さ南北凡そ九百六十浬、幅は二十五浬乃至百五十浬にして、北と東とはオホータ海に臨み、南はラベルズ海峡を隔て、十州島と對し、西はタタル灣、間宮海峡、アムル灣、サハレン灣等を挟みて大陸に對す、面積約七萬六千方浬にして、我が北海道九萬四千方浬より小なり、海岸は出入極めて少なく、西海岸

にはバイカル湖の外著しきものなく東海岸にはアラワ、タルベニアの外小湖あり、岬崎は北にエリサベタ、東にラルベニイ、南にクリヨン、西にボゴビあり、海岸線の延長は僅々二千八百軒なり、主山脈は北部に起り東方に偏して南走し、北緯四十九度邊に於て二派に分かれ、東派はラルベニア灣を抱きて海中に没し、西派は島の南端に至り二派に分れてアニア灣を抱く、西岸山脈にクトウスハル(一二〇〇)あり、東岸山脈中のチアラ(二五五〇)は全島中の最高峯たり、河流は南流或は北流し、トイム(三百餘軒)、ナピット、ホロナイ(二百五十餘軒)等あり、ススアは小流なれども其の流るる處は氣候稍、溫和にして居住するに適せり、湖沼は多くは潟の類にしてアヌチナ、ナピル、タライカ、トブチ等あり、氣候は概して東部及び北部に寒冷にして南部及び西部は稍、溫暖なり、アムル河口の近海は十一月より六月に至るまで氷結す、而してアレクサンドロフスクの平均気温は一月に零下二十二度二、八月に十七度、コルサコフの年平均は二度なり、氣濕に關してはクシヤンナイの如き大陸の乾風の吹き來る處すら晴天の日は百日に達することなし。

住民の主なるものは刑餘の民若しくは囚徒たるロシア人(三萬餘人)にして、土民

(四千餘人)は四種あり、其のオロク(七百七十三人)は北部東岸に、其のギリアク(二千九百十二人)は西岸に、其のアイヌ(一千二百九十三人)は南部に、其のツングス(百五十七人)はホロナイ河沿岸に住す、日本人の定住者は五百人内外なるが、漁期には一萬人内外なりとす、其の他少數の支那人、朝鮮人あり、駐屯兵は一千二三百人なり。

全島の軍務民政は主として軍務、知事之を統轄す、其の主なる機關はアレクサンドロフスク市にあり、全島を三州に分つ、其のアレクサンドロフスクは西岸一帯、ナヤシ河に至る地にして、其のトイムスクはトイム、ホロナヤ河の附近、其のコルサコフスクはノヤシ河及びラルベニア岬までを管す、州には州長、監獄官、其の他を置く、又囚徒の監督に關してはアレクサンドロフスク、ドウエ、ルイコフスク、オノル、コルサコフ等の六ヶ處に集治監を置く。

天産に就きては、鑛物に石炭、琥珀、石油、砂金、銅、銀等あり、植物に樺、樟、白楊、楡、槭等あり、動物には熊、狸、白狐、黒狐、糜、鹿、黒貂、銀鼠、獺、膾、豚、獸、海豹、鯨等あり、鷺、鴨、雁等あり、鱒、鮭、鮭、鱒等あり、生業に關しては、林業、獵業、鑛業(石炭の年産額二萬五、等行はれざるに非ざるも最も重んずべきは漁業として、鱒、鮭、鯨、膾、豚、獸等と與ふるが、鱒、鮭は最も

盛にして日本人の専業に屬し、漁場はマウカ一帯の沿海、アニワ灣、ナイブチ、マヌイの沿海、テルベニア灣、トイム河口、ゴロワチエフ岬附近等とす、其の年産額五百萬疋以上にして主として肥料に供せらる、鮭、鯨等に於けるも我が國の手に依りて漁せらるもの如し、實に本邦人にして、サハレンの漁業に従事するもの漁場主三十人、漁夫約四千、收獲高一ヶ年百四萬餘、ブード(ニ)ブードは四貫三百六十目、約百三十萬に達す、牧業は牛(六千餘頭)、馬(二千五六百頭)、豚(一千五六百頭)、羊、犬等を與ふ。

アレクサンドロフスク 北緯五〇度五三分 東經一四二度八分 は西岸の北部にあり、全島の首府なるが人口一萬四五千を有す、市街は丘陵に據りて建設せられ、官衙、學校、寺院、病院、博物館、圖書館等の設備あり、鉢形を呈せる港は利便ならず、此の地より對岸のデカストリへ達する海底電線あり、ドウエはクタル灣に面す、港形不完全なるも、商業稍盛にして冬季には滿洲地方との交通多し、此の地に拓殖倉庫の本部あり、人口は二千五百人以上に達す、マウカはコルサコフの西七十軒にあり、本邑の近海は日本人の出稼往來するもの多し、コルサコフは一にアニワ港と云ふ、北緯四十六度五十分、アニワ灣の中部に瀕する小邑なり、市街は一小丘を隔てて南北に分かれ、南方の市街に

は本邦領事館、本邦人の商店、官有倉庫等あり、北方には監獄、警察署、郡役所、郵便電信局、病院等あり、港は本島第一の稱あれども遠淺にして碇泊に便ならず、住民は二千八百人内外にして駐屯兵三百餘人なるが、流刑の徒其の七割以上を占む、本邦人にして此の地に居住若しくは往復するもの日に多きを加ふ、チピサニはコルサコフを距ること南東八軒の處にあり、二百餘の住民は農牧を主業とす、ナイブツは東岸の一邑にして漁業を營む、ルニコフスクは州廳の所在にしてトイムの流域にあり。

おせあにあ洲

オセアニア(Oceania) (一にオセアニカと云ふ) 洲即ち大洋洲と云ふは其の狭義に於ては中央太平洋に分布せる數多の島嶼を總稱するに過ぎざれども其の廣義に於ては此等の島嶼の外、オーストラリア并に沿岸島嶼を合はせ稱するなり而してオーストラリアはオセアニアの南西部にありて島嶼中の巨大なるものは大陸の海岸に沿ひ、細微なるものは沙漠たる洋中に散在せり、されば本洲は五大洲中の最小なるものにして地積は九百三十五萬方秆に過ぎざれども其の四極の地を擧ぐれば左記の如く南北約八十八度、東西凡そ百三十四度に亘るを見る。

- 極北 クレスボ島 北緯凡そ 三二 四六
 - 極南 マツカリ島 南緯凡そ 五五 一五
 - 極西 ダークハート島 東經凡そ 一一四 〇〇
 - 極東 サライゴメス島 西經凡そ 一〇五 二八
- 沿岸島嶼は西部をマレシアと云ひ中部をメラネシアと云ひ南部をニューギニア

ンドと云ふ又自餘の無數の小嶼にありては北西に於けるものをミクロネシアと稱し、東部にありて赤道の南と北とに亘れるをポリネシアと稱す、今左に一表を作りて各部の地積を摘示せり。

| | | | |
|---------|--|----------|-----------------------|
| オセアニア | | 大陸部 | 七六九方秆 |
| オーストラリア | | タスマニア | 七六二、七八三 ^{方秆} |
| オーストラリア | | タスマニア | 六、八三〇九 |
| 沿岸島嶼 | | オーストラリア | 一六三、六八〇五 |
| マレシア | | | 四一、〇〇〇〇 |
| メラネシア | | | 九五、三八一六 |
| ニューギニア | | | 二七、二九八九 |
| ミクロネシア | | | 三五、四六 |
| ポリネシア | | | 二六、七九九 |
| 島嶼部 | | 一六六方秆 | |
| オセアニア | | 九百三十五萬方秆 | |

大陸部

オーストラリア

境域 オーストラリア (Australia) ラテン語アウストラリス(南或は南方の意)より来る、フランドリス名はオーストラリアにしてドイツ名はアウス、即ち南大陸はアジア洲の南東にあり諸大陸中の最小なるものにして島嶼中の最大なるものなるが、極北はヨーク岬の南緯十度四十二分より極南のウエリントン岬の南緯三十九度九分に至り、極西はスチープ岬の東經凡そ百十二度にして極東はバイロン岬の東經百五十三度四十分なり、北はアラフラ海に依りてマライ群島と境し又バプア島と相隔るにトルネネ海峡を以て、東は太平洋に臨み南はバス海峡を挟みてタスマニア島と相對し且つ印産洋南海に瀕せるが西は印度洋に面す、本大陸の形狀は扇の地紙に似て東西に稍長くして凡そ三千八百軒を有し南北は凡そ三千一百軒あり面積は凡そ七百六十三萬方軒ありてオーストラシア(南アジア) オーストラリア、バプア、タスマニア、ニューギニア、ニューカレドニア、ビスマルク群島、其の他の小島を合はせ稱する名なるが、時として

てはオーストラリア、ニューギニア、タスマニア及びフィの主要部を爲せり。

海岸 海岸線の延長は一萬六千軒あれども彎曲少く港灣に乏し、南海岸の西部はオーストラリア大灣と稱して一大圓弧を爲す、其の海濱は平低なる沙洲に非ざれば、一百乃至二百米突の絶崖にして巨河は勿論一の細流だも存せず、小港の如きも皆無なり而して西海岸も亦殆ど同様の狀況を呈せり之に反して南岸の東部并に東岸の南部は山岳丘陵に富み蒼鬱たる綠樹繁茂して到る處風色の賞すべきあり、北東岸は珊瑚質の大礁堤 長さ約一千九百軒、海岸を距にて圍るるを以て船舶は容易に接近するを得ず、又北岸に於ては顯著なるカルペンタリア灣あれども利益を供すべき港灣に乏し。

| | | | | |
|-------|--------------|---------|---------|---------|
| 北部灣 | ケンプリヂ灣 | アンソン灣 | ダーキン港 | バンヂエメン灣 |
| アラフラ海 | カーペンタリア灣 | アルンヘム灣 | ハリファクス灣 | ブロード灣 |
| 珊瑚海 | プリンセスシャーロット灣 | ハリファクス灣 | ブロード灣 | |

ループク灣 キング灣 コリエル灣 ヨーク灣 アドミラルチー

世界地理 おせあにあ洲 大陸部 オーストラリア

海灣

- 東部 ヘルベール灣 モレトン灣 ブロークン灣 シェクソン港 ボタニー
- 南部 フィリップ港 エンカウンター灣 セントビンセント灣 スペンサー
- 西部 ジェオグラヒー灣 シアーク灣 エクスマウス灣

海峡

- クラレンス
- グンダス
- トルレス
- バス
- バックステア
- インベステグ
- トリトル

島嶼

- 北部 アウグスツス島 バサルスト島 メルビル島 ウラセル諸島
- 東部 ルートエイラント島 木曜島 ウェールズ公島
- 南部 フルノー群島 タスマニア島 キング島 カンガルー島
- 西部 チルクハルトク島
- 東部 ヒンチンブルック島 クルチス島 クレイトサンダー(フラザ)島
- 東部 ストラドブローク島 モレトン島
- 西部 デルクララント半島 アルンヘムランド(カーベンタリア半島)

半島

- ヨーク岬半島
- ヨーク半島
- エーア半島
- 北部 レベック
- ブリガインビル
- ウイバーフォース
- アルンヘム
- ヨーク

地角

- 東部 シンガローフ
- ホーエ
- 南部 ウイルソン
- オトウエー
- ネルソン
- ジャッファ
- スペインサー
- 西部 ナチラリスト
- スチープ
- 北西岬
- カタストロフ
- 西ホーエ

地質 本大陸は他の諸大陸に於て見る如く數代の岩石より成れり第一に古生界に就きて肥さんにオーストラリアの主山脈の大部は此の舊岩石を以て組織せられブリッパ山脈、オーストラリアアルプ、大分水山脈、ビレネー山脈、グランピアン山脈の如き皆然るを見る、而して西岸に至れば本界の露出は甚だ少なく、内部に至れば沙漠中に孤立せる丘峯を爲して花崗岩的岩石の少なからざる面積を占むるあり、クウインズランドに於ては石炭紀の地頗る發達して南緯十五度乃至二十九度に亘り十三萬方料以上を蔽へり、第二中世界は諸處に發見せらるるが殊にクウインズ

ランドに最も多くニッパウスウェールズ、ピクトリア、西オーストラリアの上に位せり、實にクウンスランドの内部に於ける中生界は北はカーペンタリア灣に達せんとし、南はダーリング河以南の同界と連なり、白堊紀の地の合計は五十二萬方呎に近しと稱せらる。第三には第三紀層を記述せんに、此の層はオーストラリアに於ては甚だ廣き部分を占め殊に南部及び東方の内部に於て發達せり、而してミオシシ層は最もムレー河の流域に發達せるがオーストラリア大灣に沿へる絶壁の多くは亦ミオシシ石炭岩より成れり、第四に第四紀層に就きて一言せんに、本層も亦オーストラリアの多くの部分に於て見ることを得るが化石の示す所に依れば絶滅せし動物は概して現存せるものより大なりしこと他の諸地方に於けるが如し、而して活火山は今日一も存するなきも消火山の數は多く、火山岩殊に花崗岩の露出は西オーストラリアに著し。

之を要するに本大陸の地質探検は未だ不充分なるを免れざるも、今日信ぜらるる所に従へば太古代に於ては現大陸の東方に尙ほ相應の陸地ありしが、中世代に至りてアジア大陸より分離し、但オーストラリアは今のバプア、モルッカ以北、タスマニア以南及び喜望峯の方に據り居たり、第三

紀の或る時代に於ても現今より面積廣くして、セントポール島及びアムステルダム島はオーストラリア及び南アフリカの植物の過渡地たるを示すが、此の紀の末葉に至りて土地の下降壞崩せしこと大なりき。

山誌 本大陸はオセアニア洲中の最大の陸塊なるも全洲中の最高峯は此の地に存せずして却て他の島嶼にあり、南大陸第一の山岳たるタウンシンドは僅に二千二百四十一米突に過ぎして雪線の下にあり、東部に於けるグレートデバイデング(大分水)山脈は更に分ちてオーストラリアアルプ、ブリアー、リパブル、等と稱へられ、西部には著しからざるダーリング山脈あり、内部にも東西或は南北の方向に走る山脈少なからず。

グレートデバイデング山脈 ホーウィット(一七四二) ホータム(一八五九)

オーストラリアアルプ山脈 フエザートップ(一九二二) コッペラス(一八三六)

スコ(二二三六) ギッボ(一七五七) タウンシンド(二二四二) コシヤ

ブリアー(青)山脈 ビーマラン(二二五〇)

リバプールの山脈 オクスリー(一三七〇)

ニッパイングランド山脈 カブンベタ(一四四〇)

ダーリング山脈 ウリアム(一一二二)

水誌 本大陸は高山秀嶺に乏しき臺地より成れるを以て降雨少なく氷河積雪を見ること能はずされば氣候は乾燥に失して河流の水量の如きは極めて寡少なり而して沿海の地に於ける河流は細流にして著しきものは更になく内部に於けるものと雖も稍著しきは唯一のマルレー河あるのみ。

印度洋斜面

マルレー マルフランピツナ マルチソン ガスコイネ アンブルトン

フィッロイ ダーリク ビクトリア フリンダース

太平洋斜面

ブルデキン フィッロイ

閉塞地 クーベルス クリック デアメンチナ

マルレー河(一八〇〇)はオーストラリアアルプの西面、コシスコ山の南凡そ二十

四軒の地に發源し、イペリナの平野を潤してアレクサンドリナ湖を經、水底深き灣を爲して南海に注ぐ、長さは一千八百軒にして流域は百萬方軒あり、水量は一秒時に三百五十六立方米突を流下するに過ぎず、然れども河口よりアルバリーに至る一千五六百軒の間は或る時期に際し小汽船を以て航行し得べし、支流の主要なるものはラクラン河の水を受くるマラン、ビデーと本流より長きダーリングにして孰れも右岸より會するが此の外にミッタ、ミッタ、オベンス、グールブルン、カムパスベ、ロンドン、等あり、ダーリング(二〇〇〇)は亦大分水山脈の西に起りマッカリー、コンダマイン、其の他の諸流より成りて河幅の平均は七十三米突、深さ五米突と稱せらるるも氣節に依りて大に變化す。

沼湖に就きてアレクサンドリナ湖はオーストラリアに於ける最大の淡水湖なるが水層淺くして航行に不便を感じ、此の他の湖沼の多くは冬季の降雨時期に限りて存するあり、或は出現後數年を経て消滅するあり、中に就きて稍大なるものを示せばトルレンス、ガイルドネル(海面上一二米突)、エーア(海面下一二)、アマデウス(海面上二〇四)等あり。

地勢 他の諸大陸に見るが如き高峯、長流、大湖を有せざる本大陸は其の平均海拔二百六十米突に過ぎずと稱せらる、而して沿岸山脈は内面に緩斜して廣漠たる荒蕪不毛の高原を包み、内部の此處彼處には孤立せる丘陵あり、臺地の周圍に多少の牧地あり、又太平洋沿岸には森林に富み、耕耘に適せる沃地あり、然れども此等の有用なる土地の面積は大陸の總面積の十分一内外に過ぎざるべし。

氣候 オーストラリアは南半球にあるを以て四季は我が日本と反對なるが氣候は地方に依りて大に趣を異にせり、沿海の地は概して健康に適して、ブルスマーニに於ては五十六度二より雪下三度に至り、メルボルンにありては四十三度七より雪下二度八を示す、然れども零度以上に降ること稀にして日光下には八十度に昇るも樹陰にありては四十度を示し、海より吹き來る涼風絶えざるが故に、凌ぐに易し、要するに七月同温線は北より南に進むに従て温度の低下(二四度—一〇度)を示し、一月同温線は海岸より内部に進むに従て高温(二四度—三四度)を示す、降雨の度数は甚だ多からず、内部にありては熱風吹き降雨稀(年二十種以下の處多し)にして空氣は乾燥に失す、是れ植物の繁茂を妨ぐる原因にして従て動物も盛に生存するを得ず。

天産 オーストラリア地方は生物の分布上一帯を形成せり、而して地味肥沃にして草木の繁茂するは南東の沿岸なれども植物の種類は甚だ少なくて僅に「アカシア」「ゴム」の數種に過ぎず、然れども有名なる「イッカリ」(Eucalyptus globulus)は直立百五十米突に達し樹木の王と稱せらるるに耻ぢず、動物に於けるも亦種類に乏しくして牛、馬、羊、犬等の如きは凡べてヨーロッパ人の移植に係り、固有のものとは「カシガル」(Halmaturus)、「カモノハシ」(Orythorhynchus paradoxus)等の奇獸、其他「ヒクヒドリ」(Casuaris galatus)、鸚鵡類等を見るに過ぎず、礦物には多量の金あり、銅あり、多少の銀、鉛の存するあり、石炭は其の量少なからざれども炭質には缺くる所なきに非ず、又寶石類は北部の地より産す。

沿革 マガリアエンスの死後一五二二彼の部下が西オーストラリアを見しは信ずるに足るべきも暫く措て問はず、一千五百三十年頃フランスにて成れる地圖にはオーストラリアはジャバルグランド(大ジャバ)として記され居れり、一千六百〇六年イスパニア人トルレス來り、次でデルクハルトグ(一六一六)、アレンヘム(一六一八)、タ

スマン等の來航あり、イギリス人は一千六百八十八年に始めて此の島嶼的大陸に至り、其の後一世期を經一千七百七十年に及てクークの東海岸を探検せるあり、全海岸の探検はビーグル號に依りて完成せられたり(一八三七—四三)而して内部の探査はイギリスがニューサウスウェールズを占領せし時(一七八八)より始まり、探検家にバス、プリンダース、オクスリー、スタルト、エーア、ライハルト、バルク、ウィルス、スチャア、イト、ワルブルトン、フォルレスト、ジイルス等あり、かくの如くにしてニューサウスウェールズは本大陸に於けるイギリス殖民地の全部を意味せしが後西オーストラリア(一八二九)南オーストラリア(一八三四)ビクトリア(一八五二)クウンスランド(一八五九)の四殖民地分離し、一千九百一年に至りて前記の五殖民地はタスマニアと共にオーストラリア共和國を組成し以て今日に至れり、要するに本大陸は東半球に於て最も遅く吾人に知られ、當初に於てはイギリスの流謫地たるに過ぎざりしも、一千八百五十一年黄金の發見ありしより以來各方面に向ひて發達せり、即ち一千七百八十八年に於てポタニー灣に始めて殖民地を設けし時西洋人は一千三十人に過ぎざりしに目下四百萬に達せんとするが如き豈其の一證に非ずや。

住民 人口は三百七十七萬を超え白人は著しく増加するに反し土人は漸く減少し今は二十三萬に過ぎず、而して人口の配布には不同ありと雖も概して稀薄にしてオーストラリア共和國としては十方料に付き五人なりとす。

| 原州及屬地 | 地積 | 人口 | 方料ニ付 |
|-------------|----------|----------|------|
| クインズランド | 一七三、一三三七 | 五一、四八五〇 | 〇、三 |
| バプア | 二二、九一〇二 | 三五、〇〇〇〇 | 一、五 |
| ニューサウスウェールズ | 八〇、四五七六 | 一四〇、七七一〇 | 一、六 |
| ロードホーウズ島 | 一六 | 一〇〇 | 六 |
| ノルフォーク島 | 四四 | 八二七 | 一九 |
| ビクトリア | 二二、七六一〇 | 一一〇、五五一〇 | 五 |
| サウスオーストラリア | 九八、四三三〇 | 三六、五七九〇 | 〇、三七 |
| 北領土 | 一三五、六一三〇 | 二一、五一四〇 | 〇、一六 |
| ウエストオーストラリア | 二五二、七五三〇 | 一四、八〇〇〇 | 〇、〇六 |

世界地理 おせあにあ洲 大陸部 オーストラリア

| | | | |
|---------|----------|----------|-----|
| タタスマニア | 六、七八九四 | 一七、七〇八〇 | 二、五 |
| マクカリー群島 | 四四〇 | | |
| 合計 | 七九二、九〇〇九 | 四三八、五〇〇〇 | 〇、五 |

更に住民を生地別にして示せば左の如くにして在留日本人の数は四千に達せざるべし。

| 生地 | 人員 | 生地 | 人員 |
|---------|----------|---------|----------|
| オーストラリア | 二九〇、六二二一 | 一般ヨーロッパ | 三、八六四五 |
| イギリス本國 | 六七、九一五九 | 支那 | 二、九九〇七 |
| イギリス殖民地 | 四、二九六四 | 其他 | 三、六三六五 |
| ドイツ | 三、八四五四 | 合計 | 三七七、一七二五 |

オーストラリア土人は身長ヨーロッパ人に及ばずして骨格逞しからず、顔色は屢「コヒー」的褐色或は深黒的銅色を呈し毛髪に富み五十歳を超ゆるもの稀なり、心性は多くの他の蠻民に比すれば明らかに劣るも多少發達せりと稱し得べし、衣服は

多くは用ゐられず、家屋は其の劣惡之に優るものあらざるべく、食物は種々ありて哺乳動物、鳥類、蜥蜴、蛙、蟻等の動物あり、野生の大薯の一種燈心草の一種 *Lypha latifolia* は最も賞食せらるる植物なり、而して種族に依りては今尙ほ人肉を食すと云ふ、言語は多級的にして他に類例を見る能はず、數の思想は甚だ幼稚にして種族の多くは三或は五以上を數ふるを知らず。

宗教は國教と稱するものは存せざれども住民の多くは基督教を奉ず、

| 教名 | 信者 | 教名 | 信者 |
|----------|----------|------|----------|
| イギリス教 | 一四九、七五七九 | ユデア教 | 一、五二三九 |
| 其他の新教 | 一二〇、二五九六 | 其他 | 五、〇三三二 |
| ローマカトリック | 八五、五七九九 | 不明 | 八、〇六七三 |
| 其他の基督教 | 六、九五九七 | 合計 | 三七七、一七一五 |

教育の發達に就きては稍、觀るに足るものあり、シドニー、メルボルン、阿德レード等には大學を設けて高等の教育を施し本國の大學に於けるが如き學位を授く、而

して中等、初等の學校を合はすれば其の數一萬二三千にして約八十二萬の學生生徒を教育す。

政治 オーストラリア共和國 (The Commonwealth of Australia) はクイーンズランド、ニュー・サウス・ウェールズ、ビクトリア、サウス・オーストラリア、ウェスト・オーストラリア、タスマニアの六原州 (Original States) より成り、立法權はイギリス王を代表する總督及び元老院 (議員は各原州代議院の約二倍、今七十五人) 之を司り其の權限甚だ大なり、行政權は總督之を掌り行政會議 (七大臣) 之をして補助の任に當らしむ、而して行政府は目下總督首相兼外務司法内務財務商業海關軍務遞信の諸大臣、行政會議副議長より成れり、各州には二院より構成せらるる議會と知事とを置く。

軍備に就きて陸兵には凡そ一千一百の常備兵あり之に義勇兵等を加ふれば合計五萬九千人に近し、海軍は一等巡洋艦一隻、二等巡洋艦二隻、三等巡洋艦四隻、スループ四隻を有するに至るべし、シドニーを以て本據地とす。

財政の梗概を記せば歳入は一千百五十六萬餘ポンドにして殆ど關稅及び國產稅九一一萬、(ポント) 郵稅(二四五)より得られ、歳出は行政費の約四百三十二萬ポンド、

各州分與金凡そ七百二十五萬ポンド合計一千百五十七萬餘ポンド(一九〇三—〇四)なり、左に各州別に歳出入、公債(一九〇二—〇三)に就きて記す所あらん。

| 州名 | 歳入 | 歳出 | 公債 |
|---------------|------------------------|------------------------|-------------------------|
| ビクトリア | 六九六、八〇五 ^{ポント} | 六七七、四〇八 ^{ポント} | 五一四四、七九〇 ^{ポント} |
| ニュー・サウス・ウェールズ | 一一五三、二二三 | 一一七〇、三三九七 | 七七六九、二九八七 |
| クイーンズランド | 三五二、六四六五 | 三七一、七八〇六 | 四一〇三、一二四七 |
| サウスオーストラリア | 二五三、一五四三 | 二六四、一七八九 | 二七八四、三三七〇 |
| ウェスト・オーストラリア | 三六三、〇二三八 | 三五二、一七六三 | 一五六二、七二九八 |
| タスマニア | 七三、四六六三 | 八五、〇六八四 | 九二二、八九六三 |
| オーストラリア聯邦 | 二八九二、三二九一 | 二九二〇、九五二三 | 二二八七、一七六五 |

生業 農業は穀類、牧草、馬鈴薯、葡萄、煙草、實綿及び砂糖の原料たる甘蔗等を與へざるに非ざるも其の生産力は牧業に及ばず、牧業はオーストラリア第一の生業に

して綿羊の飼養殊に盛に行はれ總頭数は五千四百萬頭ありて、生毛の産額は世界無比と稱せらる、而して斯業の最も盛なるはニュー・サウス・ウェールズなり、ビクトリア、クイーンズランド之に次げり。

| 州名 | 綿羊 | 金額 | |
|---------------|-----------|-----------|-----------|
| | | 重量 | 價格 |
| ニュー・サウス・ウェールズ | 二六六四、九四二四 | 一三五二、二三六一 | 四九八四、四一三五 |
| ビクトリア | 一〇八四、一七九〇 | 七七、七七三八 | 三〇六、二〇二八 |
| クイーンズランド | 七二一、三九八五 | 八六、〇四五三 | 二七二、〇六三九 |
| サウス・オーストラリア | 四八八、〇五四〇 | 二、八一九八 | ? |
| ウエスト・オーストラリア | 二六九、七八九七 | 二二七、七四四二 | 七九四、七六六三 |
| タスマニア | 一六七、九五一八 | ? | ? |
| 合計 | 五三九六、三一五四 | 一七三六、六一九二 | 六三五七、四四六五 |

鑛業は牧業に次ぎて主要なる生業にして銅、鉛、銀、等も存すれども殊に多量の金を産し主としてニュー・サウス・ウェールズ、より出づ、又本州は石炭の産出少なからず、工業は未だ隆昌に至らざるが製造場の創設又は増設は主要なる市街の地に於てせり、商業は稍盛にして一千九百二年に於ける貿易高は左の如し「單位萬」。

| 原州 | 輸入 | 輸出 | 全計 |
|---------------|--------|--------|----------|
| | | | |
| ニュー・サウス・ウェールズ | 二五九七、四 | 二三五四、四 | 四九五一、八 |
| クイーンズランド | 七三五、三 | 九一七、一 | 一六五二、四 |
| サウス・オーストラリア | 六一三、〇 | 七八六、一 | 一三九九、一 |
| ウエスト・オーストラリア | 七二一、八 | 九〇五、一 | 一六二六、九 |
| タスマニア | 二四四、三 | 三二四、五 | 五六八、八 |
| 合計 | 六七三八、八 | 七二〇八、三 | 一、三八四七、一 |

右の中外国との貿易は輸入に四千七十六萬八千ポンドありて、輸出に四千三百九十一萬五千ポンドあり。

三四〇

| 國名 | 輸入 | 輸出 | 國名 | 輸入 | 輸出 |
|------------|----------|-------|----------|---------|-------|
| イギリス | 二三八四、九二〇 | 二二、四 | ドイツ | 二六五、八二五 | 四、三 |
| ニール・ジールランド | 二七五、〇 | 一三九、六 | フランス | 五二、六二六 | 〇、三 |
| 印度、セイラン | 一三二、三 | 三八八、〇 | ベルジック | 三五、二二四 | 三、五 |
| ナタル | — | 二一八、八 | オランダ、ジャバ | 八一、四 | 二八、二 |
| ケープコロニー | 六 | 三七八、一 | アメリカ | 四九九、〇 | 三七、一 |
| 其他イギリス殖民地 | 一三九、五 | 九五、三 | 其他 | 二一〇、五 | 一九一、六 |

主要輸出品は金生毛等十二種にして之等に次げるは熟皮八十三萬ポンドなり

| 主 | 要 | 主 | 要 |
|----|--------|----|-------|
| 金 | 一八五九、三 | 皮革 | 二七七、九 |
| 生毛 | 一四四一、〇 | 動物 | 二三〇、九 |
| | | 銅 | 一七二、五 |
| | | | 一六五、五 |

| 品 | 輸出 | 品 | 輸出 |
|---|-------|-----|-------|
| 銀 | 二九三、一 | 小麦 | 一九五、三 |
| 肉 | 二八六、八 | 石炭 | 一八〇、七 |
| | | 砂糖 | 一三六、二 |
| | | タバコ | 一一〇、一 |

交通に關して船舶は入船に一千三百三十八萬餘噸ありて出船に一千三百四十一萬噸あり、鐵道は約二萬二千七百噸あり、郵便は六千四百餘局を有し、電信線は延長十九萬六千噸を超えて重要な市街を連絡せり、而して水府線はダーウイン港をシバ島のバレンジウワンギに連ね、シドニーをニール・ジールランドのネルソン港とメルボルンをタスマニアのジョージタウンと通ぜしむの左表は電線一九〇二年開なり。

| 原州 | 船 | | 鐵道 | 郵便 | 電線 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|--------|
| | 入 | 出 | | | |
| ビクトリア | 三三六、七 | 三三七、二 | 五四四、四 | 一六四、九 | 二、五二、三 |
| ニール・サウス・ウエールズ | 四三九、〇 | 四三三、八 | 五一八、二 | 二二一、六 | 九、四七、九 |
| クインズランド | 一〇三、六 | 一〇三、二 | 四五二、七 | 一三〇、〇 | 三、三三、〇 |
| サウス・オーストラリア | 二〇三、一 | 二二〇、一 | 三〇五、九 | 七〇、二 | 二、二五、九 |

世界地理 おせあにあ洲 大陸部 オーストラリア

三四一

| | | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|------|---------|
| ウエストオーストラリア | 一六七、一 | 一六八、七 | 三四五二 | 一九七 | 一、四六五二 |
| タスマニア | 八八、七 | 八八、〇 | 九九八 | 三七七 | 五五七二 |
| 合 計 | 一三三八、二 | 一三四一、〇 | 二、二六六二 | 六四四一 | 一九、六〇四四 |

三四二

處誌。オーストラリア大陸を分ちて東部(ビクトリア、ニューサウス・ウェールズ、クイーンズランド)、中部(サウス・オーストラリア、北領土)、西部(ウエストオーストラリア)の三とし、タスマニア島を更に一部として記述せんとす。

其一 東部

東部は北東南の三面に海を繞らすと雖も其の西部の境界は自然的ならず、グレート・チャイニング山脈東岸に近く走りて北上し以て内部の臺地を劃するが臺地は閉塞地に屬せる處あるも主としてマルレー河の流域に當れり。

ビクトリア州はオーストラリア大陸の南東部を占む北はマルレー河及び該河の一水源なるフレスト丘よりホーエ岬に至る一直線を以てニューサウス・ウェールズと境し、南は海に臨み、西は東經百四十一度の子午線を以てサウス・オーストラリアより劃せらる、此の如くにして本州は不規則なる三角形を呈し、約四百二十軒に達する西部の底より東部の頂點までは約六百八十軒あり、面積は本大陸に於ける五州中最も小なり、海岸線は凡そ九百七十軒なるべし、灣はフィリップ港の外にウエスタルン港、ワラター灣、コルナー灣等を見るが岬嶺にはホーエ、ウィルソン、オートウエー、ネルソン等あり、島嶼は大なるものなく、フレンチ、フィリップの二島を掲ぐべきのみ、山脈は畧ぼ東西に走りてオーストラリアアルプ、チャイニング、ピレネー等の名を取り、尙ほ進んで西より北に方向を變じグランピアンと成る、最高峯はボゴン(一九八四)と稱せられ、此の外にフザートップ(一九二三)、ホータム(一八五九)、コッペラス(一八三六)、バイロト(一八三五)等あるも、其の海拔は孰れも著しからずして、本州の山岳の平均海拔は約九百十米突に過ぎず、河流は山脈の爲めに沿岸流とマルレー河系とに分たれ、前者にスノーイー(下流一九三軒)、ラトロベ(一一七)、ヤラ・ヤラ(二四二)、

ホプキンス(二四九)あり、後者にはグトルブルン(五五五)、ロッドン(三六二)、カムバス(二四二)、オーベン(二二五)、ミッタミタ(二八二)あり、然れども河流の多くは冬季には激奔し、

夏季には細流と成り甚しきに至ては全く乾涸するを以て、航河と稱すべきものは、マルレー(一五七七)の外には甚だ僅なり、沼湖は數多きも概して水層淺くして、夏季には生を湛えざるものあり、鹹性なるコランガイトは最大の名あるも約二百三十方杆にして、ウエルントン、ビクトリア等と共に其の面積著しからず、土地の大部は山岳丘陵の占むる所と成り、平原は北面部に於て存するを見る、之即ちウイムメラ地方にして、ビネネー、グラムビアンの二山脈よりマルレー河に達し五萬方杆以上の面積あり、其の多くは牧地として適當なるのみなり、氣候は一般に溫和乾燥にして著しく人身に適せり、低地に於ては殆ど霜を知らざるも山岳地方は夜間屢氷結す、雨量は山岳殊に其の東部に於て多く、ウイムメラ地方は三十五種六を超ゆること稀にして、土質は主として砂質なるを以て蒸發は驚くべきものあり、メルボルンに於ける平均雨量は六十三種五なるも年に依りて三十五種六乃至百二十一種九を示す、生物に就きてはオーストラリア固有のものに富む、四足獸（哺乳類）、及（鳥類）鳥類（鳥類）、（魚類）にしてイギリスより移植せられ今は自然化せるもの少なからず、人口は一千九百二年に於て百二十萬餘あり、一方杆平均五人にして六原州中最

も稠密なりとす、而して全人口の約五分の三七〇、八五一〇は都會の地に住せり、又一千九百一年の人口一二〇、一三四一百分中の九十八は其の生誕イギリスのなるが、支那人は七千三百四十九人、土人は六百五十二人なりき、海路に依る移民數は來住（九三、七五、〇七、二九、〇〇、三）、往住（九、七〇、九三、三二、九〇〇、三）、共に未だ十萬に達せず、宗教は國教と稱すべきものなく、住民の過半百分中七、四、五は新教を奉じ、殘餘はローマカトリック（二二）、ユダヤ、佛教、儒教等を信ず、教育は大學（一）、專門學校（二、八）、小學（二〇、四一）及び私立學校（八、七二）に於て施され、小學教育は強制的なり、中等教育は全く私人或は團體の支配の下にありて何等かの宗派と關係を有するを常とす、議會は上院（議員數三五人）及び下院（六）より成り、知事は九大員より成る内閣に依りて幫助せられ、地方は六十町區、百四十八村區に分たる、司法に就きては一大審院の外に數種の裁判所あり、財政上歳入、歳出、公債の多きことに於ては聯邦第二に位し、歳入は主として鐵道、租稅等より得られ、歳出の中鐵道費、公債利子は最も主要なるものなり。

生業に就きては、農業は近年頗る進歩し、沿岸の地方は勿論山脈の北部に於ける地方に於ても給水の便ある處に行はれ、小麥、オート麥、大麥、馬鈴薯、牧草等の

栽培あり、葡萄、オリブ、其の他の果物も前途有望なり、牧業は當州の主業にして一千九百一年に於て牛(一六〇萬頭)、馬(三九)、豚(三五)殊に一千八十四萬餘頭(六原州中第一の羊を飼養せり、鑛業は金を採集す、産地はバララット、ピーチウアルス、カッスルメーン、サンドハルスト(ドンデゴ)、マリーポロー、アララット、ギップスランド等の諸地方にして、一千八百五十一年より一千九百二年までの累計産額は六千五百九十一萬三千九百十二、オンス)、二億六千三百五十五萬四千九百九、ポンドなりとす、工業は四千三ヶ所の工場を有するも國內の需用を充たすに過ぎず、貿易は輸出入共にイギリス領地との間に營まれ全計(一九〇二)はニッソー、サウス・ウエールズに次げり。

| 輸 入 | | 輸 出 | |
|---------|--------------------------------|---------|--------------------------------|
| 總額 | 一八二七、〇二四五 <small>「ポンド」</small> | 總額 | 一八二一、〇五二三 <small>「ポンド」</small> |
| イギリス領 | 一四六二、七七七三 | イギリス領 | 一六一七、五七四三 |
| 本國 | 六九三、五〇四〇 | オーストラリア | 七八四、一一八八 |
| オーストラリア | 五四一、二五二〇 | 本國 | 三四三、三三二〇 |
| 外國 | 三六四、二四七二 | 外國 | 二〇三、四七八〇 |

主要輸出品は金(四三〇萬、ポンド)、生毛(三四七、穀類(一一五)等にして主要輸入品は生獸(二二〇)、生毛(一一四)等なり、交通は船舶(一九〇二)に三百七十二隻、約十萬四千噸ありて、一千九百二年に於ける入船は二千二百七十八隻、三百三十六萬餘噸、出船は二千二百八十六隻、三百三十七萬餘噸あり、イギリス船の出入は凡そ五百八十九萬噸なり、港の主要なるものはメルボルン、ジローン、ポートランド、ワルナムブル

なり、鐵道は五千四百四十四軒の延長を有しオーストラリア第一なり。

處誌、メルボルン(五〇、三〇〇) 南緯一四度五分 東經一四七度五分は本州の首府にして目下聯邦の政廳のある處なり、市街はヤラヤラ河に跨りて、フィリップ灣に近く位置し、メルボルン港横濱より四九九〇哩及び外港たるキリアムスタウンを控え商業甚だ盛なり、公園、公署等見るべきものあり、ジローン(二五、〇〇〇)はフィリップ灣の西に位せる一港にして羊毛工業行はる、バララット(四、九〇〇〇)はメルボルンの西北西百八十九軒に當り、分水山脈の南面海拔四百三十一米突にあり、産金地に位し州内第二の都

會たり、アララッドはホブキン河の水源に近くして穀類生毛に富める地方の商業中心たり、附近に葡萄園多し、ブルカムブル(六四〇四)はホブキン河の河口に近き海港なり、生毛穀類を輸出す、ポルトフェーリーはモイン河口に於ける港にして亦生毛其の他の輸出あり、ポルトランドは同名の灣に瀕し家畜生毛類を輸出す、附近の地頗る肥沃なり、セールはメルボルンの東南東トムブソン河畔に位して牧農鑛の行はるる地方にあり、バイルンステールは「ホッブ」の産地にありてミツチェル河に沿へり、ピイチウアルスは州の北東部オーベンス産金地にありて附近の地は農業に適せり、エチャカはマルレー河とカムバスベ河との相會する處にありて海拔九十八米突に位す、航運上の要地なり、サンダグルス(四二〇〇〇)は、ベンデゴとも云へり、海拔二百三十一米突にありて主金産地なり、カッスルメーン(七九一二)マリーゴローは孰れも鑛業及び農業の行はるる地方にあり、スタウエル(五三一八)は亦産金地にあるが農民少なからず、ホルシムは農産地にあり。

ニッソーサウス・ウエールス

ニッソーサウス・ウエールス州即ち新南エールスはオーストラ

リア領民地の母にして東部三州の中部に位す、北は概して不自然なる境界を以て

クインズランドと劃せられ、東は海に臨み、南はビクトリアに接し、西は東經百四十一度の經線を以てサウスオーストラリアとの境とす、長さ一千四百五十軒ありて幅は一千三百七十軒に達するが、面積は我が國の二倍に及ばずして六原州中の第四位にあり、海岸は絶崖、巉巖より成り顯著なる出入多からざるも、小出入に乏しからずしてジクソン港の如きは世界の最良港の一に數へらる、此の外にトリアアル、ステフェン港、ブロークン、ジェルビス、ベートマン、ツァーフアルド、デザスター、等の小灣あり、岬崎にバイロン、スモークイ、シャーガー、ローフポイント等あり、島嶼は記すに足るものなし。

山脈は西部にグレイ山脈、アロースミス(六一〇)、スタンリー山脈あるも主として大分水山脈其の東部を走れり、而して該山脈は七主部に分かるが今之を表示すること左の如し。

ムニオン山脈 タウンセンド(二二四一) コシッスコ(二二三六)

モナロ山脈 ヌニターブル(一〇五六)

グールク山脈 デンヅリアン(一三一一)

世界地理 わせあにみ洲 大陸部 オーストラリア

等の外に「リレー」(Menura superba)冠鳩 (Lopholaimus antarcticus)等の存するを見る。

人口は一千九百二年に於て一千四百七萬を超えて一方糶一人六を示し、稠密の度はビクトリアに劣れり而して其の前年の人口(一三五、九一三三)を種別にすれば百分中九七、二四はイギリス人にして、殘餘は支那人(〇、七四)、ドイツ人(〇、六四)等より成りしが、土人は四千二百八十七人に過ぎざりき、海路に依れる移民(一九〇二)は來住に約八萬一千二百人ありて往住に約五萬八千三百人あり、宗教はキリスト教最も行はる、教育は州立に二千八百四十六校、私立に八百六十八校あり、初等教育は強制的にして大學はシドニーに設けらる、議會は上院議員二十人及び下院議員五十人より成りて立法權を司るが、下院議員の選舉權は婦人亦之を有せり、行政は知事の司る所にして七大臣より成れる内閣に依りて補助せられ、地方は七十八府 (boroughs) 百十二村 (municipal districts) 合計百九十區に分つ、裁判所には大審院、地方裁判所等あり、財政上歳入、歳出及び公債の高に於てはオーストラリア第一にして、歳入は主として遞信、給水、土地等より得らるゝが、歳出は遞信、公債利子を以て主要費目とす。
 生業に就きて記さんに、農業は約九十一萬箱の耕地を以て小麦、玉蜀黍、大麥、オー

ト麥、馬鈴薯、牧草、煙草或は甘蔗、葡萄、柑類等を與へざるに非ず、州の地積の四分の一に達する森林は木材を供せざるに非らざるも、生産の主力たるの名譽は本州に於ても之を牧業、鑛業に歸せざるを得ず、牧業は一千九百二年に於て羊(二六六五、牛(一七四)、馬(四五)、豚(一九)を飼養し、羊の總頭數はオーストラリア六州の首位にあり、鑛業は金、銀、錫、銅等の金屬、石炭、大理石、粘土等の非金屬を採集す、金は一千八百五十一年より一千九百二年に亘りて一千三百五十二萬二千三百六十一、オンス、四千九百八十四萬四千三百三十五、ポンドを産出せり、銀はブロークンヒル地方より出て約百七萬、オンスの産額あり、銀鉛鑛類を合はせて百三十三萬餘、ポンドに達せり、銅は約三十一萬、ポンドなり、錫は開掘(一八七二)以來六百六十六萬餘、ポンドに及べり、石炭鑛は九十七ヶ處にありて五百九十四萬二千一噸(二二〇、六五九八、ポンド)の産出ありき、工業は約三千四百の工場を有せり、貿易は本計に於て遠く他州の及ばざる所なるが、輸入は二千六百萬、ポンドに近く、輸出は二千三百餘萬、ポンドにして、主としてイギリス領の地と取引す。

| 地方 | 輸入 | 輸出 |
|---------|-----------|-----------|
| イギリス領 | 二一五一、六九四六 | 一六六七、七七九三 |
| オーストラリア | 一〇九四、九六七五 | 七五六、八九二二 |
| イギリス本國 | 八五七、二三七〇 | 七一〇、二五九六 |
| ニージーランド | 一一九、五四八三 | 六八、〇三五八 |
| 其他 | 七九、九四一八 | 一三二、五九一七 |
| 外國 | 四四五、七二六四 | 六八六、六二五八 |
| アメリカ | 二一〇、五三二七 | 二〇九、二四九五 |
| 其他 | 二三五、一九三七 | 四七七、三七六三 |
| 合計 | 二五九七、四二一〇 | 二三五四、四〇五一 |

又陸上貿易に輸出入全計約七百五十萬ポンドあり、本州の主要輸出品は生毛(七六八萬ポンド)、石炭(一六二)、皮革(二二〇)、肉類(六一)、熟皮(五〇)等にして此の外に金貨(三一一)あり、交通に就きて船舶は一千三十九隻、約十三萬噸あり、船舶の出入は入船に

三千百六十四隻、四百三十九萬噸ありて出船に三千二隻、四百三十三萬餘噸あり、イギリス船其の大部を占む、而して港の主要なるはシドニー、ニューカッスル、ウロンゴン、エデンなりとす、道路は八萬六千八百軒あり、鐵道の發達は未だ著しからず。

處誌 シドニー(五〇、九〇〇) 南緯三三度五一分二四秒 東經一五一度一一分二四秒 は本州の首府にしてオーストラリア最舊の市街たり、ジャクソン港の南岸に位置し天然の良碇泊地を有す、されば出港船舶の如きは約二百六十七萬噸に達して貿易盛なり、市街は本大陸の他の新市に比すれば不規則にして風色佳なるが、公署、博物館、公園等見るべきものあり、バルラマッタ(二、二六〇〇)はシドニーの西に位す、ウロンゴンはシドニーの南方に於ける港にして石炭、酪類の輸出多し、グールブルン(一、〇六〇〇)はジョージ湖の北東に當りて海拔六百三十一米突に位し、農産物を集散す、エデンはツァーフォルド灣に瀕してシドニーに次げる良港を有せり、ボムバラはエデンの西北西にありて住民は一千人に達せざるも、聯邦首府の一候補地たり、ニューカッスル(一、三〇〇〇)はハンター河の口にありて石炭、生毛を輸出するが、本州第三の都會にして、シドニー以北の主港たり、グラフトンはクラレンス河に沿ひて農産、畜産を集散す。

アルバリイはマルレー河に瀕し舟運の便あり、人口は約六千なるも附近の地は葡萄、煙草等を産し葡萄酒の製造行はる、デニリキンは牧業地にありてマルレーの派流に沿へり、ヘーはムランビデー河畔にありて牧地を控ゆ、ワッガワッガも亦ムランビデーに沿ひ海拔二百二十五米突にあり、人口は五千餘に過ぎざるが蓄産を集散し葡萄酒を製す、ツムツはワッガワッガの東微南に當りムランビデーの支流を帶ぶ、住民は一千四百に達せざるも聯邦首府の一候補地たり、ヤッスはジョージ湖の北西、海拔五百五米突にありて河に臨み、農産地にあり、バサルストはマクカリイ河の上流、海拔六百五十六米突に位して小麦の産地にあり、人口は九千餘に達せり、オーレンジはバサルストの北西にありて亦小麦の産地に位せり、マッデーはバサルストの北に當り産金地にあり、タムウォルスはナモイ河の上流に臨む、住民は五千八百人なるが附近の地は農、牧、鑛の三業行はる、プールクは家畜、銅の産地にありてダールリングの左岸、海拔七十五米突に位す、ウエントウォルスはダールリング河とマルレー河との會流する處、海拔四十六米突にあり、航行上の一要地にして附近は牧畜行はる、プロロクンヒル(二、七五〇〇)はダールリング河の西にありてシドニーを距ること一千三百軒

なり、オーストラリア第一の銀産地たり、シルバルトンはプロロクンヒルの北西に位し亦銀を産す。

クインズランド

クインズランド州は大陸の北東部を占む、北はカーペンタリア灣、トルレス海峡に臨み、東は太平洋に瀕し、南はマクフェルソン山脈、ヅマレスク河、マシントアイア河、南緯二十九度の緯線を以てニッサウス、ウエールスと境するが、又百四十一度の子午線及び南緯二十六度の緯線に依りてサウス・オーストラリアより區劃せらる、而して西は百三十八度の經線に限られて北領土と連なれり、長さ約二百百軒ありて幅は凡そ一千六百軒あり、面積は六原州中の第二位にありて我が國の約四倍に相當す、海岸に就きては大礁堤を控ゆる東部にはモレトんに次ぎてヘルベ、ケッセル、ボーウェン、デニンソン、ロッキンガム等の港灣あり、カルペンタリア灣の東岸にムスグレープ等あり、岬、崎にはヨーク半島に於けるヨークの外にフラッテリー、カプリコルン、サンデー等あり、島嶼は少なからずして太平洋にはサンド、プロロク、モレト、ングレイト、サンデー(フラザイ)ヒンチンブルーク等あり、トルレス海峡にプリンス・オブ・ウェールス、木曜等あり、カルペンタリア灣にモルニングトン等あり、主山脈

は略ぼ海岸に並行して東ドラヌエノンド、西ワルレゴ、キルビー、グレゴリーに支脈を分派するも一千五百米突に達するものなく、沿岸山脈はヨーク半島よりプリズベ
ン附近に達す、此の如くにして地勢上、沿岸地、山岳、高臺地、内部平原の三部に分か
るゝことニ、サウスウエールスの如くなり、河。流は四系に属す、カーペンタリア灣斜
面にグレゴリー、フリンダース、ノルマン、シルベルト、ミッチェル、パタビアの諸流あり、太
平洋斜面にノルマン、ヘルバルト、フルデキン、フットロイ、ブルネット等あり、ダーリン
グ系の河流にマシントアイア、パロンネ、コンダマイン、ワレゴ等を見るが、閉塞地には
クーパールス、クリーク、ダミエンチナ(ムエルラー)等あり、沼湖には著しきものなし。
氣候に就きては本州の北半が熱帯内に位せるにも拘らず、氣温は南部に比して
炎熱ならずして熱風氣温の激變の如きは之を感ぜず、一年の大部は天氣晴朗にし
て空氣乾燥なり、而して沿海地は高温多濕なるも内部の平原は高温乾燥にして、南
部、西部の高地に於ては霜及び寒風を感ず、雨量は沿海地のプリズベーンに於ては
百二十七籽なるも、海を距る四十八籽のギムビーに於ては約百十二籽、百十三籽の
ネボは五十三籽、二百五十七籽のサブリングスアは四十三籽を示せり、植物はニ、

サウスウエールスに比すれば頗る異なりて、オーストラリア固有のものに加ふるに
熱帯的のものを以てせり、ミルラー氏に従へば熱帯的のものは三千七百五十三種
ありと云ふ、動物には殊に顯著なる差異あるを認めず。

住民に關して人口は一千九百二年に於て五十一萬五千人に近くして十方籽三
人の割合を示せるが、前年の人口五〇、三二六六中、大部はイギリス人之を占め、ドイ
ツ人(一、三一六三)、ポリネシア人(九三二七)、支那人(九三一一)、日本人(二二六九)等の數は
多からず、土人は六千六百七十人なりき、移民には來住に約三萬四千人、往住に約三
萬五千人あり、宗教には國教なきもキリスト教徒最も多く、マホメット教徒、ユダヤ教
徒等は合はせて三萬に達せず、教育は近來好況を呈し初等教育に一千八校、中等教
育に十校あり、私立學校は百八十校あり、此の外に若干の實業學校あり、
政治に關しては議會は上院議員三十九人及下院議員七十人より成り、知事は行政會議
議員七人に依りて補助せらる、地方は三十一「ポロー」(市)、七「シニア」(村)、百二十二「デビジョ
ン」(區)に分たる、財政に就きて本州は比較的に多額の公債を有し其の利子の如きも少
なしとせず。

生○業に就きて述べんに州の約二分一は天然林に屬せるが、牧○業は一千九百二年に於て羊の七百二十一萬餘頭を始めとし、牛(二五四)馬(四〇)豚(八)等を飼養せり、農業は約十九萬三千五百柏の耕地を以て玉蜀黍、麥類、馬鈴薯、牧草、甘蔗、バナナ、パイナップル、柑類或は煙草、珈琲、アロウワット等を栽培せり、鑛業は金の發見(一八五八年)以來千六百五十三萬三千五百五十五オンス、此の價格五五四七、二三一四(ポンド)を産せしが、此の外に銅(一九萬ポンド)、錫(二二)銀(七)滿俺(一七)等あり、石炭は約五十萬噸を出だす、貿易は輸入に七百三十五萬ポンドあり、輸出に九百十七萬ポンドあり、孰れもビクトリア、ニッソーウス、ウヰールスの如き第一流の州に及ばざるが、取引は主としてイギリス領の地と營めり、

| 地 方 | 輸 入 | 輸 出 |
|---------|----------|----------|
| イギリス領 | 六四二、九七六四 | 八八一、八五一七 |
| イギリス本國 | 二四九、六八五一 | 二七三、六六三二 |
| オーストラリア | 三六八、五八四六 | 五〇六、五六三七 |

| 其 他 | 外 國 | 合 計 |
|----------|---------|----------|
| 二四、七〇六七 | 九二、二七七四 | 七三五、二五三八 |
| 一〇一、六二四八 | 三五、二五〇六 | 九一七、一〇二三 |

主○要○貿○易○品○を萬ポンドを單位として示せば、輸出品に金(二四六)、肉類(一五六)、生毛(二三)、砂糖(九三)、皮革(六〇)等あり、輸入に織物及び被服(一四三)、金屬及び金屬品(九六)あり、交通上船舶に二百六十九隻、二萬五千餘噸ありて主要なる港はブリスベーン、ロックハム、ブトン、タウンズビル、マリィポローの四なるが、出入船舶の噸數はタスマニアを除きオーストラリア諸州の末位にあるも、鐵道は四千五百餘軒を以て延長の點より見ては第三位に數ふることを得。

處○誌 布リスベーン(二二、〇〇〇)南緯二七度二分八分はクインズランド州の首府にしてシドニーの北八百五軒、ブリスベーン河を溯ること四十軒にあり、吃水六米四以上の船は此の地に達す、市内には政廳あり、植物園、公園あり、イブスウッチ(一、五二〇〇)はブリスベーンの西四十軒、ブレメン河河畔にありて氣候人身に適す、附近の

地には農業行はるるが石炭も亦産出す、ギムビー(一、四四〇〇)はプリンスペーンの北百八十七軒にありて、マリイ河に瀕し産炭地にあり、マリイポロー(一、二九〇〇)はギムビーの下流に位し河口を距ること四十軒にあり、砂糖、木材等を輸出す、ホーワード即ちブルラムは石炭の産地にあり、ブンダベルグはブルネット河の口にありて砂糖、玉蜀黍を輸出す、マウントペリーはブルネット河の北にありて銅を産出す、グラッドストーンは海岸の良港なり、ロックハムブトン(一、九七〇〇)はフットロイ河を溯ること七十二軒に位し附近に鑛産地、牧地を控ゆ、マウントモルガンはロックハムブトンの南西にありて金鑛を以て世に開ゆ、スプリングシアはフットロイ河の上流、ノゴア河の東にありて牧業地に位せり、クレルモンはノゴア河の北方にありて金、銅を産す、マッケーはビオニール河の南岸に於ける港にして砂糖、ラムを産す、ホーウェンはマッケーの北西に於ける良港にしてデニソン港に瀕す、ラベンスウードはブルテキン河の北にありて産金地に位す、チャータースタワース(二、二〇〇〇)ケーブリバーは孰れも亦産金地にあり、タウンズビル(一、五五〇〇)はクワブランド灣に瀕して港を有す、日本領事館の所在地たり、カルドゥエルはロッキンガム灣に臨むが次第に盛況を呈し

つあり、ヘルバートンは錫を産す、カイルンス、ドイグラス港は金産地を控ゆ、ケークタウンはプリンスペーンの北西、一千六百九十軒に於ける海港なり、ノルマントンはカーペンタリア灣斜面にありてノルマン河に沿ふ、東北に當れるクロイドン南西のクロンカリーの金を集散す、ビードンデンはフリンダース河の上流に位す、グリーンデウインデはプリンスペーンの南西約三百二十二軒にありてマシクタイア河に沿ふ、附近に果園、耕地あり、スタントルベはゾマレスク河の上流、錫の産地にあり、ワルウィックはクルゴア河の上流地方、海拔四百五十六米突の地にありて葡萄の産あり、ツィウムバ(一、四一〇〇)はプリンスペーンの西、百六十軒に當りて分水山脈中、海拔五百八十六米突にあり、ローマはクルゴア河の一支に沿ひて牧地にあり、ブラックオールはクインスランドの中心にありてバルクー河畔にあり、バルカルダインは牧地にありてアライス河の澁、海拔二百六十米突に位す、ロングリーチはトムソン河に近し、木曜島はヨーク岬に近き小島にして錨地を有せり。

中部

中部はサウス・オーストラリアの地にして面積は二百三十四萬方呎を越ゆるが、其の九十八萬餘方呎はサウス・オーストラリア本部にして、殘餘は北領土と稱せらる。北はアラフラ海に瀕し、南は亦海に臨むも、其の他の境界は人為的にして、東は東經百三十八度及び百四十一度の緯線并に南緯二十六度の緯線に限られ、西は百二十九度の緯線に依りてウエスト・オーストラリアより區劃せらる。南北は約二千九百八十方呎ありて幅は約一千五十方呎あり。海岸線は三千二百二十方呎に達すべきが比較的顯著なる出入島嶼あり、

| | | | | | |
|----|-----------|---------|-----------|-----------|-----------------|
| 島 | クインズチアンネル | ハイランド | アンソン | ボート・ダーウイン | アリダーマッド リムメン |
| | パンデエメン | ムントノリス | アルンヘム | カーペンタリア | |
| | レイスベード | エンカウンター | セント・ビンセント | コッフィン | |
| | アンキシアス | ストリーキー | | | |
| 海峡 | クラレンス | ヅングス | | | |
| | ブラックステアス | インベスチケル | | | |
| 半島 | クルグ | ヨーク | エーア | | |

| | | | | | |
|----|--------|-------------|--------|-----------|--------|
| 島嶼 | パサルスト島 | メルビル島 | クロッカー島 | エルホー島 | ウエセル諸島 |
| | ビッケル島 | グレート・アイランド島 | カンガル島 | | |
| 地角 | ヘー | フォルト | ドン | ウイバリーフォース | アルンヘム |
| | ジャッファ | ジェルビス | スペンサー | カタストロフ | |
| | ラドストック | アヂ | | | |

山脈に就きては東部の三州に於けるが如く顯著なるものなし、中に就きてフリ
ンダース山脈(セル九〇〇)は南下してロフチー山脈と成り、ガウラー山脈(ノンニン
(六一〇)は六百米突に達するもの多からず、又南東部にはガンビール其の他の息火
山あり、内部にはマクドネル(二四五九)ジエームス等の山脈あり、河は南部にマル
レーの下流ありてアレクサンドリヤ湖に注ぐ、閉塞地のクイバールスクリーク、ワル
ブルトン、フィンケの如きは或は砂礫中に流失し、或は水量に不足ありて殆ど利用し
得べからざるが、北部の印度洋斜面にはローバー(二六二)ビクトリア(六九)ダリー(一
六一)航程を舟にて現はせる者)ビクトリアの外、アリゲートル、アデレード等大船の
湖航に適するものありて、此の地方は本大陸中最も水利ある地方と稱し得べし、沼

湖の多きと大なるとは比隣の諸州に見る能はざる所なるが不幸にして當地方に對して何等の利益をも與へざるは蓋し水分の鹹性水層の乾涸航行の不適當に因れり左に數湖に就きて記す所あらんとす

エーア湖は南北の二あり北エーア湖は大にして長さ約百五十三杆あり湖岸屈曲すクーパールスクリーク、ワルブルトン、カルラコパーの諸流を受くるも水質鹹味を帯び其の水面は海面下十二米突に位せり。

トルレンス湖は南北に走り一群の湖列に依りてスペンサー灣に達せんとす、長さ二百九杆ありて大部の幅は三十二杆あるも時として水は全く消失して一大泥沼に化す。

アレクサンドリナ湖はマルレー河の口に於ける淡水湖にしてアルベルト湖、クローング等と連なれり水層淺くして航行困難なるが其の海と通ずる處即ちマルレーロは殊に通航危険なりとす。

右の外にガイルドネル(長さ一六六杆 幅六四杆)、エベラルド、フローム、アマデウス(海面上一二〇四)等あり、マウントガンビル地方のブリー湖(水深七三)は淡水の火山湖にして風色に富めり。

地勢上當州は東隣の諸殖民地に比肩し得べき山脈を有せずと雖も連綿たる丘陵少なからず肥沃なる平原あり樹木の繁茂せる谷地あり水分を缺ける不毛の地ありて多少變化を呈出せり之を要するに南部殊に南東部と北部とは利用し得べき處なるが中部と雖も地下には鑛物の有用なるものを含まざるに非ず。

氣候は他の殖民地に比すれば炎熱にして十二月一月、二月の三ヶ月間は殊に甚しく、アデレードに於ては數日間日蔭にて四十三度三乃至四十九度一を示すことありと雖も此の他の九ヶ月間は此の如くならずして、人々愉快を感し冬は溫和にして降雨少なからず、北部は熱帯に位するを以て温帶的の氣候は之を臺地に於て盛ずるのみ、空氣は亦乾燥にして雨量少なし而してアデレードに於て六十一種、マウントロフチーに於ては百十六種を示せり、北部にありては南部、内部に比して降雨多く、ポートダーウインの平均は百五十九種なり、内部の多くは十八種に達せずと云ふ。

生物は殆ど特異の狀況を呈せずして他州に比すれば其の種類頗る少なく、殊に植物に於て其の然るを見る而して北部の植物は勿論熱帶的なるが温帶地に於て

アカシアの四十四種、イウカリの二十一種を數ふるに、ニールサウスウールズに於ては前者の百二種、後者の五十四種あり、動物も亦種類に乏しきが、鳥類は比較的によくして、蜜吸鳥、鸚鵡等の類あり。

住民に就きて、人口は一千八百六十三年に於てサウスオーストラリアに加へられたる北領土を合算するも、三十六萬三千(一九〇二)に達せずして、主として支那苦力より成る北領土の住民は四千九百六十八人なりき、土人は三千八百八十八人ありて、支那人は約二千六百人と計上せられたり、海路に依る移民は往住に約三萬九千九百三十人ありて、來住に約三萬六千八百人あり、宗教はキリスト教最も勢力を占め、ユダヤ教、マホメット教、儒教等の信者は頗る少數なり、教育は初等は強制的にして、小學校は七百十六あり、中學校も若干存し、大學はアデレードに設けられ、私立學校に二百二十七あり、此の外に教師の練習學校あるも、讀み書きを知らざるものは百分中一七、五四なりとす。

政治に關して、議會は上院議員十八人、下院四十人より成りて、立法權を握るが、知事は行政府に長として、四大臣及び大審院長より成る行政會議を有す、地方は郡、百戸村、市

村に分たるが、北領土は少許の屬僚に補助せらるゝ、駐在官の支配の下にあり、財政は微力にして、歳入の大部は内地收入、鐵道等より得られ、歳出は土木、鐵道、公債利子を主とす。

生業に關しては、農業は約百二十七萬、稻の地を以て小麦、オート麥、大麥、牧草、葡萄、馬鈴薯、果物林檎、杏、桃、巴旦杏、櫻桃等と、牧業は約四百九十二萬の羊の外に牛(五二二)、馬(四七)を飼養す、鑛業は約五十萬ポンドに價する鑛物を採集せるが、其の過半は銅(三九)にして、殘餘は銀、金の占むる所なりき、貿易は總計一千三百九十九萬ポンドを以て、僅にタフマニアの上に位するのみなるが、主要輸出品は生毛(一〇六)、小麦(七四)、小麦粉(四〇)、銅(三九)にして、取引は主としてイギリス領の地と營む。

| 地 方 | 輸 入 | 輸 出 |
|------------|----------|----------|
| イギリス領 | 五一〇、四五三七 | 六七九、三八三二 |
| オーストラリア殖民地 | 二九六、八一八九 | 四〇一、八四六〇 |
| イギリス本國 | 一九〇、一九九六 | 一九一、一一一六 |

| | | |
|----|----------|----------|
| 其他 | 二三、四三五二 | 八六、四二五六 |
| 外國 | 九六、九二四五 | 九〇、四六八二 |
| 合計 | 六〇七、三七八二 | 七六九、八五一四 |

交通は概して他州に劣れるが、鐵道に三千五十九軒ありて郵便局は僅に七百二あり、電信は八千五百三十三軒の線路と二萬二千五百九十五軒の線條とを有し、船舶は三百三十一隻、五萬三千百五噸にして出船、入船孰れも約百三萬噸なりとす。

處誌 アデレード(一六、五七、二三) 南緯三三度五五分三四秒 東經一三八度三十五分六秒 はサウス・オーストラリアの首府なり、マウント・ロフチー山脈の西トルレンス河畔にあり、市街は二部に分かれ北部は住宅の地なるが、事務街たる南部は街衢殊に整然たり、大學植物園等を有す、グレネルグは首府を距る十一軒に於ける海水浴地たり、ポート・アデレード(二〇、四五八)は當殖民地の主港にして首府の北西十二軒に位せり、外港をセマフォールと云ふ、ガウラーはアデレードの北東に當りて河に瀕し小麦の産地にあり、カブングはライト河に沿ひて銅の産地にあるが亦耕地に依りて圍繞せらる、ポート・

ウエイクフィールドはセント・ビンセント灣の北岸にありてアデレードの北西約九十七軒に位し港を有す、カヂナはヨーク半島の北部に位し附近に銅の産地を控ゆ、ワルラールは銅産地の海港たり、スペンサー灣の東岸にあり、ムーレンタはワルラールの南十九軒にありて銅を産するが亦港を有す、ポート・ビリーはスペンサー灣の北東部に於ける港市たり、ポート・アウグスタはアデレードの北西鐵路四百十七軒にありて大灣に瀕す、港は佳良にして生毛、小麦、銅等を輸出す、クイーリングはアデレードの北百六十二軒にありてブルラ河に沿ふ、附近に小麦の栽培行はる、モルガンはブルラ河とマルレー河との合流地にありて物貨を集散す、グールワはアレクサンドリナ湖に沿へる港なり、ポート・ピクトルはエンカウンター灣の一港たり、ビーチポートはリボ灣りに臨む、南東部に於ける物産の輸出港たり、マウント・ガンビルはアデレードの南東四百六十七軒に當り、火山質の土壤より成れる農産地に位す、附近に有名なるブリッパ湖あり、(以上南緯三十三度 東經一三九度) トラリア 南緯三十三度 東經一三九度 はポート・ジャクソンに瀕す、北領土の首府にして交通上の要地たり、港は佳良にして大さ及び必要の點より見れば、ポート・ジャクソンに次げるが一千八百七十五年以來自由港たり、サウス・ポ

トはバルマーストンの南三十九軒ブラックモリア河の畔にあり、商業今は振はず、パインクリークはバーマーストンの南二百四十一軒に位す(領土北)。

西部

西部即ちウエストオーストラリアは東經百二十九度以西の地にして、東はサウスオーストラリアに接するも、北西南の三面は海に瀕す、南北約二千軒ありて東西は約一千二百九十軒あり、面積は約二百五十三萬方軒にして、聯邦の最大州、オーストラリア大陸の約三分の一、我が國の凡そ六倍に當れり。
海岸は數多の出入ありて、海岸線は約四千八百三十軒に及び、珊瑚礁の圍繞する處も少なからざるが、島嶼の數亦乏しからず、而して良港と稱すべきものは寧ろ稀にして、ケムブリッジ、キングスランド、シアクス、キング、ジョージズランドの外は主風の方角、潮流、水深等の關係よりして、價値少なし。

- ケムブリッジ灣 アドミラルチー灣 モンターグズランド ヨークズランド
- ブランスキック灣 コリール灣 キングズランド ルーブック灣

海灣

- シアクス灣 ジェオグラフィー灣
- キンダジョージズランド ダウトフル灣

海峡

サンデー海峡 ジェオグラフィー水道 ナチャリスト水道 南通路

島嶼

- シャンパニー島 アウグスツス島 ブッカネール群島 バルロー島
- ドルレ島 チルクハルトグ島 レチエルチ群島

半島

ダムビエルランド ペロン エデルランド

地角

- 北西 インスクリプシオン スチープ ナチャリスト リーウキン
- ホーエポールドヘッド ノーブ アリッド

山岳は其の高さ著しからずして六百米突を超ゆるもの少なく、一千二百米突の上に出づるものは殆ど皆無なり、中に就きて稍主要なるものを北より順次記せば、

- キングレオポルド山脈 リーク
- ハムメルスリー山脈(八四三) ロキヤ(一一二一九) ブルース山(一一五二)

バルリー山脈 アウグスツス山(一〇九四) ラブリー山(一〇四〇)

ニコルソン山脈(六六〇)

ダーリング山脈キリアム(一一二二)

スタリング山脈エレン(一〇四二) カイエネルフ(二〇六七)

ダーリング山脈は西岸に沿ひて畧ぼ南北に走ること約四百八十軒にして、海を距ること二十九軒乃至三十二軒なり、其の傾斜は西方に急なりとす

河○流は若干の例外あるも一般に雨季にのみ奔流し、其の他の時期にありては全く乾涸し或は僅に水を有するに過ぎずして、南流するものには殆ど記すに足るものを見ず、

北面 オルド・フイツロイ ドグレー フォルテスクー(三二〇) アシパルト

ン(三二〇)

西面 ガスコイヌ ウーラメル マルチソン スワン ブラックウード

スワン河はダーリング山脈の東部に發す、北方に向ひてノルタムに至るや方向を西に轉じ、次第に南西流してフリーマントルに於て海に入る、其の長さは長から

ざるも南西部に於ける唯一の航河にして、河口より十九軒の地にあるベルスは勿論、尙ほ十四軒の上流なるギルドフォードまで汽船の便あり。

湖○沼は地圖上に於て多く之を見るも、彼等は概ね平素は水層を缺き、豪雨の後に於てのみ數種の水を以て溢はる、鹹沼に過ぎず、中に就きて面積の稍々大なるものを記せば東境に近きマクドナルドの外に、湖沼地方にはカレイ、ブレイラン、パルリー、レフロイ、コワン、アウスチン(海面三〇)等あり。

地○勢は一般に廣大なる平原を爲せるが、海岸には連綿たる丘陵あり、内部にも亦孤立せる丘陵、凹地なきに非ず、殊に内部に至るに従ひ不毛の地ありて、グレートサンデー、キブソン、グレートピクトリアの如き茫漠たる沙漠の存するを見る、而して北部のキムバリー地方は海岸より若干の距離の間は嶮岨にして殆ど内部に入るを許さず、北西部のアシパルトン及びドグレー河の間は約三百軒の内部まで連続せる數臺地より成れり、又南西部の海に近き地は概ね平坦の沙地にして、主として舊珊瑚礁の殘碎より構成せらる。

氣○候は最も佳良なる地方に數へらる、北部は勿論熱帶的なるも、海岸の中部はイ

タリアに似南西部亦極寒極暑を感ずること稀にして雪は之を見ず、氷は冬の中期に於ける早朝にのみ之を知る、ベルムに於ては三十七度七に達すること屢々あるも、〇度以下に下ることは殆どなし、此の地方の一年は乾四月―十月、濕十一月―三月の二季に分かれ、雨量は約九十二糎なれば、空氣は頗る乾燥なりと云はざるべからず、乾季と雖も時に驟雨、雷雨ありて存す。

生物は頗る特異なる事實を與ふ、植物はオーストラリアの南東部に比すれば種類稍々多く「ヂュラ」(Djarrah) (Euclytus marginata) 「シロトノキ」(Eucalyptus gomphosphala) 「カリ」(Parr) (Eucalyptus Colossea) 白檀「アカシア」等あるも本大陸の他の部に普通なる「莖菜」(Viola) 「ポリガラ」(Polygala) 「ハンタリス」(Euparis) 「シロネ」(Lycopus) 「スマランクス」(Smilax) 等を缺けり、且又禿禿不毛の地多きも處々に植物の最も變化し美麗なる集合を爲せるを見る、動物は種に富めるに非らざるも亦頗る特殊なるものあり、食蟻獸 (Myrmecobius fasciatus) の如きは此の地に於てのみ見る所なり、此の外「マッリチ」(Aburichu) 「ゲオフシタ」(Geopsittacus) 哺乳類、鳥類、兩棲類の殆ど全部は他に比類を有せず、礦物には金、銅、鉛、鐵等あり。

往民に就きては、一千八百二十九年初めて殖民せられし後、罪人の流謫等ありしも、人口は尙ほ一千九百一年に於て八萬四千にして、百方軒平均八人を得るに過ぎず、然れども之を一千八百九十一年の人口四、九七八二に比すれば、十年間の増加は此の地としては大なりと云はざるべからず、移民は一千九百二年に於て、來住に約三萬七千九百人ありて、往住に約二萬一千あり、宗教は基督教最も勢力を有し、ユダヤ教、マホメト教等の信者は少なし、教育は強制的なるも、公立に二百四十五校、補助學校に八十ありて、十五歳以上の白人の中、約三七は讀み或は書く能はず。

政治に就きて政務は知事、立法會議議員三十人、立法集會議員五十人に委任せられ、知事は内閣七人に依りて補助せらる、地方は分ちて三十八區とす、財政は歳入に約三百六十三萬、ポンドありて、歳出に凡そ三百五十二萬、ポンドあり、孰れもクインズランドと伯仲の間にあるが、公債に對する支出は全歳出の半に近し、而して歳入百分中、三十五は關稅及び國產稅より來り、四十は鐵道より、殘餘は郵便、鑛山等より得らる。生業に關して農八六〇七、牧二二七九、林二二七七、鑛一九八三八の諸業に従事するもの約三萬五千六百人あり、農業は小麦、オート、麥、犬麥、玉蜀黍、牧草、馬鈴薯、果物等

を與へ、牧業は約二百七十萬の羊の外に山羊一、三、牛四、四、豚五、三、駱駝等を飼養し北部の河域には約八百十萬箱の良牧地ありと云ふ、林地は約七十萬方箱に過ぎざる有用なる木材を産せざるに非ず、鑛業は二百二十萬七千四百五十六、オランダの金の外に多少の銀、銅、錫、石炭(八十六萬圓)を採掘す、貿易は輸入に七百二十二萬、ポンド弱、輸出に九百五萬、ポンド強ありて六州中の中位にあり、主としてイギリス領の地と取引すること他州の如し、

| 地 方 | 輸 入 | 輸 出 |
|-----------|----------|----------|
| イギリス領 | 五八五、五三一四 | 八四五、四一八六 |
| イギリス本國 | 三三五、〇六四四 | 四三六、四九一〇 |
| オーストラリア諸州 | 二〇四、六七〇一 | 七九、八七五〇 |
| ニージーランド | 二七、四三〇二 | 五四一五 |
| 其他 | 一八、三六六七 | 三二八、五一一一 |
| 外國 | 一三六、三〇三八 | 五九、七一七二 |
| 合 計 | 七二一、八三五二 | 九〇五、一三五八 |

主要輸出品は金(三三三萬、ポンド)、木材(五九)、生毛(四六)、眞珠介(一四)にして、皮(九)、白糖(六)、眞珠(四)等は著しからず、交通は概して發達せず、鐵道に三千五百軒足らずあり、郵便局は二百に及ばず、電信は九千八百餘軒を有し、線條一萬四千六百餘軒あり、船舶は二百二十七隻、一萬二千五百二十噸弱ありて、其の出入は各々百六十七八萬噸とす。

鹿^〇 鹿^〇 ムル^〇 ムル^〇 ス(二、七五五、三)東^〇 東^〇 一、一五五、五〇分二五秒は當州の首府なり、スワン河を溯ること約十九軒の地に位し、主街は長さ三千二百軒あり、市内には建築の見るべきものあり、住民は近郊に於けるものを加へば約四萬四千四百あり、フリースト^〇ント^〇ル(二、四七〇、四)はスワンの河口に於ける港なり、港形佳良ならずして北風を受くるの恐ありと雖も、河口を距る十九軒のロットネスト島に避泊し得べし、市外の人口を合算せば住民は凡そ二萬三千ありとす、ギルト^〇ン^〇ドは首府の上流十軒に位し、耕地葡萄園に依りて圍繞せらる、ヨークはベルスの東方九十七軒にありて、白

植農産品の産地にあり、ペナルリはヨルクの上流に位せり、ブンパリーはネリ
 マントルの南方に於ける港にして、木材、白檀、錫、馬等を輸出す、アルボニー(三四三五)
 はキングジョージズランドに瀕する良港なり、グリーンノフはベルスの北四百四軒農産
 地にあり、ケラルドトンはグリーンノフ河口の北に位する港なり、生毛、小麦、銅、鉛を輸
 出す、ノルサムプトンは鉛、銅の産地にあり、エウクラは同名の地方にありて、オース
 トラリア大陸に瀕し、サウスオーストラリアとの境に位す、クールガルデー(三八三
 〇)ガルグーリ(六七八〇)カノウナ、メンジース、ブールデー(五六五八)は孰れ湖沼
 地方の産金地にあり、カルナルボンはガスコイヌ河の口に位せる港なり、ルーブル
 スはベルスを距る一千九百三十軒、シェルロック河の濬に位置す、コッサクはルーブル
 を距る十三軒、真珠採集の中心たり、デルビーはカムパリー地方の主要地にして
 キングズランドに臨めり、ウインドハムはケムブリ、デ湾に於ける港にして、漸次隆盛に
 赴く、ハルスクリークはフットローイ河の上流に近き産金地にあり。

タスマニア

タスマニアは始めの名をバンヂエメンランドのオランダ領東印度と云ふが、一千
 六百四十二年オランダの航海家タスマンの發見に係るを以て、一千八百五十六年
 より今の名を以て呼ばる、本島は南緯四十度四十分及び四十三度三十八分の間
 ありて、北はバス海峡を以て南大陸と境し、東はタスマン海、西は印度洋に瀕せり、島
 形は不規則なる三角形を爲し、南北三百二十軒あるも、東西は稍々之より短し、面積
 は屬島四千六百六十二方軒を加へば六萬八千七百七方軒(ワレリス氏)なりとし、ホ
 フカレデーは六萬七千八百九十四方軒とす、要するに約六萬八千方軒にして、我が
 國の凡そ六分一に過ぎざるなり。

海岸は西部、北部に比較的單調にして、マクカリイ港或はタマル河灣の之を破る
 こと著しきあるのみ、東岸殊に南東岸は出入參差たり、島嶼は五十五ヶあるも、オ
 ストラリアの百尋線に依りて、タスマニア島と共に圍繞せられ、以て舊時の連絡を
 示すものゝ如し。

- ソイエールス灣
- デボンポート港
- エミュー灣
- ソイセル港
- グリーンブル
- 港
- アンデルソン灣
- リンガルーマ灣

| | | | | |
|----|---------|----------|-------------|---------|
| 港灣 | ジョージ湾 | オイスター湾 | マリオン湾 | アンサー港 |
| | ストーム湾 | アルスター湾 | フレア湾 | ヘンリー湾 |
| | サウス港 | レシメルシエ湾 | | |
| | ダベール港 | マクカリール港 | | |
| 海峡 | バス海峡 | バンクス海峡 | ドエントレカストル水道 | |
| 半島 | フレージネット | タスマン | スプリング島 | ロビンソン島 |
| 島嶼 | キング島 | ハンター島 | スリーハムモック島 | マリア諸島 |
| | フルノー群島 | ケイアバルレン島 | マリア諸島 | |
| 岬 | グリム | サトギラト | ボイトラン | セントヘレンス |
| | タスマン | 南岬 | 南西岬 | ソルル |
| | | | | サンザイ |

山脈は東部に於ては海を距ること平均六十四桿の距離を以て走り、平均海拔は約九百米突に過ぎざるが、ペンロモンド(一五二七)バルロー(一四一五)の如きは中に就きて秀抜なるものなり、西部にはサルレイ山脈ありて本島の最高峰たるクレイ

ドル山(一五四五)を頂くが、グレートウエスタルン山脈中にアイヨンストン(一四四四)あり、此の外にローグル(一四三三)、フレンチャムンスカブ(一四五〇)、ワイールド(一四三九)等の西部或は南西部に聳ゆるあり。
 河流の長大なるもの、存する能はざるは素より其の所なるも其の数は頗る多くして中には航行の便を供するものあり
 バス海峡斜面 フォース マルシー マクカリール リンガロマ
 タスマン海斜面 コール デルウエント フオン
 印度洋斜面 ダルマール ゴルドン ビーマン アイサー
 マクカリールは北部の主流なり、下流はタマル河と稱せられて南北の兩エスク河を容れ、ダルリムブル港を爲して海に入るが六百噸の船舶は六十四桿を溯りてラウンセストンに至るを得べし。
 デルウエント河はセントクレリア湖に發し、南東流してウリス、其の水を合はせ、河口は一良港を呈供して海に入る、長さは三百十桿ありてタスマニア島の最長流と稱せらる。

湖沼は其の數少なからずして、デルウエンド河に排水するものを以て大なりとす、即ちグレート湖(面積一四九千平方)、ニコ湖、セントクレア湖(長九一六千)、ソル湖の如き之なり、此等は概ね水層深くして風色に富めり。地勢は山岳に富みて至る處高隆なるが、南東部のみは稍低くして、交通上に利用し得べき豁谷多し、之を要するにタスマニアを以て南方のシワイツと爲すは頗る適評なりと云はざるべからず。

氣候上當地は最も佳良なる一地方なり、氣温は附近の殖民地に比して夏季は涼冷、冬はフランスの南部に於けるが如く溫和なり、ホバートの平均温度は十二度五にして、夏は十六度七を示し、冬は八度三なり、雨量は地方に依りて異なるが、西部は東部より多濕にして、ホバートの平均は六十一釐なり、而して此の市は降雪を見ること稀なり、風は屢々強烈なるも雷鳴を伴ふこと稀なり。生物に就きて記さんに、植物はオーストラリア殊にビクトリアの山岳地方に於けるものに似たるも、顯花植物の一千百種中、二百八十種はオーストラリアの非ず、而してニージーランド、南極地、ヨーロッパ的のものを有するは殊に奇態と云はざるべからず、森林は「イウカリ」(Eucalyptus globulus)、「フオンモ」(Dacrydium Franklinii)等

有用なる木材に富めり、動物は植物に比して尙ほ特徴なり、大陸に決して見る能はざる「トラオホカ」(Thylacinus cynocephalus)「惡魔」(Native devil) (Sarcophilus ursinus) 即ち之なり、亦「エキドナ」(Echidna)あり、鳥類は豊富なるも蛇は三種を數ふるのみなり。

礦物に關して、臺地、高峰は太古代の岩石、花崗岩等より構成せらる、而して、海峡中の諸島はウルソン岬、タスマニアの北東岸の如く亦花崗岩より成れり、中世界は低丘に見る所にして、オーストラリアに於けるよりは寧ろ普きが如し、第三紀層は大なる谷及び平原にありて、南部には淡水的の石灰岩あり、第二紀の砂岩は良建築材たるべく、處々に發見せらる、石灰は太古代、中世代のもの、と考へられ、其の質良好なるものあり、金は南大陸に於ける如く石英脈に存す、鐵は北岸、其の他に豊富なりとす、此の外に錫、アンチモン、滿庵、黑鉛等の埋藏あり、家屋用の粘板岩も發見せらる、殊に斑岩及び綠岩は多くの高臺に起るが、南或は東オーストラリアに於けるが如き、眞の火山錐或は熔岩流の存在を認めず。

タスマニアは一千八百四年に始めて罪人の流謫地と成り、移民と土民との間に

爾來爭鬭ありしが、一千八百三十二年以後に至りては之を見ずして、一千八百五十二年流調制度の廢止あり、一千八百二十五年まではニューサウスウエールズの附屬地たりしも、此の年住民の請願に依りて別に一殖民地とせられ、更に一千八百五十五年及びて憲法的政府の設立ありしなり。人口は一千九百二年に於て十七萬七千餘人ありて十方軒平均二十五人の割合なり、而して前年の住民一七、二四七五を出生地に従て區別せばタスマニア(一三、六六二九)、イギリス(一九八一五)、オーストラリア殖民地(二、二五二六)、ドイツ(七七三)、支那四八四の順と成り、當初五千人以上ありし土人は一人も生存するものあるなし、移民は南大陸に於けるが如く年に依りて増減あるも、往住に約二萬四千六百ありて來住に約二萬七千六百あり、オーストラリア大陸殊にビクトリアと關係深し、宗教はイギリス派ローマンカソリック派等の基督教最も勢力あるが、ユダヤ教徒其の他少數の異教信者なきに非ず、教育は一大學、二十有餘の高等なる學校、五百六十四、小學公立三、四九校、三、四、三七六四人等ありて強制的なるが、住民(一九〇二)の二〇、二九は讀み書きを爲す能はざりき。

政治に就きて立法權を司る議會は上院議員十人及び下院議員五十人より成り、行政權を

握る知事は七員より成れる内閣に依りて補助せらるゝが、地方は十八郡に分たる、財政は六原州中最も微力なりとす。

生業 牧業は羊一六八萬頭、牛一八、豚五、二、馬三、三、等を飼養し、其の質概して南大陸に於けるものに比すれば優良なるに似たり、農業は小麦、オートマ、馬鈴薯、牧草等と與ふるが、果物の産亦注意すべきものにして、果物、シヤムの輸出高は約四十五萬ポンドなり、鑛業は金銀、銅其の他石炭(五萬)等を採掘す、貿易の總額は他州の孰れにも如かざるが、輸入に約二百四十四萬、ポンドありて輸出に約三百二十四萬、ポンドあり、亦主としてイギリス領の地と取引す。

| 地 方 | 輸 入 | 輸 出 |
|-------------|----------|----------|
| イギリス領 | 二二五、三二〇五 | 二五一、一五四五 |
| イギリス本國 | 五八、五七五〇 | 六五、四一七四 |
| ビクトリア | 一二七、九〇二一 | 五六、四〇〇三 |
| ニューサウスウエールズ | 三六、八三七八 | 一〇九、八一八七 |

世界地理 おぼろにあ洲 大陸部 タスマニア

| | | |
|----|----------|----------|
| 其他 | 二二、〇〇六六 | 一九、五一八二 |
| 外國 | 八、九五四〇 | 七三、二九六三 |
| 合計 | 二四四、二七四五 | 三二四、四五〇八 |

主要貿易品を示せば輸出に銀三九萬ポンド、生毛二六、錫二四、金一七、木材類八、銅七、果物五、ポプ三、等あり、輸入に羅紗類四六、金物二〇、砂糖一六、器械一〇、等あり、交通に關しては鐵道に九百九十八軒、郵便に三百七十七局、電信に五千五百七十二軒あり、船舶は二百六隻、一萬八千餘噸なるが入船に九百六十四隻、約八十九萬噸ありて、出船は九百四十四隻、八十八萬噸弱とす。

○**處誌** ホーバルト(二四六五五)東緯一四二度五三分はホーバルン或はホーバルトタウンとも云ひタスマニアの首府なり、市街はデルウエント河を溯ること十九軒、ウルリントン山(夏)の頂にも屬々白の麓に位し、風色に富める地にありて清麗なり、巨舶も容易に出入し、商業輸入一、九〇三萬ポンド、輸出一、九〇三萬ポンド、稍々見るべきものあり、ニローフォーク

はホーバルトの上流、ホップの産地にあり、リンガルマは北東部にありて錫の輸出港たり、ジョージタウンはタマル河の口に於ける水浴場なり、ビーコンスフィールドはタマル河の西に於ける産金地にあり、ランセストン(一、八〇七七)は本島第二の都會なり、タマル河の口を溯ること六十四軒、南北兩エスク河の會合地に位す、オーストラリア大陸に近きを以て物貨の集散(輸入九七萬ポンド、輸出二七萬ポンド)少なからず、フィンガルはランセスタンの南東百十三軒、南エスク河の濇にありて石炭の産地に建てり、ウエストバリイはランセスタンの西微南三十二軒にありて羊の産地に位せり、デロレーンはメアデル河に沿ひ農業地にあり、ラトロベはメルシー河の口に近し、亦農業地に位す、デボンポートはメルシーの河口にありて東西の二部に分かる、ウルバーストーンはデボンポートの西に當りてレバン河の口にあり、農牧に適せる地に位し、港は次第に盛況を呈す、ブルニーはエミット灣に於ける一港なり、フラターはビシマフ山の麓にありて錫を産す、スタンリーは北西部に於ける主港なり、コリンナはビーマン河に沿ひて産金地に位す、ジーハン、ゾンダスは孰れも銀の産地にありて、ビーマン河の南に位す、ストラハンはマクカリイ港の北岸に顔し、漸次隆盛に向ひ